

令和2年度郡山市 セーフコミュニティ地域診断

(2021 <R3> .7.19版)

Safe Community

みんなでつくる安全・安心なまち



セーフコミュニティ郡山



地域診断データ一覧

- 1 福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署
「平成27～令和2年版 交通白書」
- 2 郡山警察署・郡山北警察署
「平成26～令和元年 地域安全白書」
- 3 警察庁
「平成27～令和2年 警察白書」
- 4 郡山市保健所
「平成26～30年 人口動態統計(死因帳票)」
- 5 総務省消防庁
「平成27～令和2年版 消防白書」
※救急車両により搬送された人数を使用。
- 6 福島県消防保安課
「消防防災年報(平成27～令和元年版)」
- 7 郡山地方広域消防組合
「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」、「平成26～令和2年救急搬送データ」
※「急病」、「医師搬送」、「転院搬送」、「資器材等」及び「その他」は除く。
- 8 郡山地方広域消防組合
「2015～2020消防年報こおりやま(平成26～令和元年版)」
- 9 こども家庭相談センター
「平成26～31年度 相談等の取扱件数推移」
- 10 厚生労働省
「平成26～令和元年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
- 11 内閣府男女共同参画局
「配偶者暴力相談支援センターにおける相談件数等(平成26～令和元年度分)」
- 12 厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署
「平成26～令和元年 労働災害発生状況」
※郡山労働基準監督署管内で田村市、田村郡、本宮市、大玉村を含む。鉱業は除く。
- 13 平成26年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「平成26年12月実施」
- 14 平成28年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「平成28年10月実施」
- 15 平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「平成30年10月実施」
- 16 令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査結果
「令和2年10月実施」

もくじ

分野1 交通安全	8
(1) 交通事故の発生推移状況	
(2) 交通事故による死傷者数推移状況	
(3) 交通事故を要因とした救急搬送者推移状況	
(4) 交通事故を要因とした救急搬送が占める割合	
(5) 交通事故を要因とする救急搬送の年齢層別割合	
(6) ア 時間別－交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 イ 曜日別－交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 ウ 月別－交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数	
(7) 交通事故による救急搬送発生場所	
(8) 自転車乗車中の死傷者数	
(9) 県内の自転車乗車中事故の死傷者数で郡山市が占める割合	
(10) この一年間に他の人が運転する自転車に危険を感じた(または事故にあった)ことについて	
(11) 交通安全活動の取組状況	
分野2 こどもの安全	16
(1) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された新生児～乳幼児(0～6歳まで)の推移	
(2) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された少年(7～17歳まで)の推移	
(3) 救急搬送されたこどものけがや事故の種別	
(4) こどもの救急搬送場所	
(5) 住宅から救急搬送されたこどものけがや事故種別	
(6) 住宅から一般負傷を要因に救急搬送されたこどものけがや事故の小分類場所	
(7) 児童虐待の相談件数推移	
(8) 児童虐待種別の各年の割合	
(9) 児童虐待種別ごとの推移	
(10) こどもの安全活動の取組状況	
(11) 児童相談所への連絡(報告義務について)	
(12) こどもの虐待に関する講習会の参加の有無	
(13) 虐待に関する講習会への参加意欲	
分野3 高齢者の安全	23
(1) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された高齢者(65歳以上)の推移	
(2) 救急搬送された高齢者のけがや事故の種別	
(3) 高齢者のけがや事故による救急搬送発生場所	
(4) 住宅から一般負傷で救急搬送された高齢者の男女別発生場所小分類	
(5) 一般負傷による救急搬送の年齢別重症度率	
(6) 傷病及びその他の外因による年代別死亡者数	
(7) 65歳以上の傷病及びその他の外因による種別ごとの死亡者数	
(8) 窒息による年代別死者数の割合	
(9) 高齢者の権利擁護における相談件数推移	
(10) 高齢者の安全活動の取組状況	
分野4 自殺予防	28
(1) 全国・福島県・郡山市の自殺者数推移	
(2) 自損行為による救急搬送者数推移	
(3) 郡山市の自損行為による救急搬送者推移	
(4) 自損行為を要因に救急搬送された男女別の割合の推移	
(5) 自損行為を要因に救急搬送された年齢層別割合	
(6) 自損行為を要因に救急搬送された性別年齢層別割合	
(7) 自損行為を要因に救急搬送された月別件数	

- (8) 自損行為の救急搬送発生場所
- (9) 自損行為の住宅内での救急搬送発生場所
- (10) ア 時間別—自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数
イ 曜日別—自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数
ウ 月別—自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数
- (11) 郡山市の傷病及びその他外因ごとの死亡者数推移
- (12) 年齢層別・男女別自殺者数
- (13) 自殺・暴力・虐待の予防活動の取組状況

分野5 防犯

…………… 37

- (1) 刑法犯認知件数の推移
- (2) 凶悪及び粗悪犯認知件数合計の推移
- (3) 加害を要因とした救急搬送推移
- (4) 加害を要因とした救急搬送の年齢階層別構成
- (5) 加害を要因とした救急搬送の男女別構成
- (6) 加害を要因とした救急搬送の男女別の救急搬送場所
- (7) ア 時間別—加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数
イ 曜日別—加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数
ウ 月別—加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数
- (8) 10万人あたりの配偶者によるDV(ドメスティック・バイオレンス)相談
- (9) 郡山駅前の違法客引き等への印象
- (10) 違法客引き対策パトロールについて
- (11) 住宅街への防犯カメラ設置に対する印象
- (12) 車へのドライブレコーダー設置に対する印象
- (13) 防犯活動の取組状況

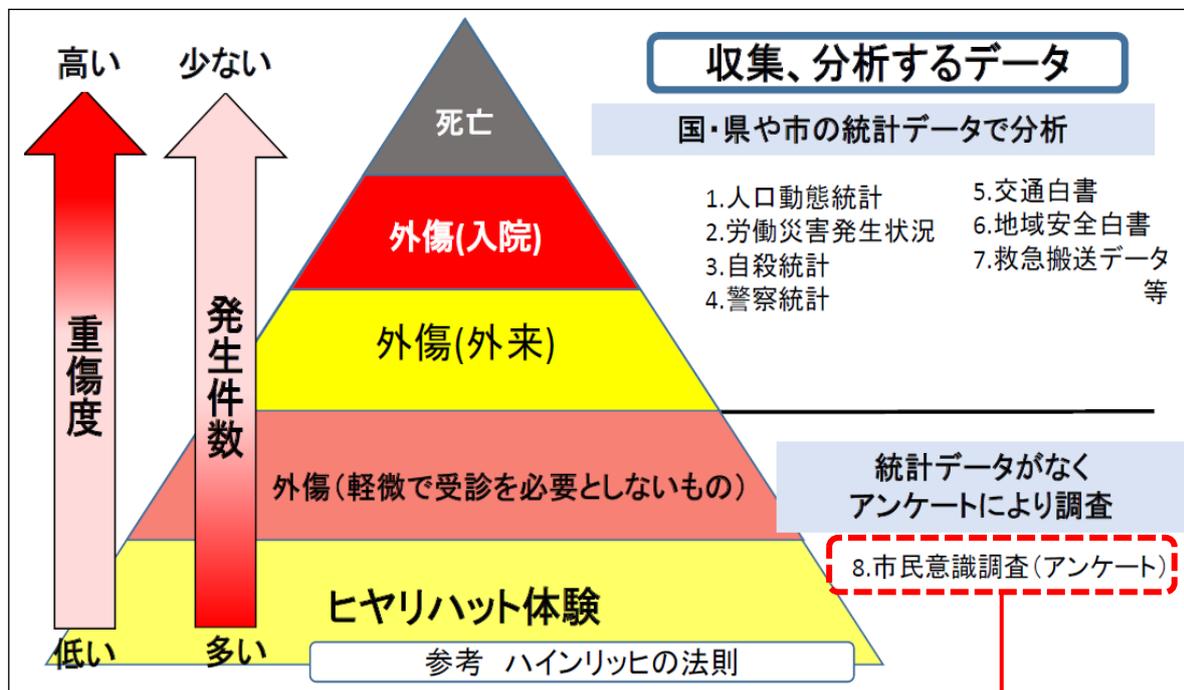
分野6 防災・環境安全

…………… 45

- (1) 火災を要因とした救急搬送推移
- (2) 郡山市の出火件数と死傷者数の推移
- (3) 郡山市地域ごとの出火件数と死傷者数
(参考) 郡山市地域ごとの出火件数あたりにおける死傷者率と平均損害額
- (4) 郡山市の出火発生場所について
- (5) 郡山市の出火発生原因について
- (6) 郡山市の月別火災発生件数
- (7) ア 時間別—火災による時間・曜日・月別救急搬送者数
イ 曜日別—火災による時間・曜日・月別救急搬送者数
ウ 月別—火災による時間・曜日・月別救急搬送者数
- (8) 全国・福島県・郡山市の労働災害による死傷者数推移
- (9) 労働災害を要因とした救急搬送者数推移
- (10) ア 時間別—労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数
イ 曜日別—労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数
ウ 月別—労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数
- (11) ア 時間別—郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数
イ 曜日別—郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数
ウ 月別—郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数
- (12) 郡山市の男女別労働災害による死傷者数
- (13) 郡山市の休業見込み期間別労働災害による死傷者数
- (14) 郡山市の年代別労働災害による死傷者数
- (15) 郡山市の経験年数別労働災害による死傷者数
- (16) 郡山市の労働者数別労働災害による死傷者数
- (17) 郡山市の事故の型別労働災害による死傷者数
- (18) 郡山市の起因物別労働災害による死傷者数
- (19) 業種別労働災害発生状況
- (20) 防災活動の取組状況

地域診断について

地域診断は、郡山市におけるけがや事故の状況を明らかにするため隔年で実施しています。第4回目となる今回は、これまでに収集した統計データを引き続き更新し、新たに6分野の対策委員会(交通安全、こどもの安全、高齢者の安全、自殺予防、防犯、防災・環境安全)から提示された必要なデータのアンケート調査結果等を追加します。また、地区・地域ごとの更なるセーフコミュニティ活動の推進に役立つデータ集とするため、地区・地域ごとのデータも追加します。



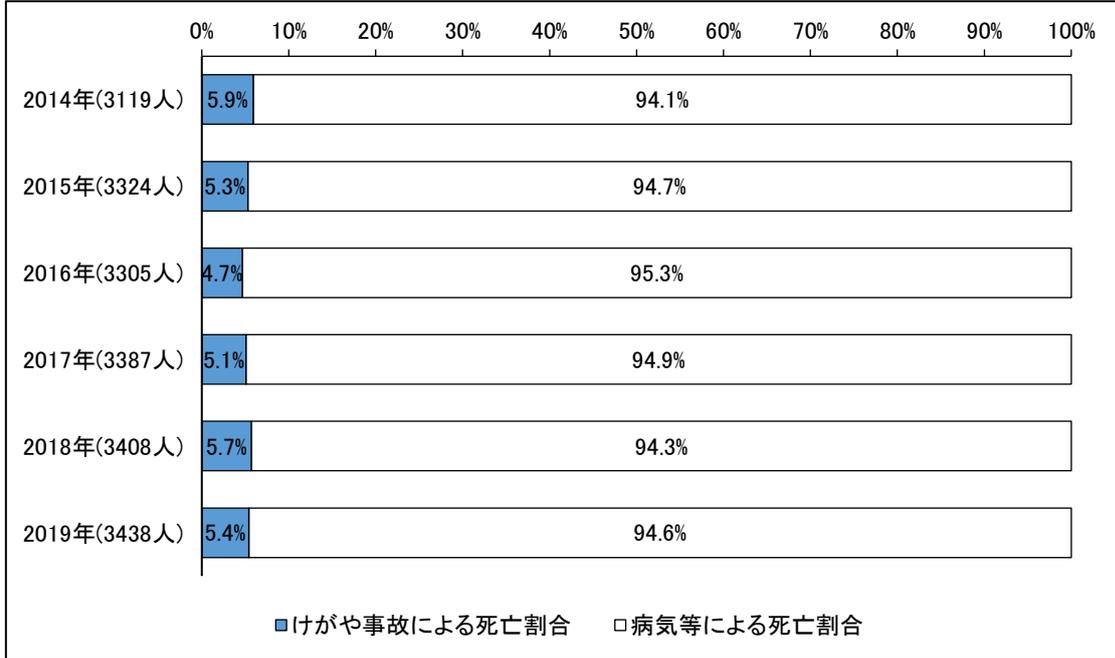
- 1 調査の時期
令和2年10月26日(月)～11月20日(金)
- 2 調査の対象
 - ・郡山市に在住の住民を無作為抽出
 - ・世帯調査：4,000件
 - ・個人調査：各世帯に対し、1～3枚配布し約8,400人
(個人における成人数を調査し、最大3人までとして個人票を送付)
- 3 アンケート回収数

世帯票	1,368件 (H30年度は1,238件)	回収率34.2%
個人票	2,284件 (H30年度は2,054件)	回収率27.2%

郡山市のけがや事故が占める死亡割合

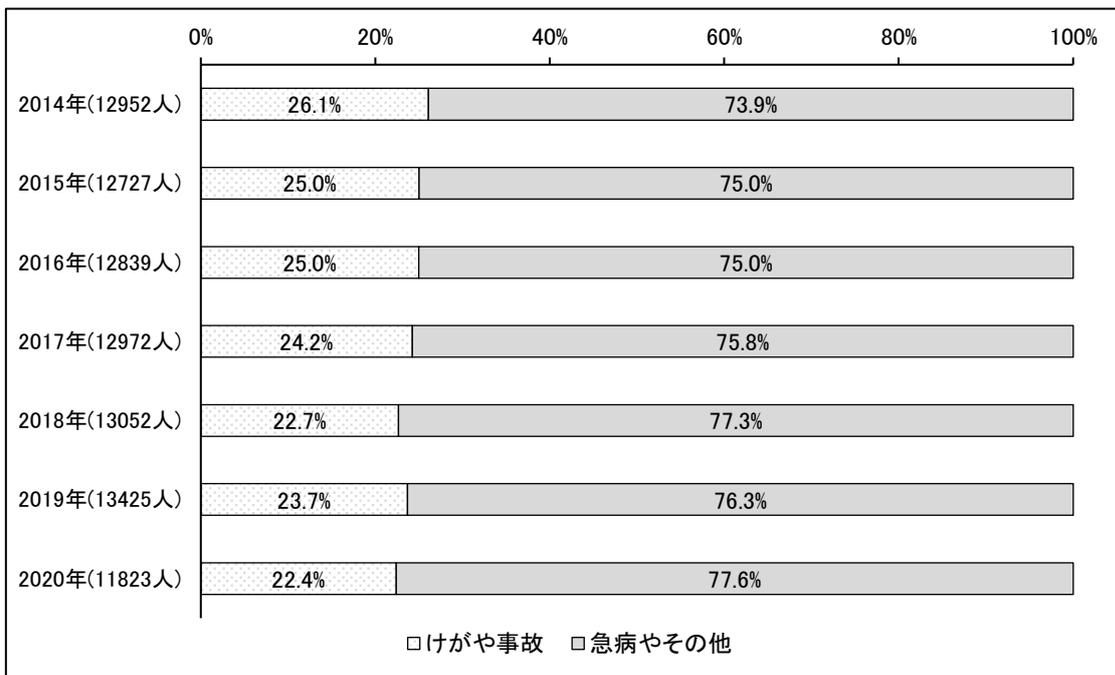
セーフコミュニティは、「けがや事故」を予防することを目的としている。

人口動態統計によると、9割以上が病気による死亡である。
けがや事故が要因で亡くなる方の割合は、微減傾向だったが、2016年以降は再度増加傾向にある。



郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

救急搬送データの場合は、7割以上が急病やその他である。
けがや事故による救急搬送は、毎年25%程度となっているが、減少傾向にある。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

郡山市の人口

2018年1月1日現在

年齢	男	女	合計	構成率	構成率10歳毎		構成率現役世代等	
0-4	6,856	6,478	13,334	4.1%	0-9	8.2%	未成年 0-19	17.8%
5-9	6,966	6,526	13,492	4.1%	10-19	9.6%		
10-14	7,541	7,249	14,790	4.5%	20-29	10.5%	現役 世代 20-64	57.2%
15-19	8,410	8,000	16,410	5.0%	30-39	12.5%		
20-24	8,742	7,911	16,653	5.1%	40-49	14.4%		
25-29	9,082	8,342	17,424	5.3%	50-59	13.0%		
30-34	10,242	9,388	19,630	6.0%	60-69	14.4%		
35-39	10,828	10,286	21,114	6.5%	70-79	9.8%		
40-44	12,330	11,643	23,973	7.4%	80-89	6.2%	高齡① 65-74	13.0%
45-49	11,680	11,225	22,905	7.0%	90-∞	1.5%		
50-54	10,479	10,376	20,855	6.4%	合計	100.0%	高齡② 75-∞	12.0%
55-59	10,811	10,811	21,622	6.6%	合計	100.0%		
60-64	10,928	11,045	21,973	6.7%			年金 受給 世代 65-∞	25.0%
65-69	12,084	12,794	24,878	7.6%				
70-74	8,337	9,094	17,431	5.4%				
75-79	6,338	8,030	14,368	4.4%				
80-84	4,610	7,283	11,893	3.7%				
85-89	2,746	5,446	8,192	2.5%				
90-94	933	2,783	3,716	1.1%				
95-99	161	744	905	0.3%				
100-104	16	102	118	0.0%				
105-109	1	6	7	0.0%				
110-114	0	1	1	0.0%				
合計	160,121	165,563	325,684	100.0%				

※住民基本台帳に基づく人口

2020年1月1日現在

年齢	男	女	合計	構成率	構成率10歳毎		構成率現役世代等	
0-4	6,452	6,278	12,730	3.9%	0-9	8.1%	未成年 0-19	17.4%
5-9	6,979	6,420	13,399	4.1%	10-19	9.3%		
10-14	7,257	6,922	14,179	4.4%	20-29	10.2%	現役 世代 20-64	56.5%
15-19	8,093	7,807	15,900	4.9%	30-39	12.1%		
20-24	8,404	7,807	16,211	5.0%	40-49	14.5%		
25-29	8,780	8,034	16,814	5.2%	50-59	13.1%		
30-34	9,670	8,912	18,582	5.8%	60-69	13.8%		
35-39	10,542	9,829	20,371	6.3%	70-79	11.1%		
40-44	11,568	11,177	22,745	7.0%	80-89	6.2%	高齡① 65-74	13.4%
45-49	12,348	11,706	24,054	7.4%	90-∞	1.7%		
50-54	10,526	10,436	20,962	6.5%	合計	100.0%	高齡② 75-∞	12.7%
55-59	10,567	10,631	21,198	6.6%	合計	100.0%		
60-64	10,663	10,970	21,633	6.7%			年金 受給 世代 65-∞	26.1%
65-69	11,240	11,779	23,019	7.1%				
70-74	9,686	10,518	20,204	6.3%				
75-79	7,069	8,532	15,601	4.8%				
80-84	4,612	7,054	11,666	3.6%				
85-89	2,787	5,565	8,352	2.6%				
90-94	1,083	3,068	4,151	1.3%				
95-99	206	863	1,069	0.3%				
100-104	18	132	150	0.0%				
105-109	0	6	6	0.0%				
110-114	0	0	0	0.0%				
合計			322,996	100.0%				

郡山市の人口構成について

2018年1月1日と2020年1月1日の人口構成比を比較する。

- ・未成年(0-19歳)は、17.8%から17.4%と0.4ポイント減少。
- ・現役世代(20-64歳)は、57.2%から56.5%と0.7ポイント減少
- ・65歳以上は、25.0%から26.1%と1.1ポイント増加。

若い世代の人口が減少し、高齢者の人口が増加している。

高齢者(65歳以上)の人口は、26.1%と人口の4分の1以上を占めている。

データを分析するにあたって

集計したデータを単純比較する以外に年齢構成割合等を見て分析。

(例) A地区の男女別交通事故による負傷者数について

負傷者数 100人
内訳) 男性 60人
女性 40人

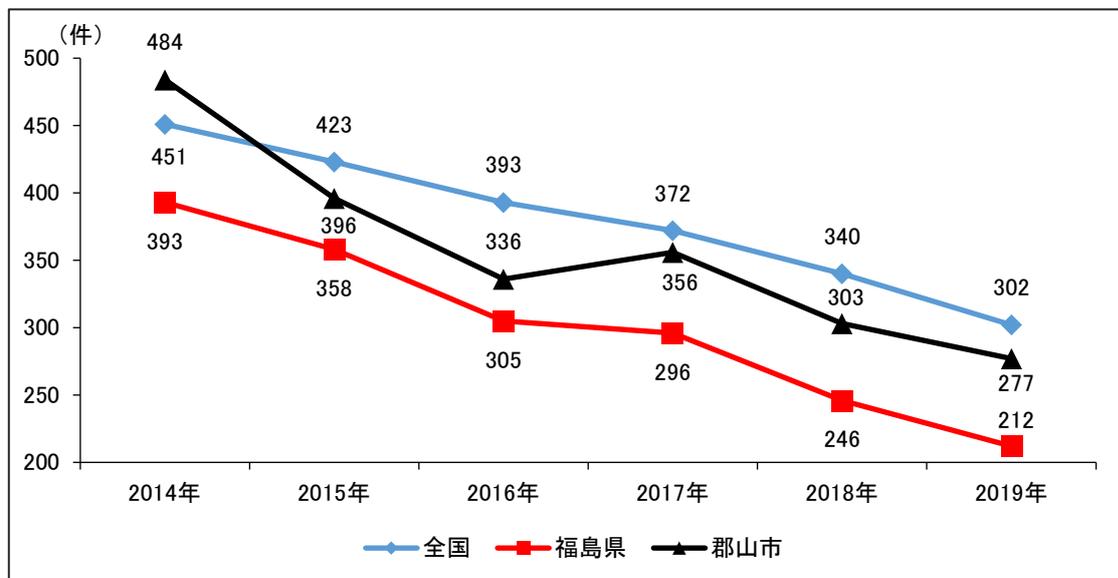
単純に比較した場合、交通事故による負傷者数は、男性が60%、女性が40%である。
男性は女性より交通事故にあいやすい。

しかし、その地区の男女数が男性 1,050人、女性 450人だった場合、人口比率では男性が70%、女性が30%となり、人口割合だけ見れば男性が多いため事故が多くなるとも言える。

分野1 交通安全

(1) 交通事故の発生推移状況(人口10万人あたり)

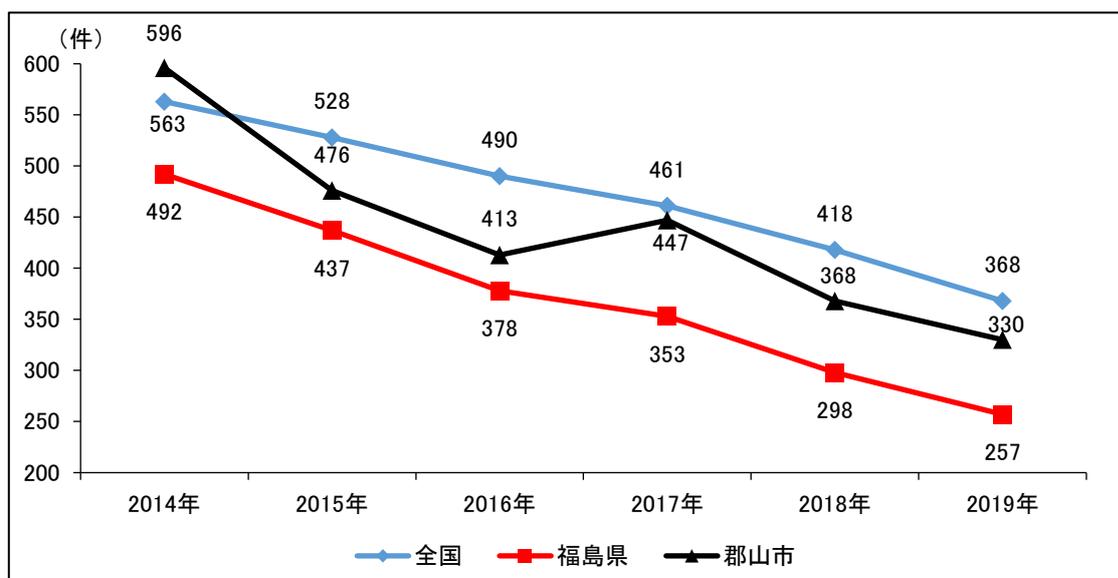
全体的に減少傾向が続いている。郡山市は、2015(平成27)年以降全国より下回っているが、県を上回った状態が続いている。



警察庁「令和2年 警察白書」、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成27～令和2年版 交通白書」より

(2) 交通事故による死傷者数推移状況(人口10万人あたり)

全体的に減少傾向が続いている。

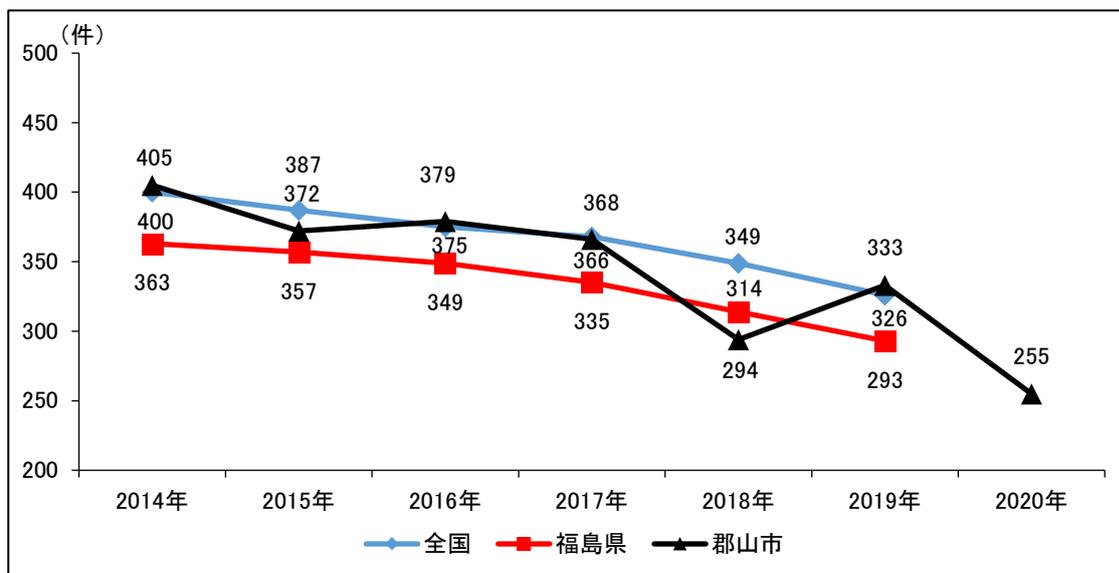


警察庁「令和2年 警察白書」、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成27～令和2年版 交通白書」より

分野1 交通安全

(3) 交通事故を要因とした救急搬送者数推移(人口10万人あたり)

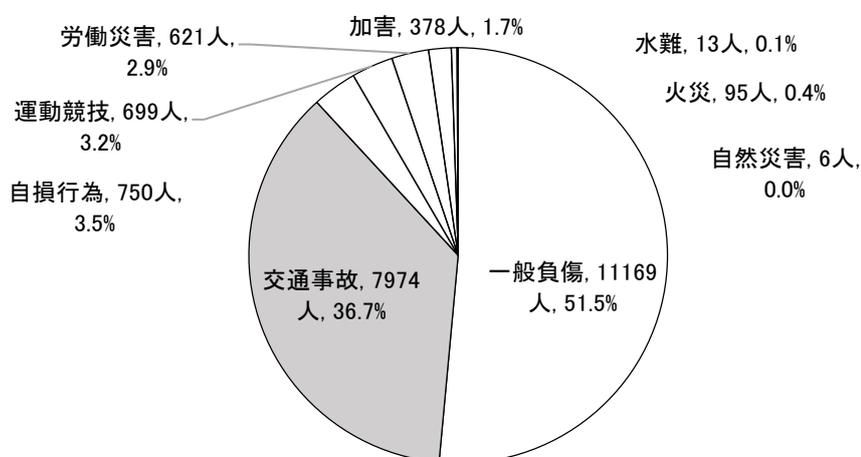
郡山市は2018(平成30)年まで減少傾向にあったが、2019(令和1)年に増加し全国と県を上回っている。2020年(令和2)年は再び減少した。



総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(4) 交通事故を要因とした救急搬送が占める割合 (2014(平成26)年～2020(令和2)年累計救急搬送者 21,705人)

「交通事故」の36.7%は、「一般負傷」の51.5%に次ぐ割合を占めている。
この2つで、病気以外の救急搬送のおよそ9割を占めている。

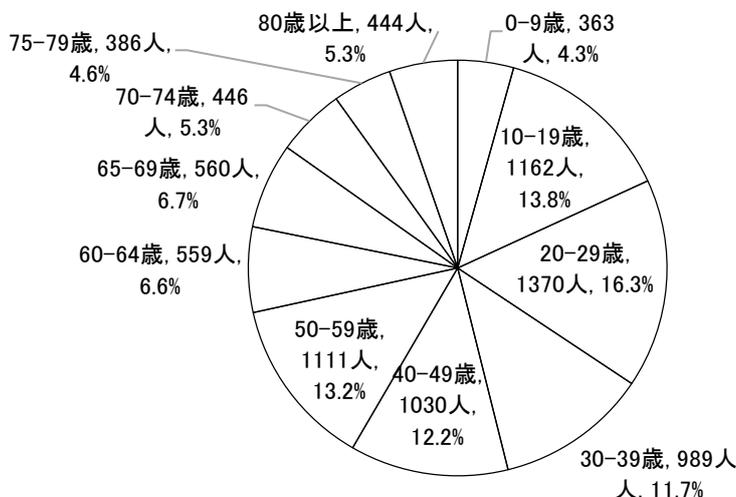


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野1 交通安全

(5) 交通事故を要因とする救急搬送の年齢層別割合 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者 8,420人)

下記表を見ると、「10-19歳」、「20-29歳」が人口割合に比べ、交通事故を要因とした救急搬送率が高い。



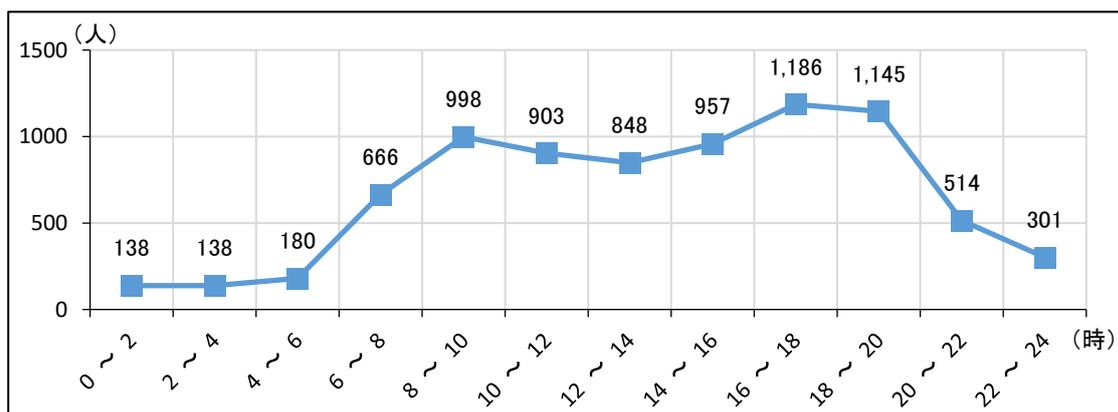
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データより」

年齢層	人口割合・・・①	事故発生率・・・②	①-②
0-9歳	8.1%	4.3%	3.8%
10-19歳	9.3%	13.8%	-4.5%
20-29歳	10.2%	16.3%	-6.1%
30-39歳	12.1%	11.7%	0.4%
40-49歳	14.5%	12.2%	2.3%
50-59歳	13.1%	13.2%	-0.1%
60-69歳	13.8%	13.3%	0.5%
70-79歳	11.1%	9.9%	1.2%
80歳以上	7.9%	5.3%	2.6%

(6) 交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者)

ア 時間別

朝方(8～10時)と夕方(16～20時)の通勤時間帯が多い。



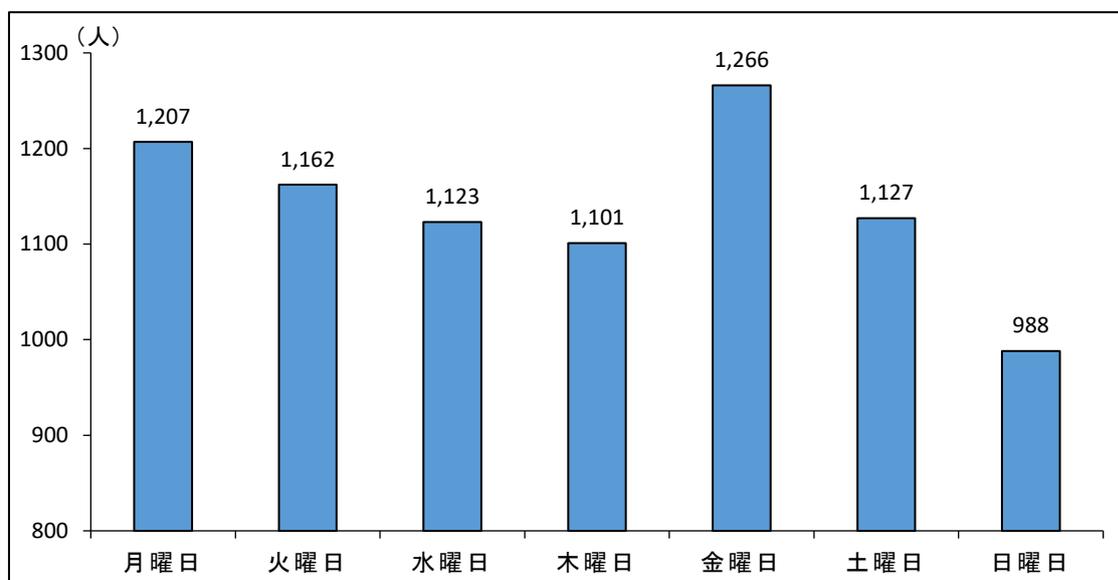
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野1 交通安全

(6) 交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者)

イ 曜日別

曜日別では、「金曜日」が一番多く、「日曜日」が一番少ない。

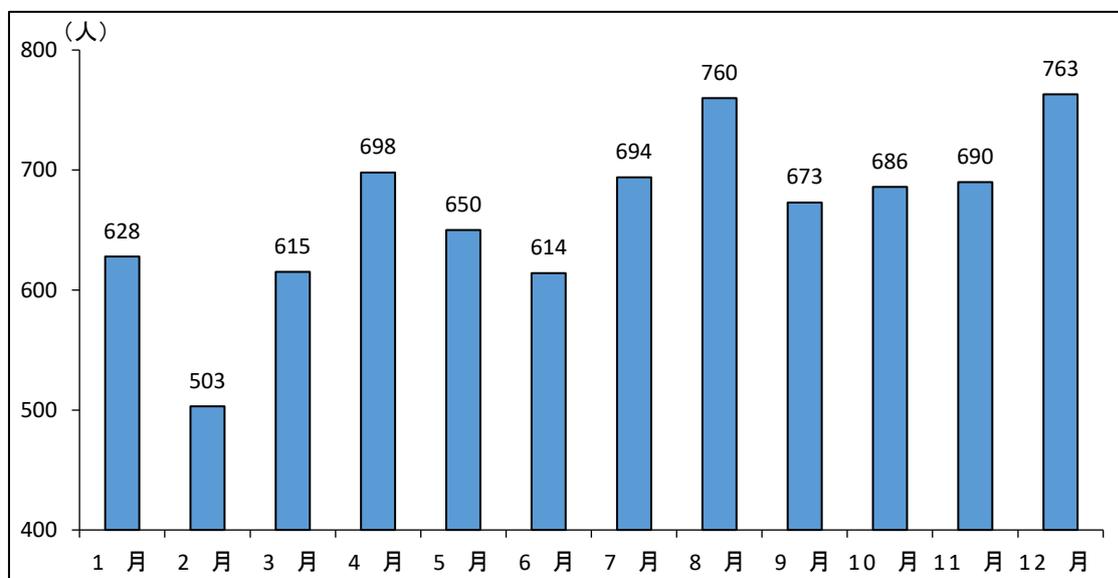


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(6) 交通事故の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者)

ウ 月別

月別では、2月が一番少なく徐々に増加していく。(1月に大きく減少する。)

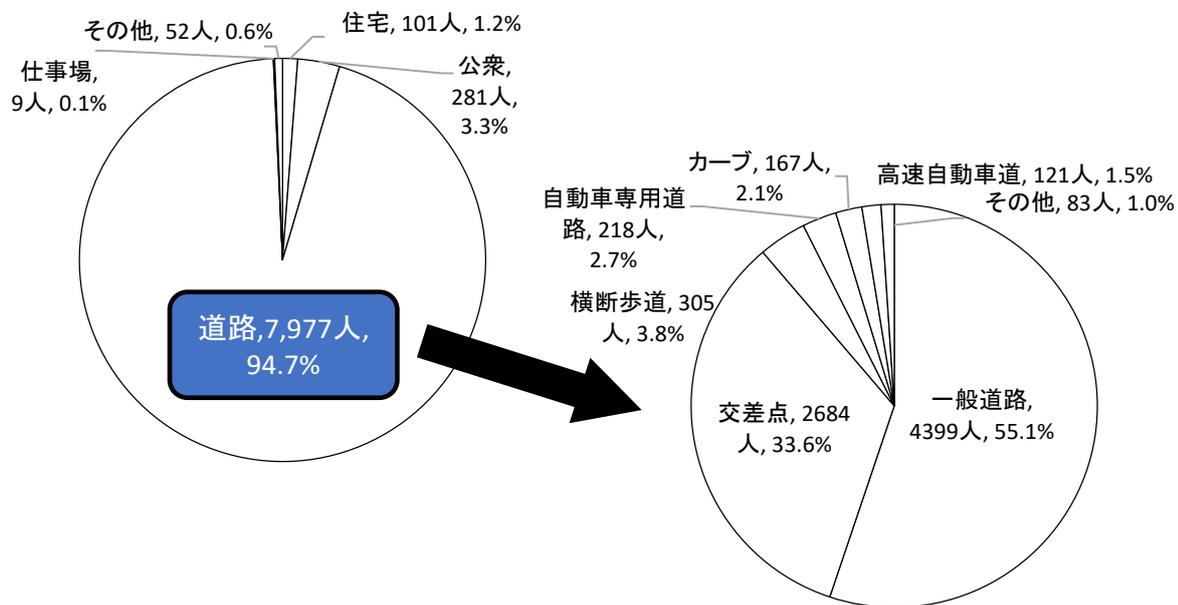


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野1 交通安全

(7) 交通事故による救急搬送発生場所
(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者 8,420人)

救急搬送発生場所は、「道路」が94.7%である。「道路」の詳細を見ると「一般道路」が55.1%で一番多く、次いで「交差点」が33.6%、「横断歩道」が3.8%である。

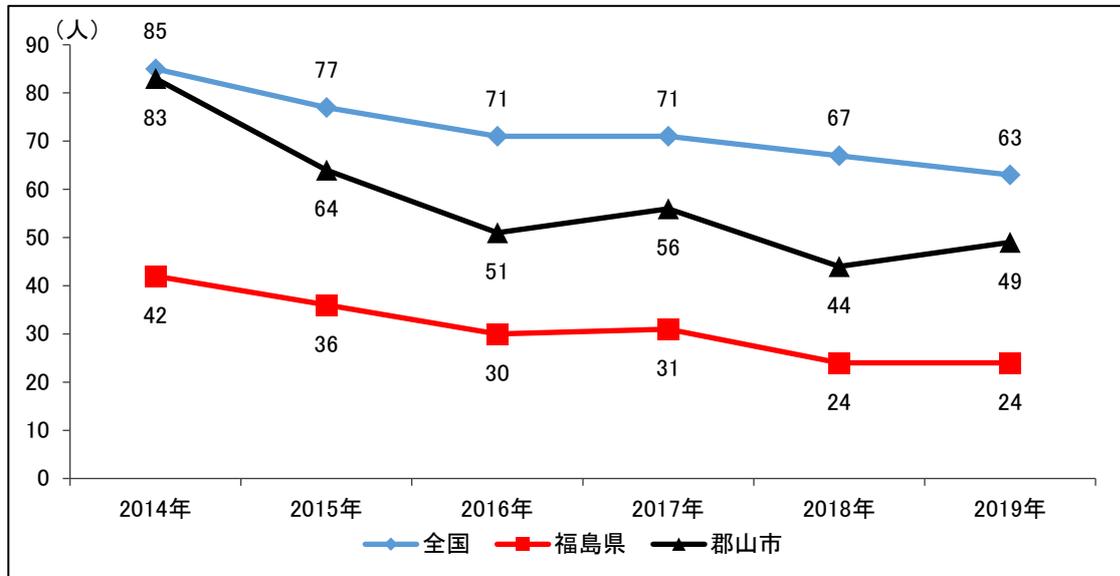


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野1 交通安全

(8) 自転車乗車中の死傷者数(人口10万人あたり)

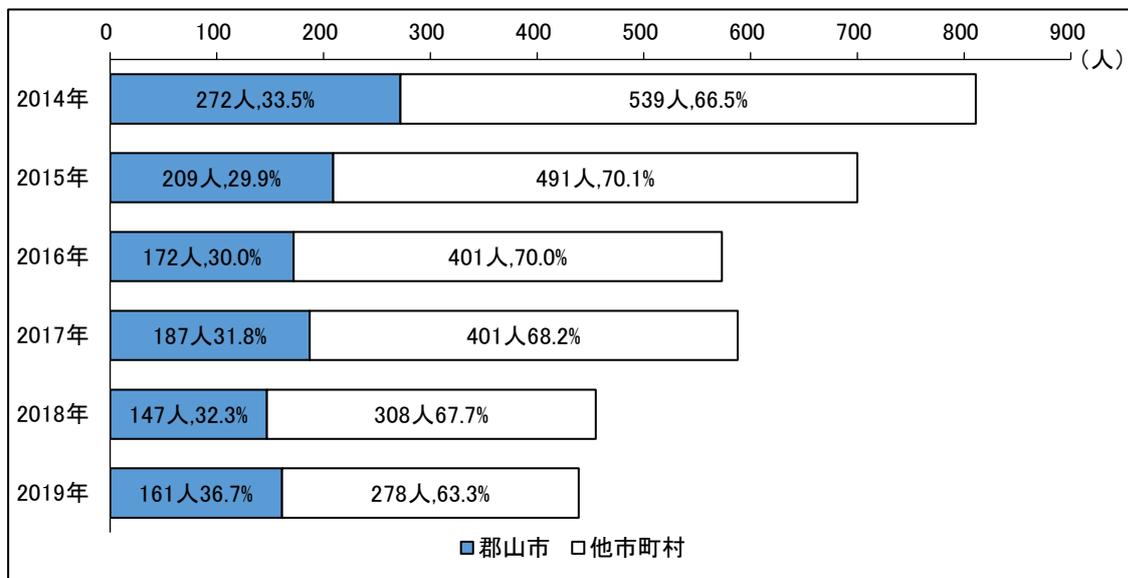
全体的に減少傾向が続いている。2014(平成26)年に全国を下回ったものの、県を上回った状態が続いている。



警察庁「令和2年 警察白書」、福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成27～令和2年版 交通白書」より

(9) 県内の自転車乗車中事故の死傷者数で郡山市が占める割合

郡山市は、各年で全体の約30%を占めている。
2019(令和1)年4月1日時点の県内における郡山市の人口割合は17.9%である。
2019(令和1)年は、人口割合に比べ郡山市は約2倍自転車乗車中事故の死傷者数が多い。

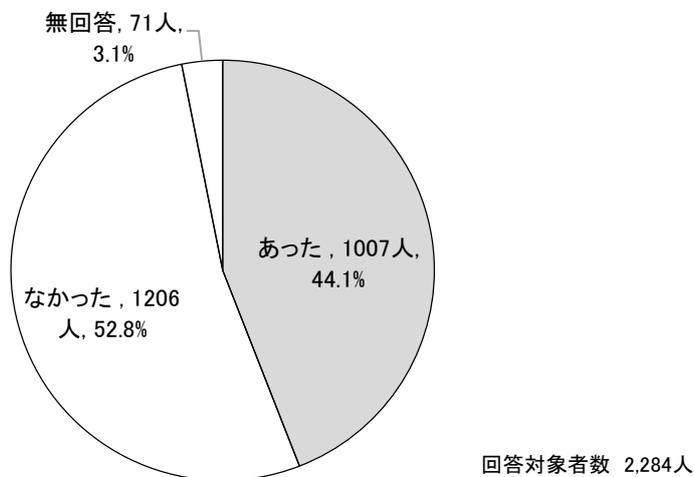


福島県警察本部・郡山警察署・郡山北警察署「平成27～令和2年版 交通白書」より

分野1 交通安全

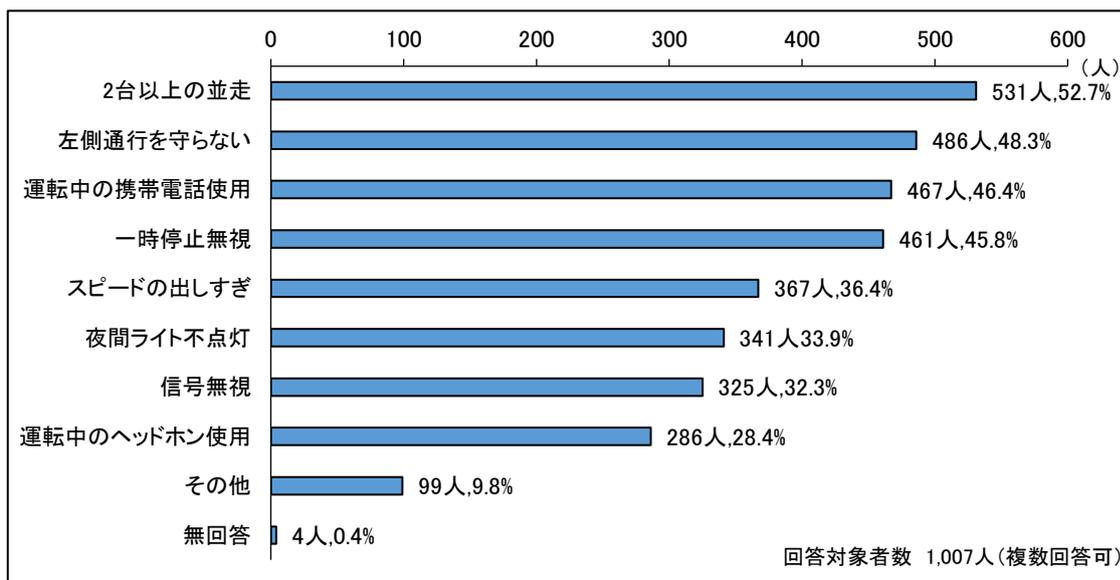
(10) この一年間に他の人が運転する自転車に危険を感じた(または事故にあった)ことについて

「あった」と回答した人が44.1%(H30年度は52.8%)おり、内容としては「2台以上の並走」が52.7%で一番多く、次いで「左側走行を守らない」が48.3%、「運転中の携帯電話使用」が46.4%だった。



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

「あった」と回答した方の内容



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

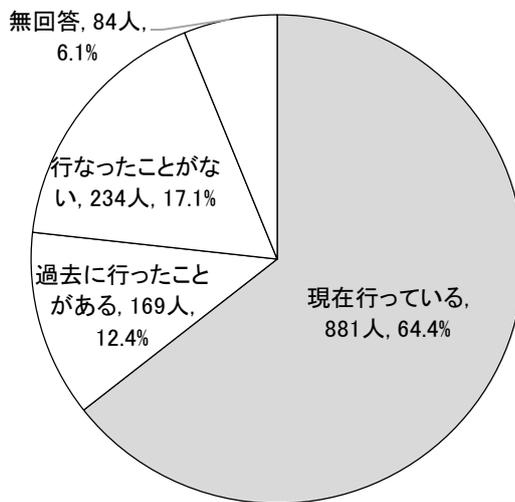
分野1 交通安全

(11) 交通安全活動の取組状況

(例) 反射材活用、安全運転、危険箇所の確認など

「現在行っている」を比べてみると、2018(平成30)年が48.7%、2020(令和2)年が64.4%と前回の2018(平成30)年に比べ15.7ポイント上昇した。

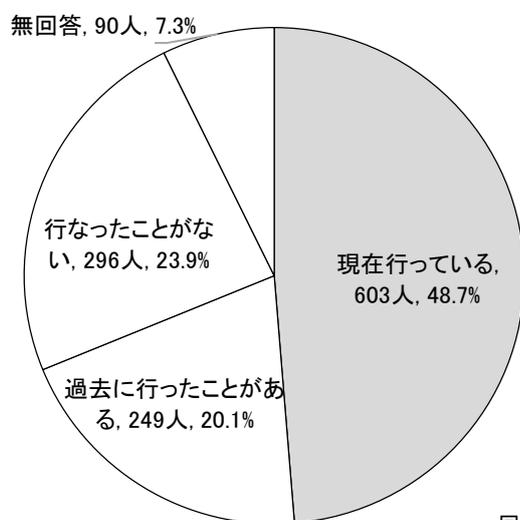
2020(令和2)年



回答対象者数 1,368人

「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

2018(平成30)年



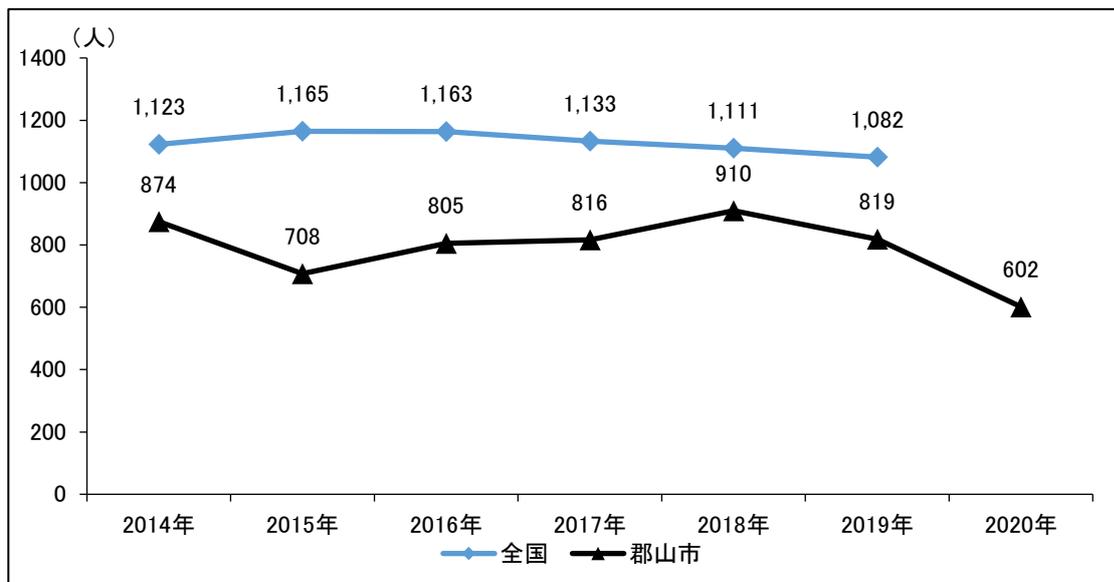
回答対象者数 1,238人

「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野2 こどもの安全

- (1) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された新生児～乳幼児(0歳から6歳までの)推移(人口10万人あたり)

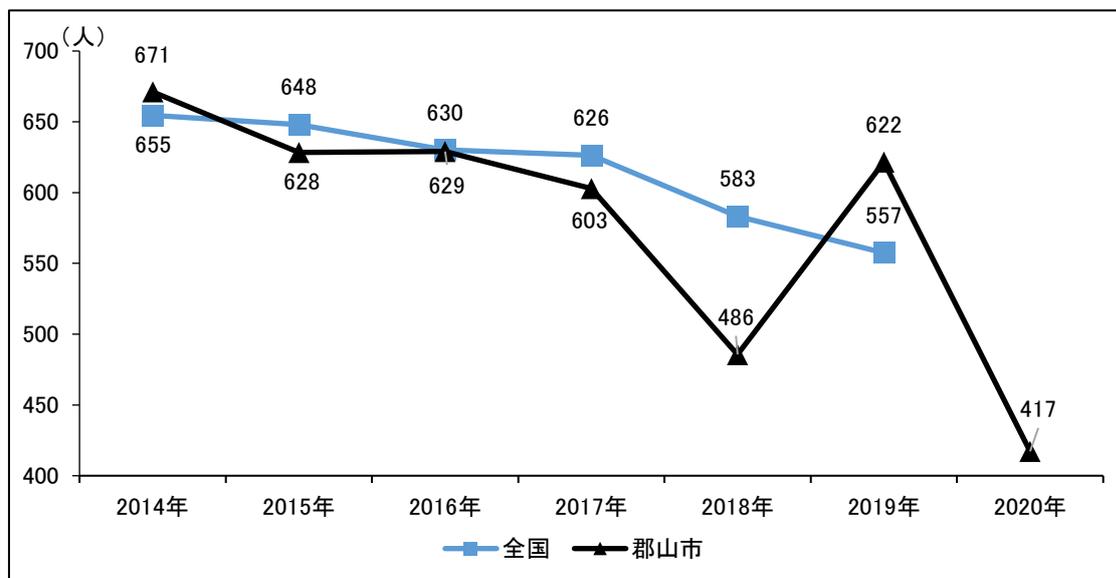
郡山市は増加や減少を繰り返す状況が続いているが、全国を下回っている。



総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

- (2) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された少年(7歳から17歳までの)推移(人口10万人あたり)

郡山市は、2019(令和1)年に全国を上回ったが、減少傾向にある。



総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

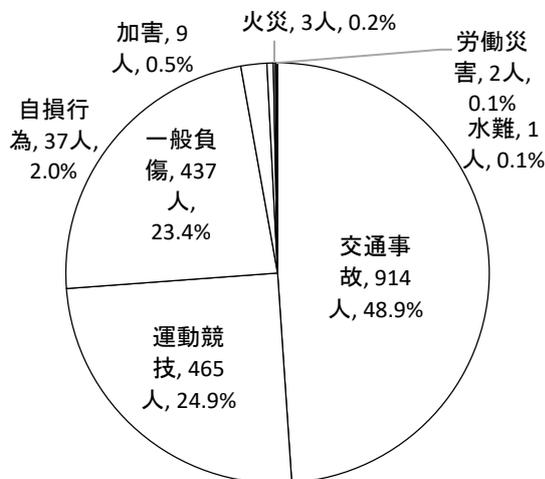
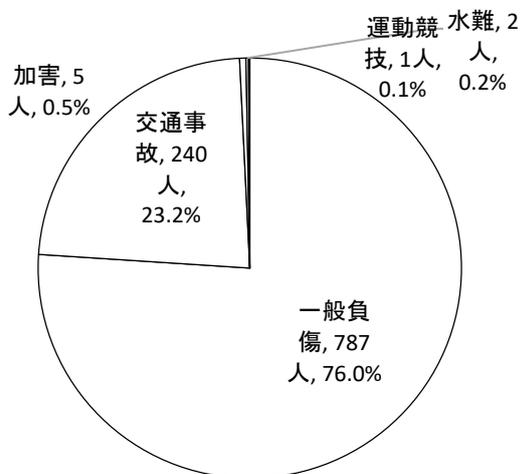
分野2 こどもの安全

(3) 救急搬送されたこどものけがや事故の種別

新生児～乳幼児は、「一般負傷」が一番多く、7割以上を占める。少年は、「交通事故」が48.9%で一番多く、次いで「運動競技」が24.9%、「一般負傷」が23.4%となっている。

新生児～乳幼児(0歳から6歳まで) 1,035人

少年(7歳から17歳まで) 1,868人



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(4) こどもの救急搬送場所

新生児～乳幼児は、「住宅」が57.8%で一番多く、次いで「公衆」が21.4%、「道路」が19.2%である。

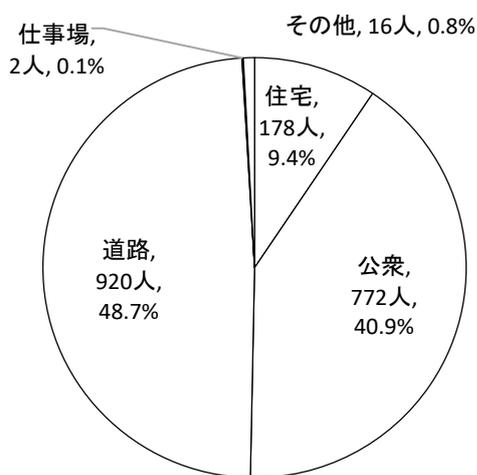
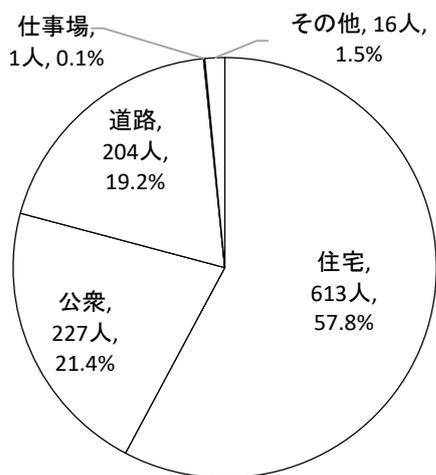
少年は、「道路」が48.7%で一番多く、次いで「公衆」が40.9%、「住宅」が9.4%となっている。

新生児～乳幼児は自宅で過ごす時間が長いため、「住宅」が多いと考えられる。

小学生以降は学校で過ごす時間が多くなることや、活動範囲が広がる等により「道路」や「公衆」になると考えられる。

新生児～乳幼児(0歳から6歳まで) 1,061人

少年(7歳から17歳まで) 1,888人

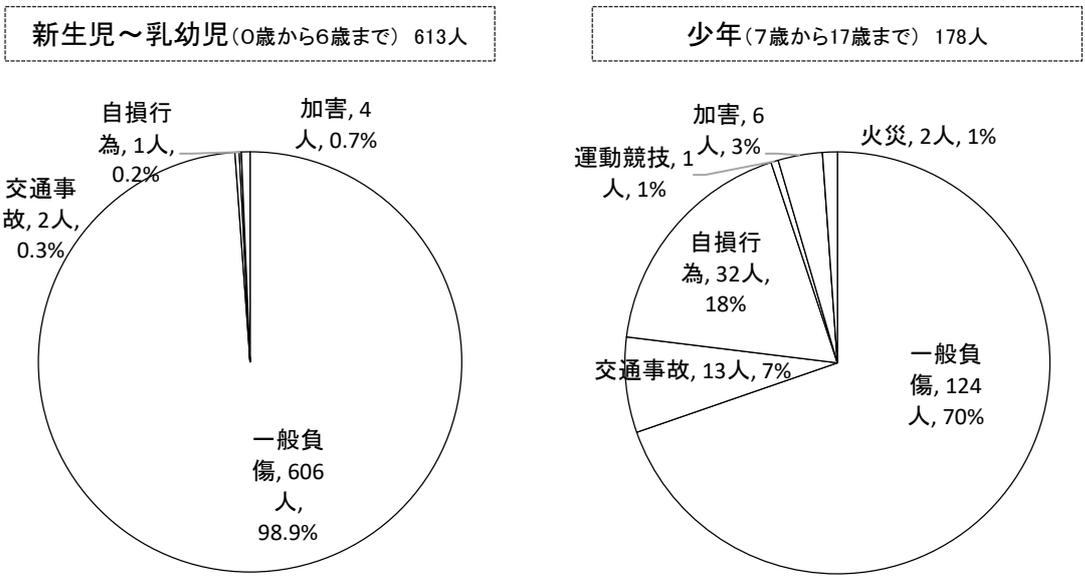


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野2 こどもの安全

(5) 住宅から救急搬送されたこどものけがや事故種別

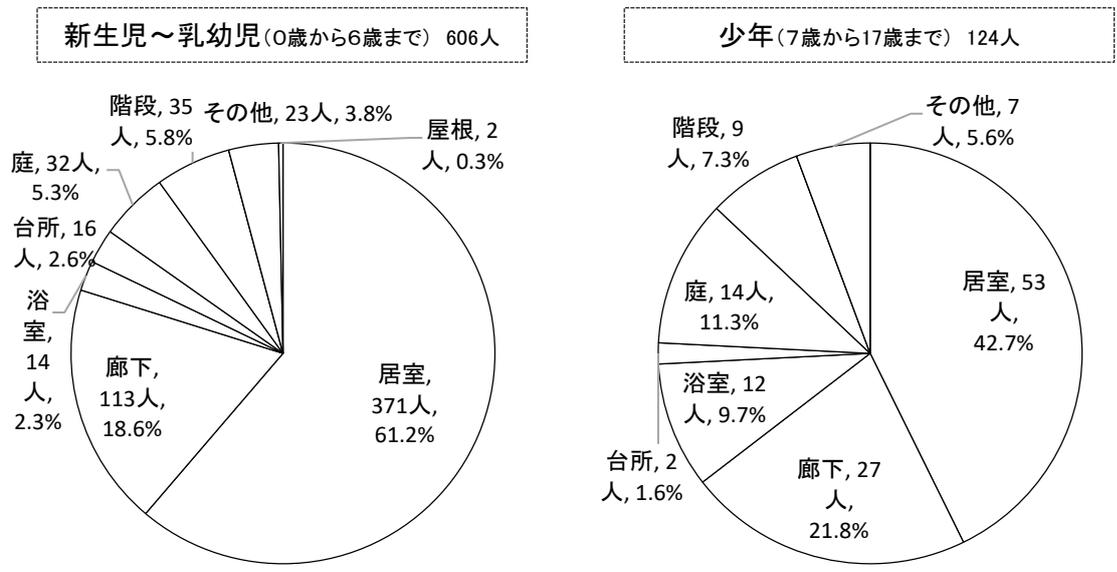
新生児～乳幼児は、「一般負傷」が98.9%で一番多い。少年も「一般負傷」が69.7%で一番多く、次いで「自損行為」が18.0%、「交通事故」が7.3%となっている。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

(6) 住宅から一般負傷を要因に救急搬送されたこどものけがや事故の小分類場所

新生児～乳幼児は、「居室」が「61.1%」で一番多く、次いで「廊下」が18.6%、「階段」が5.8%となっている。少年は、「居室」が42.7%で一番多く、次いで「廊下」が21.8%、「庭」が11.3%となっている。どちらの年代でも住宅で起きるけがや事故の場所にあまり変わりがない。

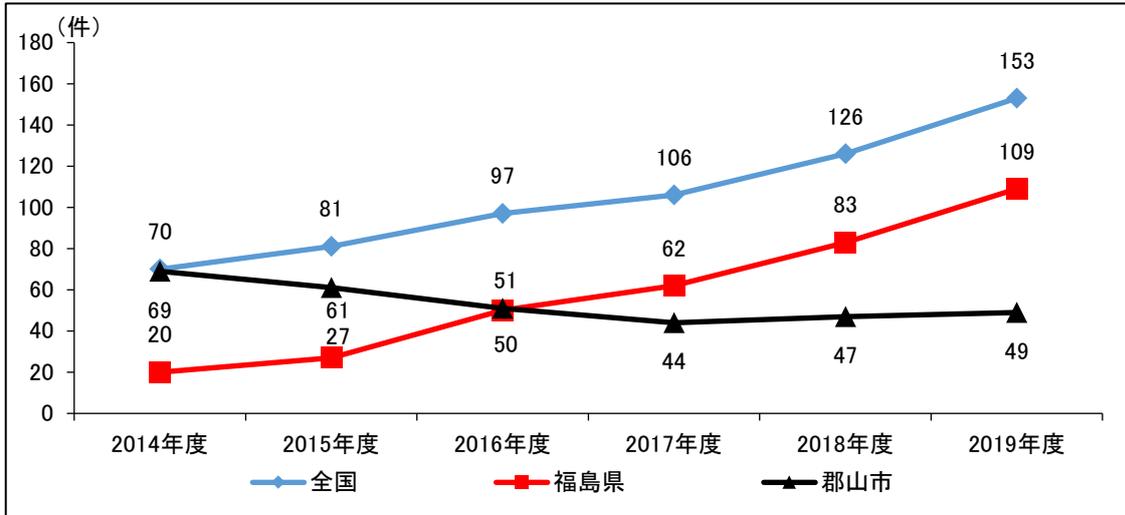


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野2 こどもの安全

(7) 児童虐待の相談件数推移(人口10万人あたり)

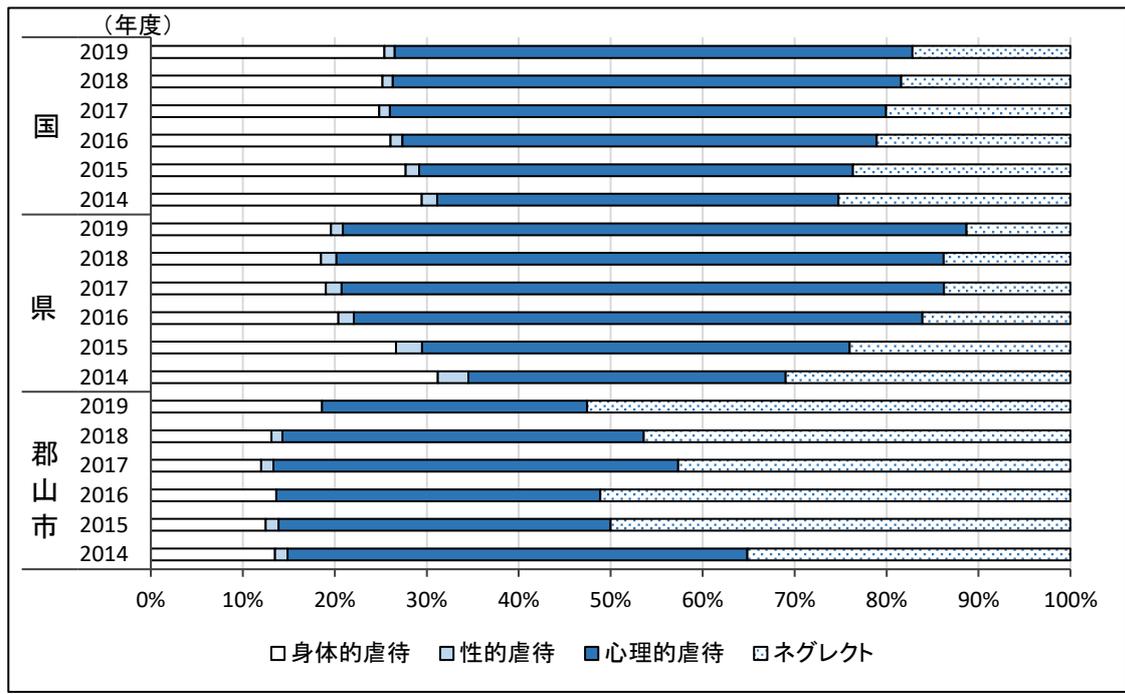
全国、県ともに上昇傾向にあるが、郡山市は2014(平成26)年度以降減少傾向にある。



厚生労働省「平成26年～令和元年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
子ども家庭相談センター「平成26～令和元年度 相談等の取扱件数推移」より

(8) 児童虐待種別の各年の割合

全国は、「心理的虐待」の割合が、年々大きくなっており、占める割合も一番大きい。
県も同様に「心理的虐待」の割合が大きくなっており、占める割合も一番大きい。
郡山市は、国、県と違い比較的「ネグレクト」の占める割合が大きい。



厚生労働省「平成26年～令和元年度 児童相談所における児童虐待相談対応件数」
子ども家庭相談センター「平成26～令和元年度 相談等の取扱件数推移」より

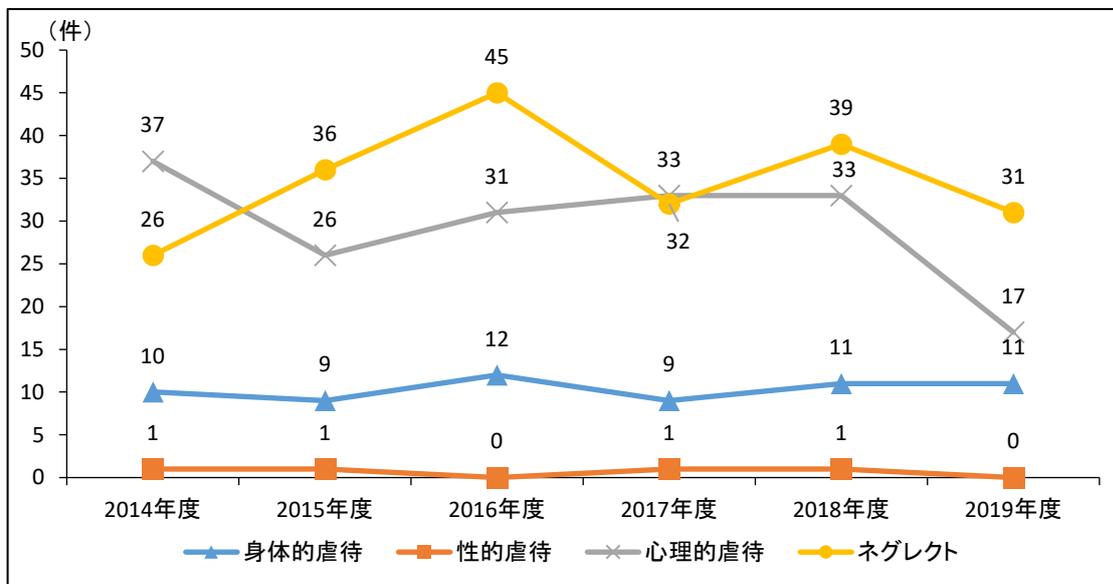
分野2 こどもの安全

(9) 児童虐待種別ごとの推移

「心理的虐待」と「ネグレクト」が常に多い状態で推移している。

※1

※2



子ども家庭相談センター「平成26～令和元年度 相談等の取扱件数推移」より

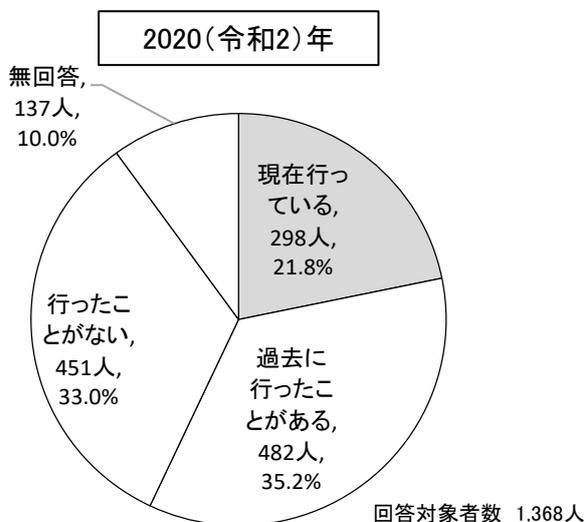
※1 心理的虐待…大声や脅しなどで恐怖に陥れる、無視や拒否的な態度をとるなどの子供に心理的な傷を負わせる行為

※2 ネグレクト…保護の怠慢、拒否、放置により、子どもの健康状態や安全を損なう行為

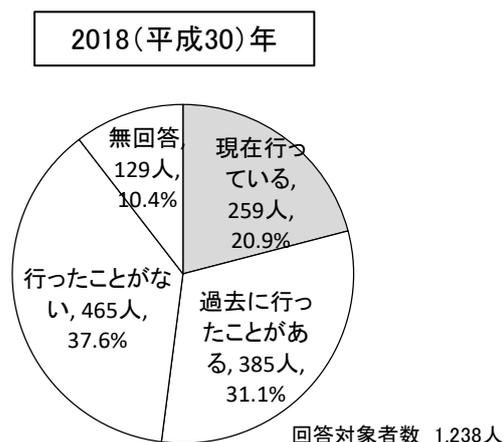
分野2 こどもの安全

- (10) こどもの安全活動の取組状況
 (例) 旗当番、通学路や屋内の安全点検など

「現在行っている」を比べてみると、2018(平成30)年が20.9%、2020(令和2)年が21.8%と前回の2018(平成30)年に比べ0.9ポイント増加した。



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

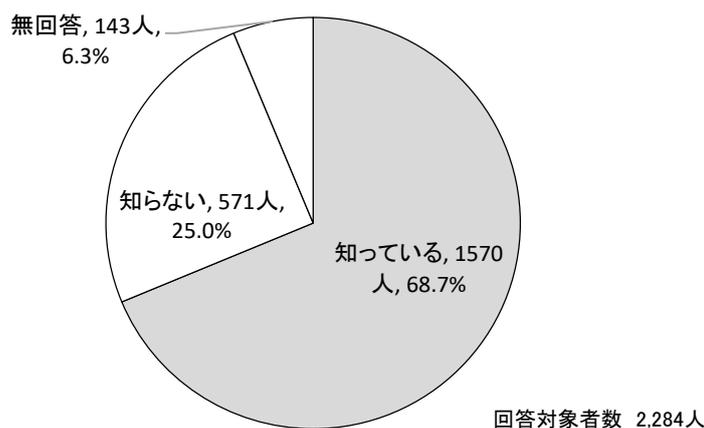


「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

- (11) 児童相談所への連絡(報告義務について)

問 あなたは、こどもが虐待を受けているかもしれないと思った場合、児童相談所などに連絡(通告)義務あることを知っていますか？

「知っている」が68.7%で、過半数を超えた。



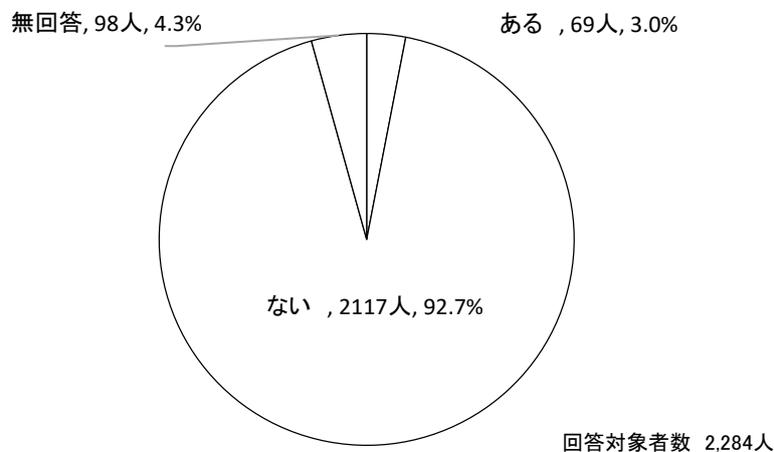
「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野2 こどもの安全

(12) こどもの虐待に関する講習会の参加の有無

問 これまでに、こどもへの虐待に関する講習会などに参加したことはありますか？

「ない」が92.7%で、ほとんど受講した方がいない。

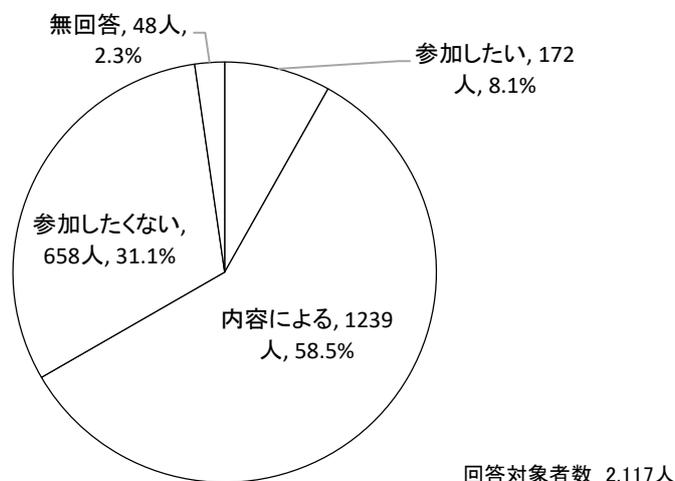


「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

(13) 虐待に関する講習会への参加意欲

問 こどもへの虐待に関する講習会などに都合がつけば参加したいと思いますか？
※この一年間でこどもへの虐待に関する講習会などに参加したことがないと回答した方への追加質問

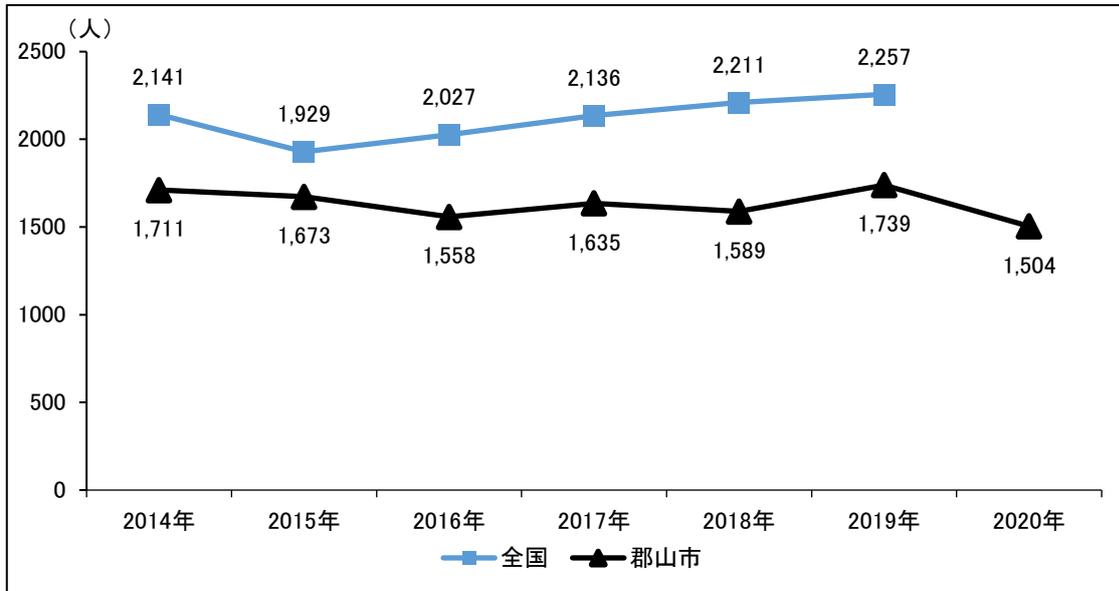
「内容による」が58.5%で、過半数を超えた。



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野3 高齢者の安全

- (1) 全国・市の交通事故及び一般負傷で救急搬送された高齢者(65歳以上)の推移(10万人当たり)
郡山市は、全国を下回り、ほぼ横ばいで推移している。

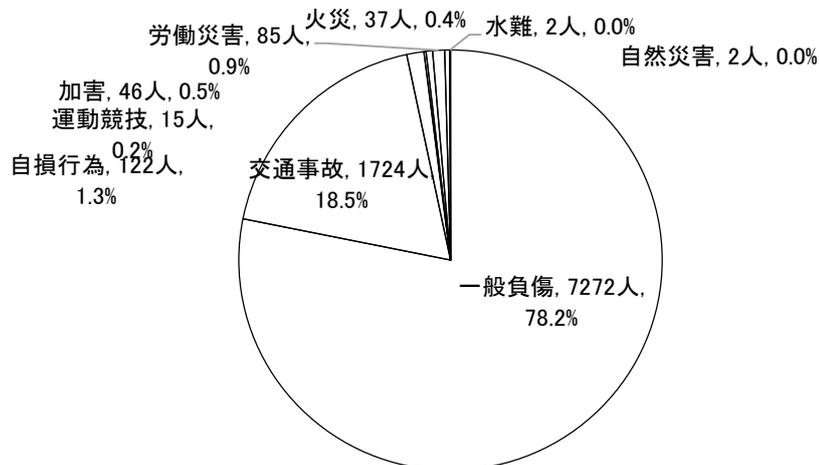


総務省消防庁「平成26～令和元年版 消防白書」、郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

- ※1 全国の2014年の値は、平成22年実施した国勢調査の年齢別人口、全国の2015～2019年の値は、平成27年実施した国勢調査の年齢別人口より計算した人口(65歳以上)を用いて10万人当たりの値を算出している。
- ※2 「消防白書」では、「高齢者」等の年齢区分の救急搬送の内訳が、「急病」「交通事故」「一般負傷」「その他」でのみ公開されている。そのため、「交通事故」と「一般負傷」のみの救急搬送者数の推移とした。

- (2) 救急搬送された高齢者のけがや事故の種別
(2014<平成26年>～2020<令和2年>累計)

「一般負傷」が一番多く78.2%を占める。次いで「交通事故」が18.5%である。

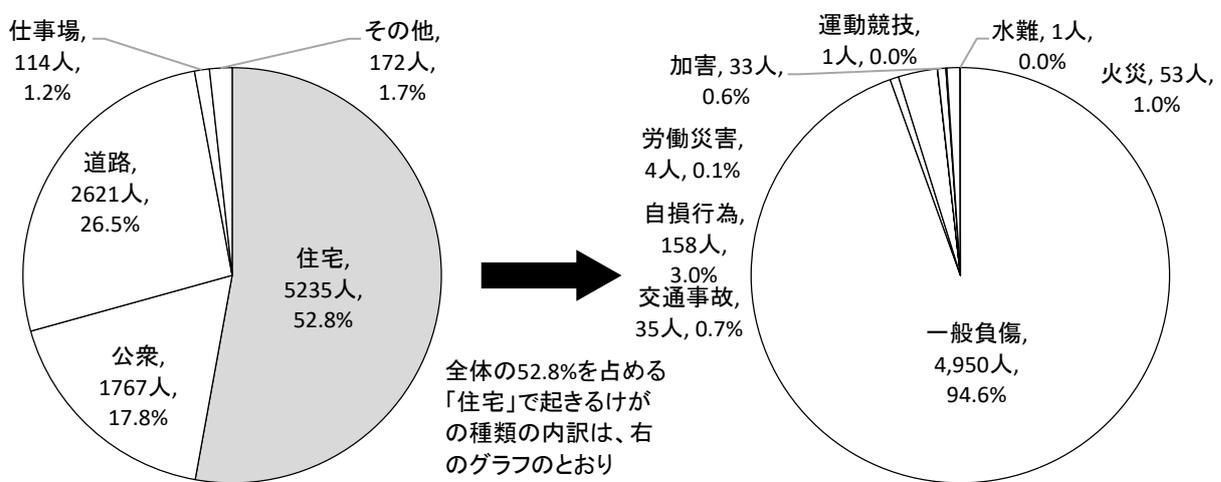


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野3 高齢者の安全

(3) 高齢者のけがや事故による救急搬送発生場所 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計 9,909人)

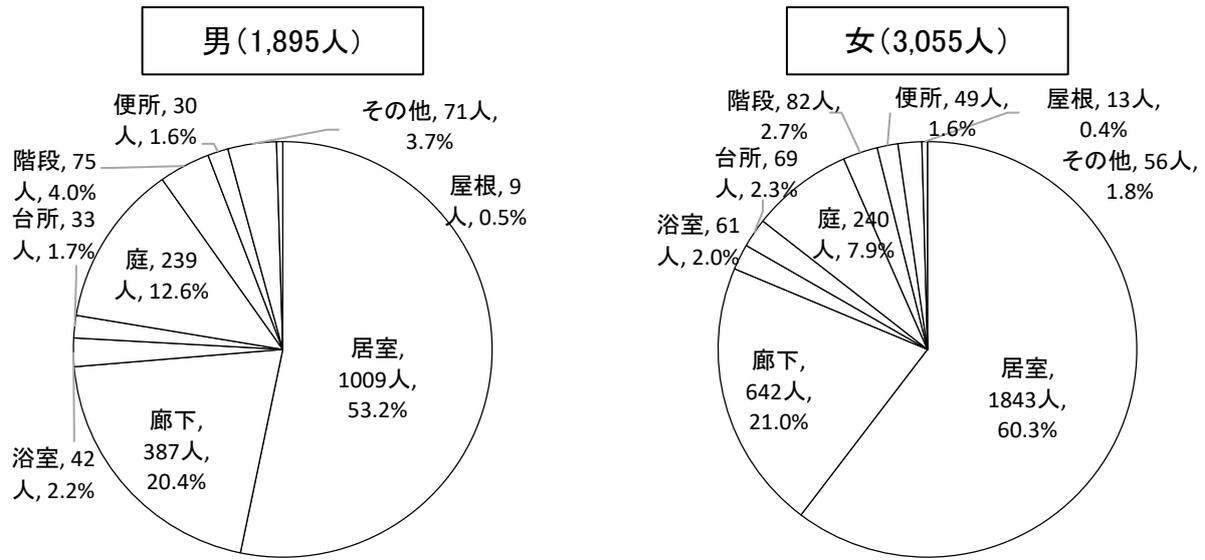
約5割は「住宅」である。「住宅」での事故種別は「一般負傷」が、9割以上を占める。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

(4) 住宅から一般負傷で救急搬送された高齢者の男女別発生場所小分類 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

男女ともに「居室」が一番多く、男が「53.2%」、女が「60.3%」となっている。次いで、「廊下」で男が20.4%、女が21.0%となっている。



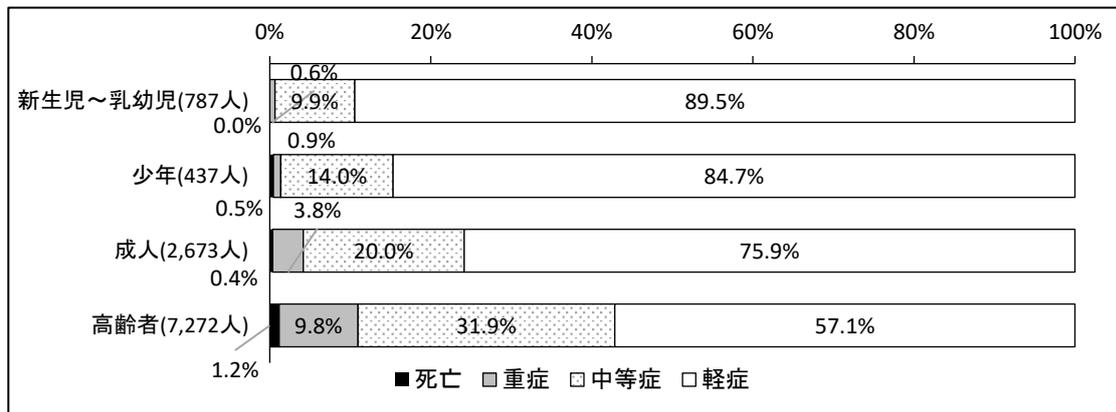
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

居室(居間、応接室、寝室など)	廊下(玄関などの通路を含む)	浴室(シャワー室、洗面所を含む)
台所(食堂を含む)	庭(テラス等を含む)	階段(踊場を含む)
便所	その他(物置、地下室、車庫等)	
屋根(屋上、物干し台、ベランダ、バルコニー等を含む)		

分野3 高齢者の安全

(5) 一般負傷による救急搬送の年齢別重症度率(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

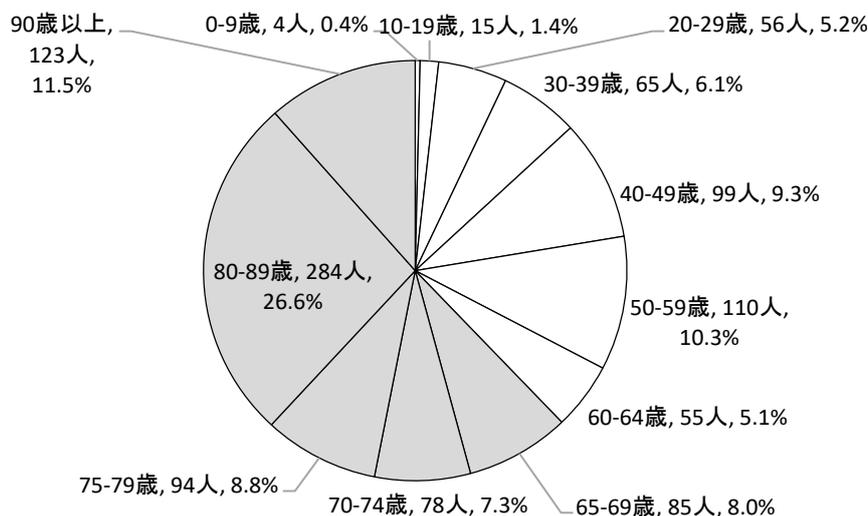
高齢者の重症度率は、「重症」と「死亡」を合わせると、11.0%であり、成人の4.2%と比べると倍以上で、高齢者は成人などと比べると重症化しやすいことがわかる。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(6) 傷病及びその他の外因による年代別死亡者数(2014<平成26>年～2019<令和1年>累計 1,068人)

65歳以上が6割以上を占める。



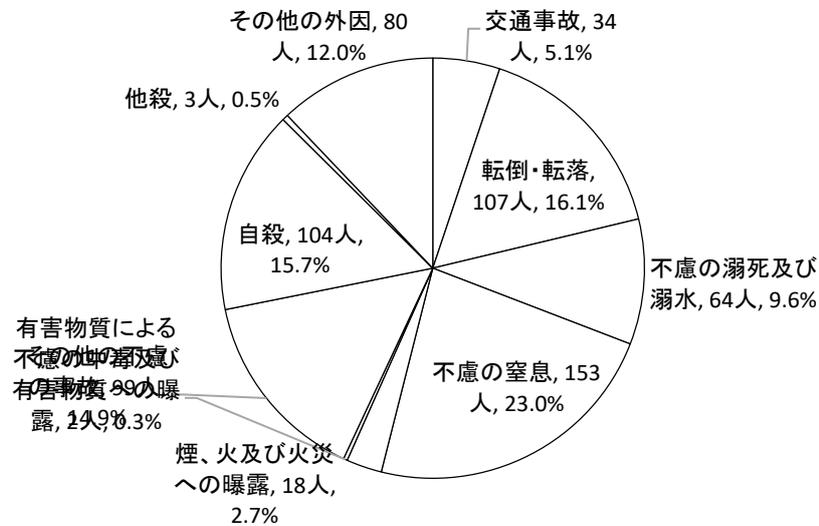
郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

年齢層	人口割合・・・①	死亡割合・・・②	①-②
0-9歳	8.1%	0.4%	7.7%
10-19歳	9.3%	1.4%	7.9%
20-29歳	10.2%	5.2%	5.0%
30-39歳	12.1%	6.1%	6.0%
40-49歳	14.5%	9.3%	5.2%
50-59歳	13.1%	10.3%	2.8%
60-69歳	13.8%	13.1%	0.7%
70-79歳	11.1%	16.1%	-5.0%
80歳以上	7.9%	38.1%	-30.2%

分野3 高齢者の安全

(7) 65歳以上の傷病及びその他の外因による種別ごとの死亡者数
(2014<平成26>年～2019<令和1>年累計 664人)

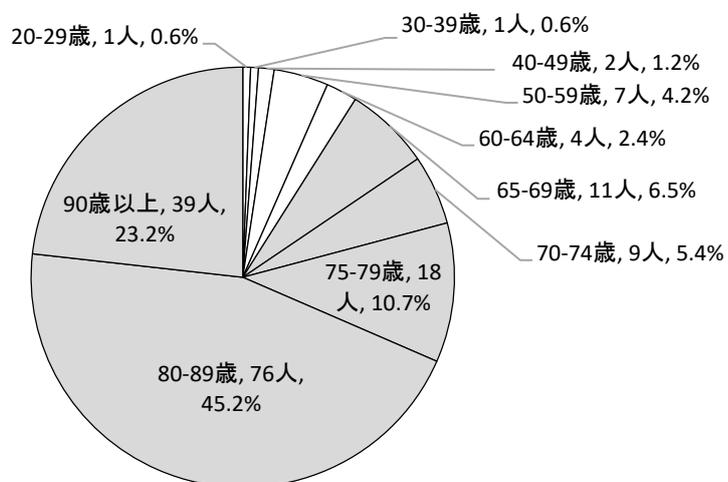
「不慮の窒息」が一番多く23.0%となっており、次いで「転倒・転落」が16.1%、「自殺」が15.7%となっている。



郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

(8) 窒息による年代別死者数の割合
(2014<平成26>年～2019<令和1>年度累計 168人)

「80-89歳」が45.2%で一番多く、次いで「90歳以上」が23.2%となっている。
高齢者(65歳以上)が、9割以上を占める。

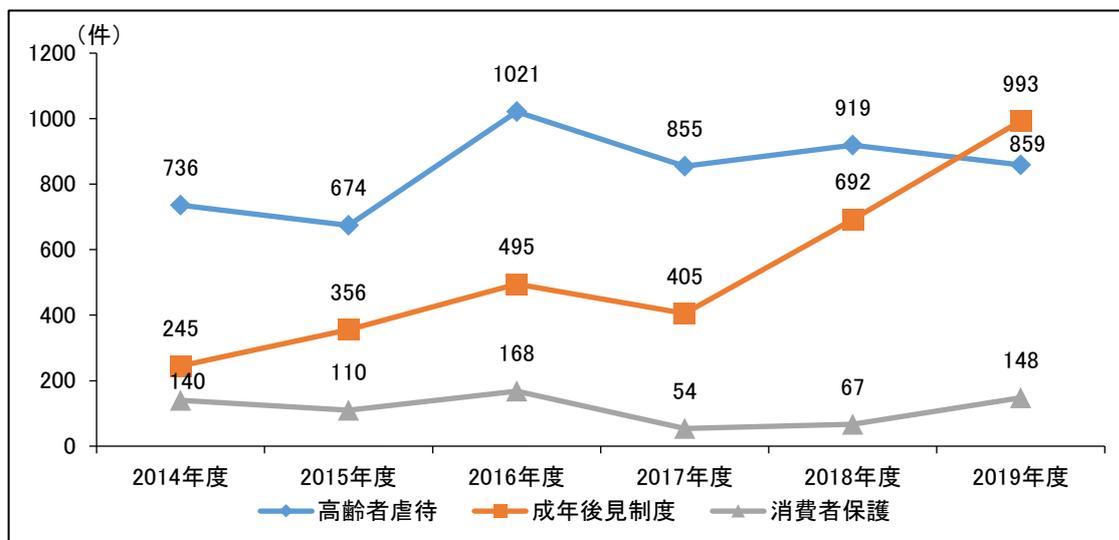


郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

分野3 高齢者の安全

(9) 高齢者の権利擁護における相談件数推移

「高齢者虐待」は2016(平成28)年度に増加したが、それ以降は減少傾向にある。

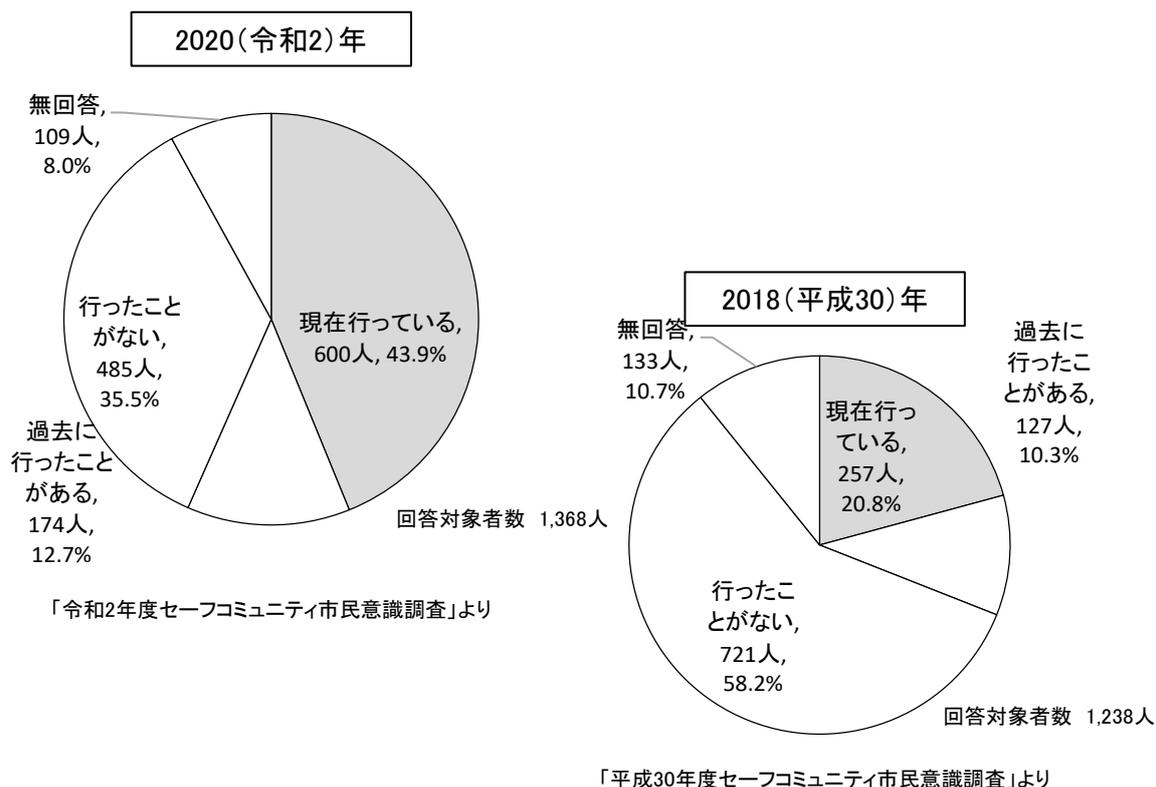


郡山市地域包括ケア推進課「平成26～令和元年度 センター別包括的支援事業の実施状況」より

(10) 高齢者の安全活動の取組状況

(例) 転倒予防体操、自宅内の整理整頓など

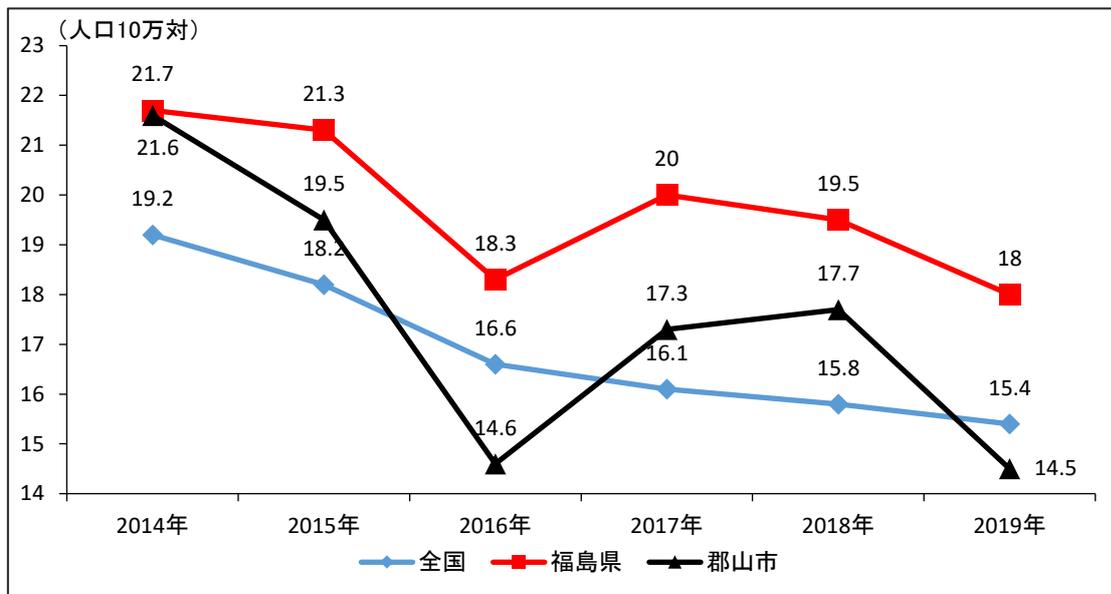
「現在行っている」を比べてみると、2018(平成30)年20.8%、2020(令和2)年43.9%と2018(平成30)年に比べ23.1ポイント上昇した。



分野4 自殺予防

(1) 全国・福島県・郡山市の自殺死亡率の推移(人口10万対)

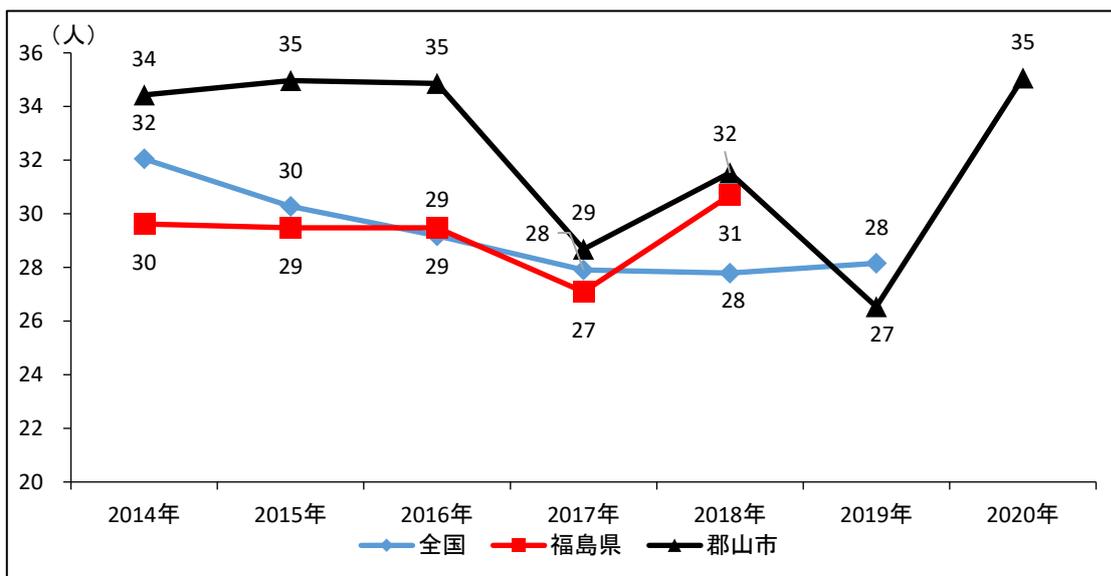
郡山市は、2014年以降、減少傾向にある。



郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

(2) 自損行為による救急搬送者数推移(人口10万人あたり)

郡山市は、2014年以降、全国を上回る傾向にあり、2017年に減少したものの、現在は増加傾向にある。

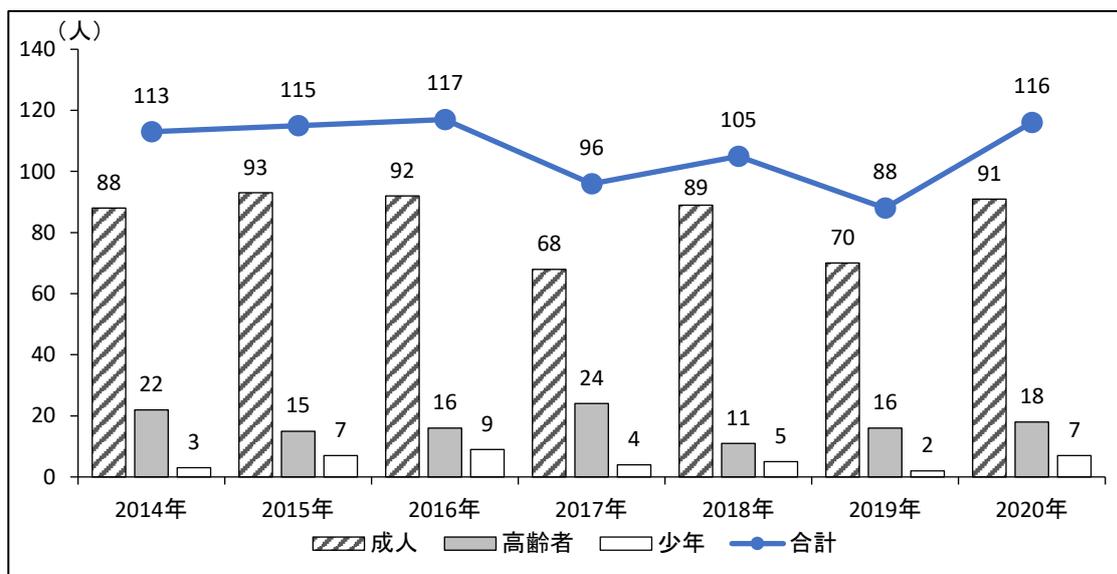


総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、福島県消防保安課「平成27～令和元年版 消防防災年報」
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野4 自殺予防

(3) 郡山市の自損行為による救急搬送者推移

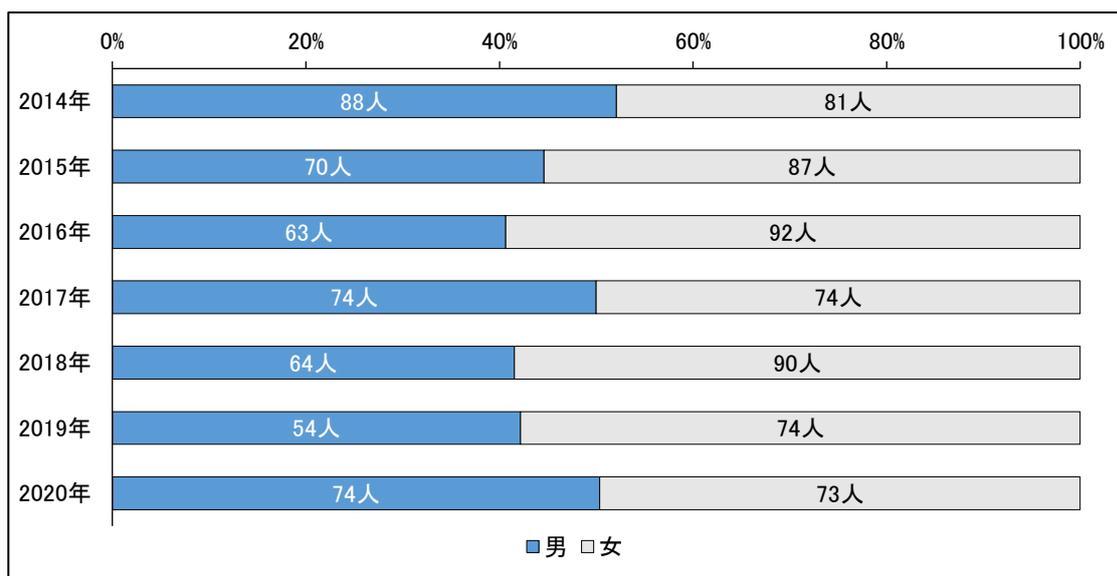
成人が約7割以上を占めている。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(4) 自損行為を要因に救急搬送された男女別の割合の推移

年々女性の自損行為者の割合が増えており、2016、2018、2019年では、約6割を占めている。

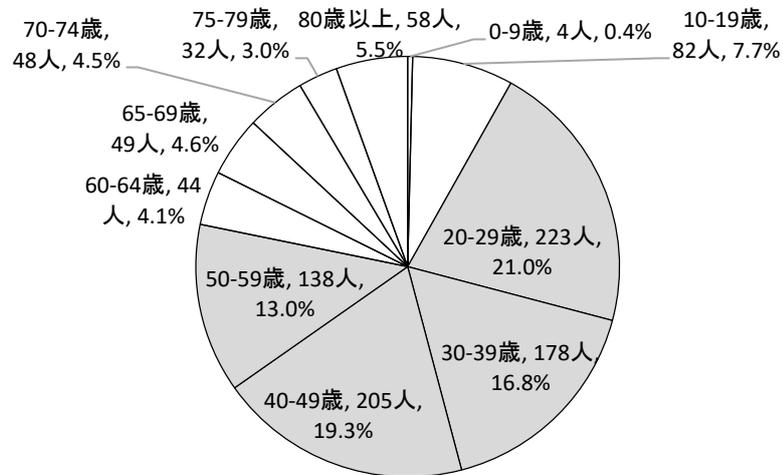


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(5) 自損行為を要因に救急搬送された年齢層別割合 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計 1,061人)

一番多い年代は「20-29歳」は、21.0%となっており、次いで、「40-49歳」が19.3%、「30-39歳」が16.8%となっている。20-50代で、7割以上を占める。

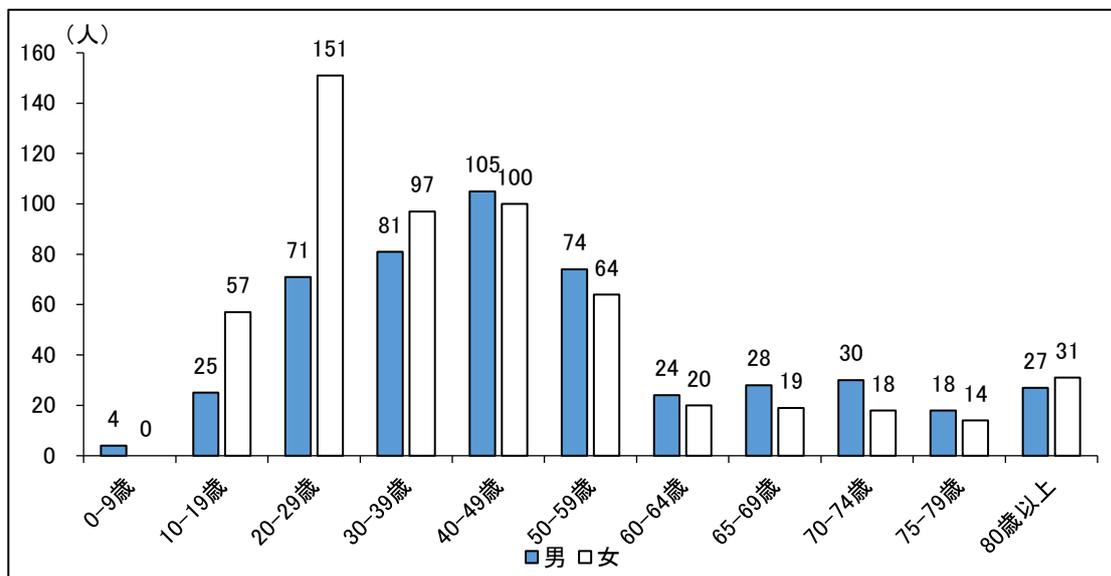


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(6) 自損行為を要因に救急搬送された性別年齢層別割合 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

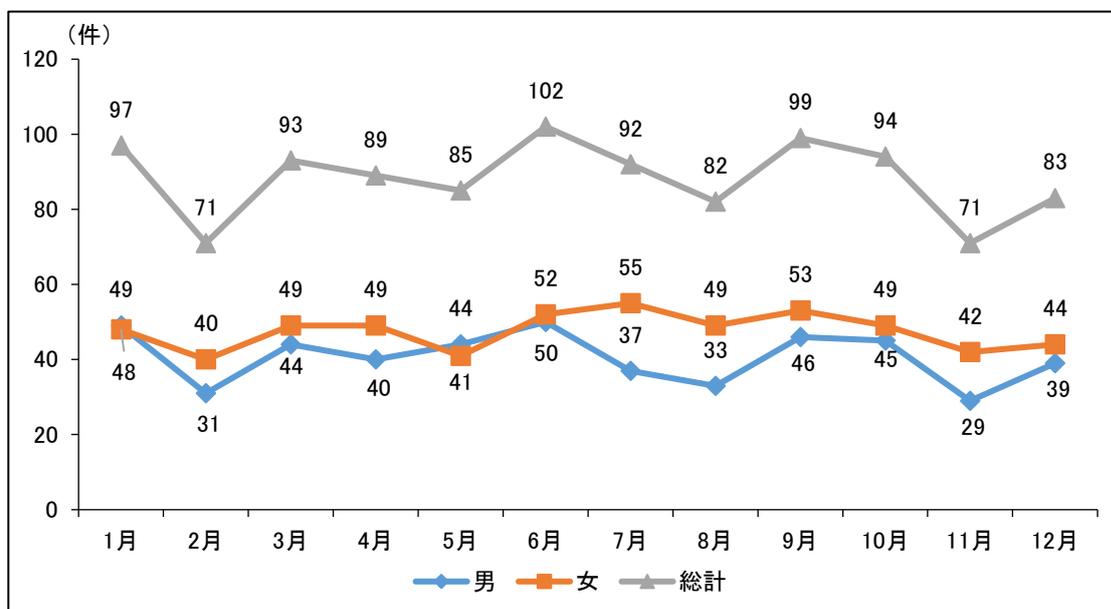
性別年齢層別では、女性は、「20-29歳」が151人で一番多く、次いで「40-49歳」が100人、「30-39歳」が97人となっており、20代の女性の自損行為が多い。
また、男性は、「40-49歳」が105人で一番多く、次いで「30-39歳」が81人、「50-59歳」が74人となっており、働き世代の自損行為が多いことがわかる。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

(7) 自損行為を要因に救急搬送された月別件数 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

男性は、「6月」が50人で一番多く、次いで「1月」が49人となっている。
女性は、「7月」が55人で一番多く、次いで「9月」が53人となっている。

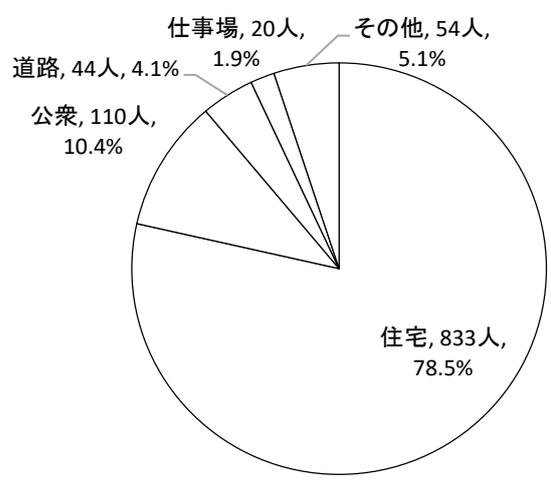


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(8) 自損行為の救急搬送発生場所 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計 1,061人)

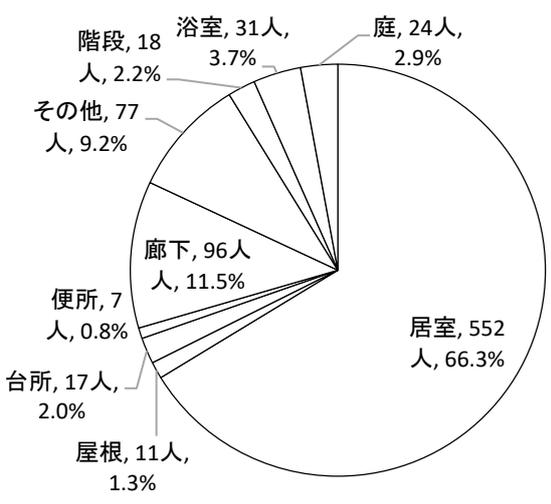
「住宅」が一番多く78.5%となっている。次いで「公衆」が10.4%、「その他」が5.1%となっている。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

(9) 自損行為の住宅内での救急搬送発生場所 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計 833人)

「居室」が一番多く66.3%で一番多く、次いで「廊下」が11.5%、「その他」が9.2%となっている。



居室(居間、応接室、寝室など)
屋根(屋上、物干し台、ベランダ、バルコニー等を含む)
台所(食堂を含む)
便所
廊下(玄関などの通路を含む)
その他(物置、地下室、車庫等)
階段(踊場を含む)
浴室(シャワー室、洗面所を含む)
庭(テラス等を含む)

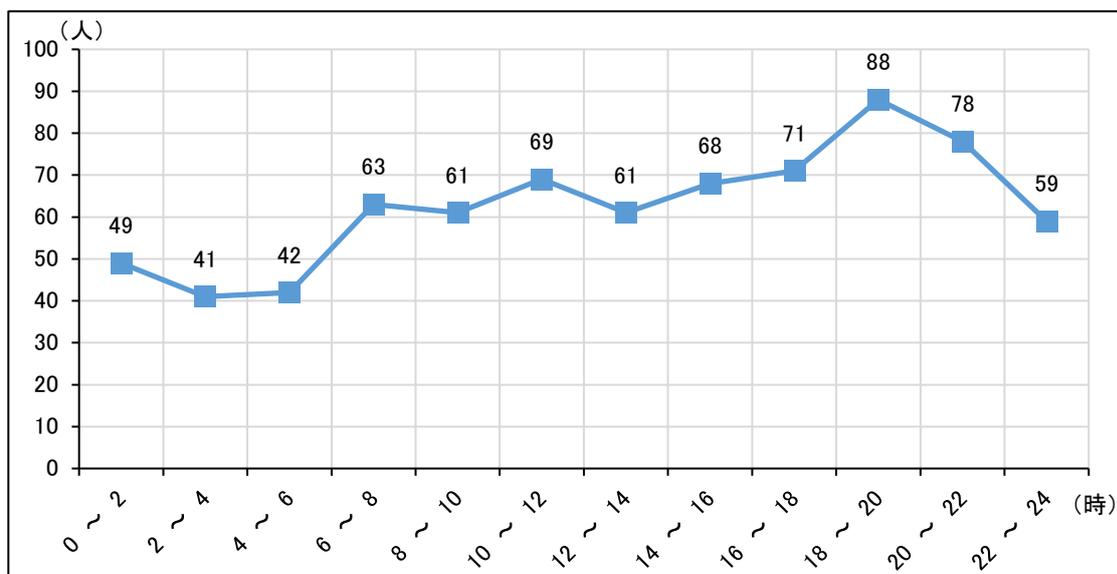
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野4 自殺予防

(10) 自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数(2014<平成26>年~2020<令和2>年累計)

ア 時間別

「18時~20時台」が88人で一番多く、次いで、「20~22時台」が78人、「16~18時台」が71人と20時付近に多い。

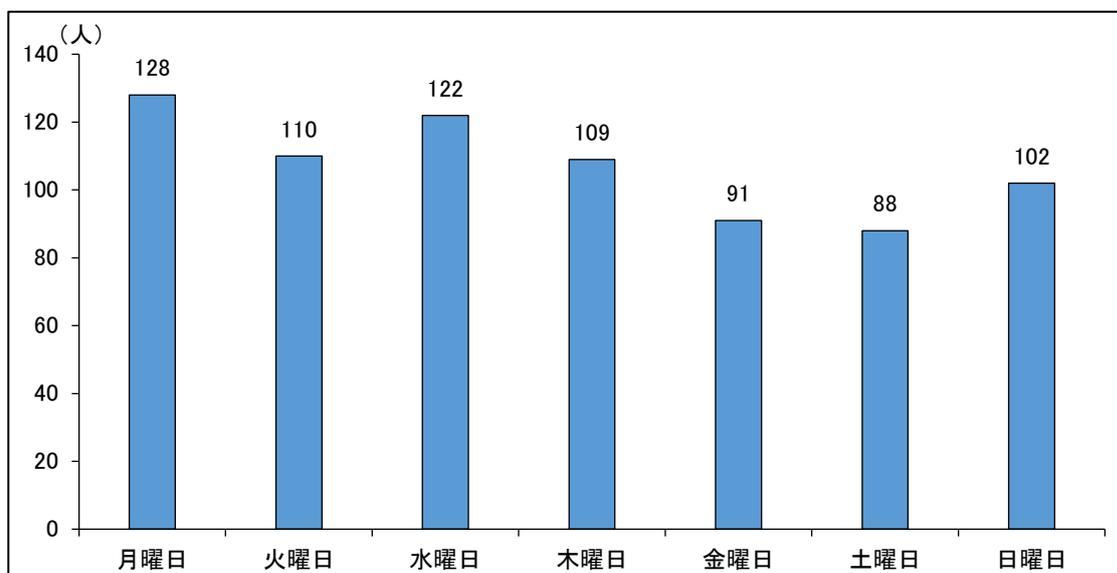


郡山地方広域消防組合「平成26~令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(10) 自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数(2014<平成26>年~2020<令和2>年累計)

イ 曜日別

「月曜日」が128人で一番多く、次いで「水曜日」が122人、「火曜日」が110人となっている。金曜日を除く平日に多い。



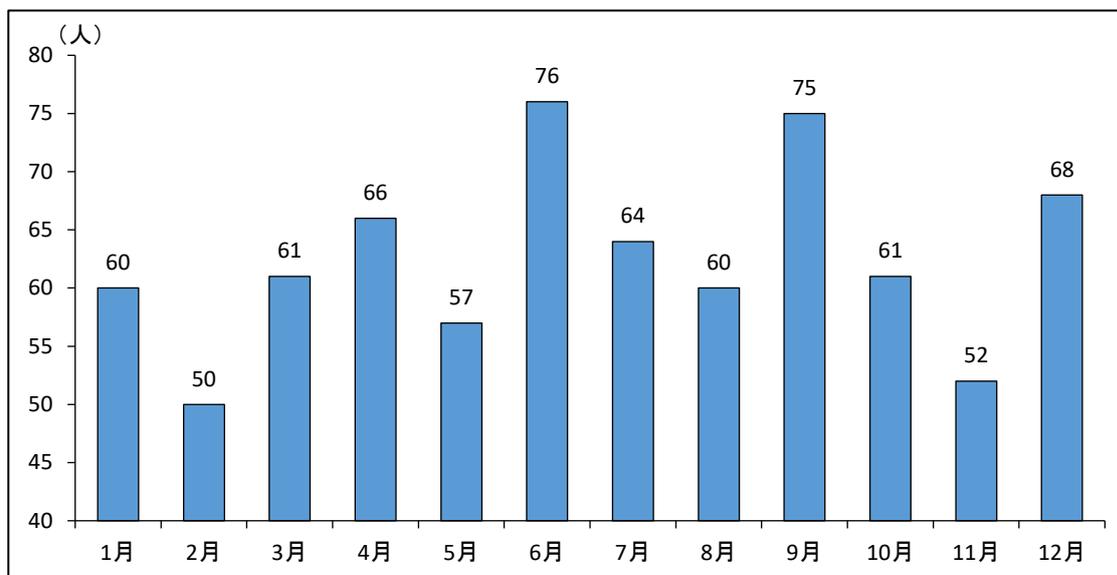
郡山地方広域消防組合「平成26~令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野4 自殺予防

(10) 自損行為による時間・曜日・月別救急搬送者数(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

ウ 月別

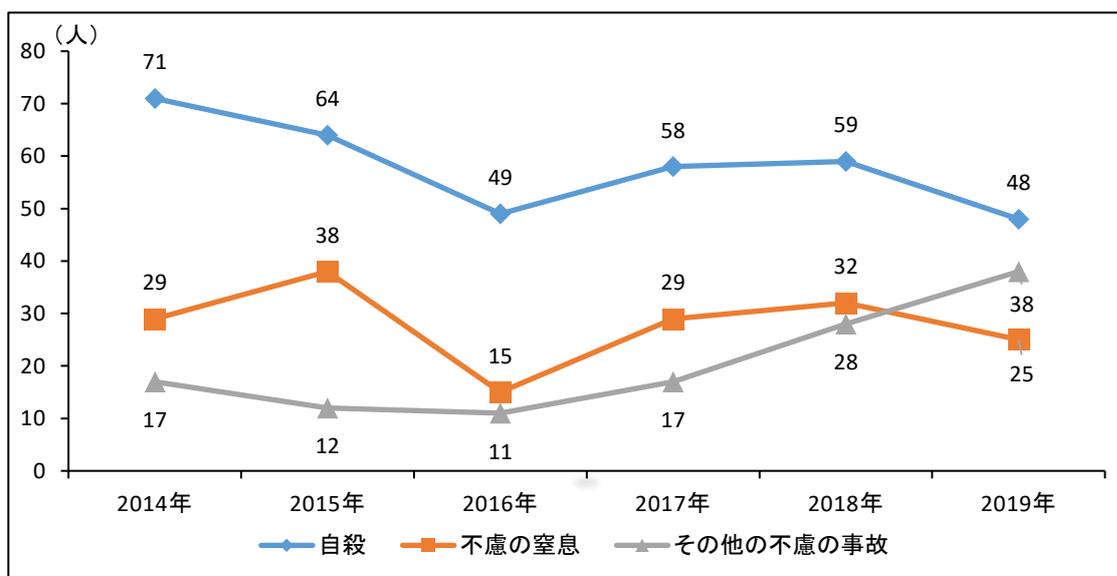
「6月」が76人で一番多く、次いで、「9月」が75人、「12月」が68人となっており、



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(11) 郡山市の傷病及びその他外因ごとの死亡者数推移(死亡者数が多い3項目での比較)

病気を除く死因では、「自殺」が常に一番多く、次いで「不慮の窒息」、「その他の不慮の事故」となっている。「自殺」は減少傾向にある。

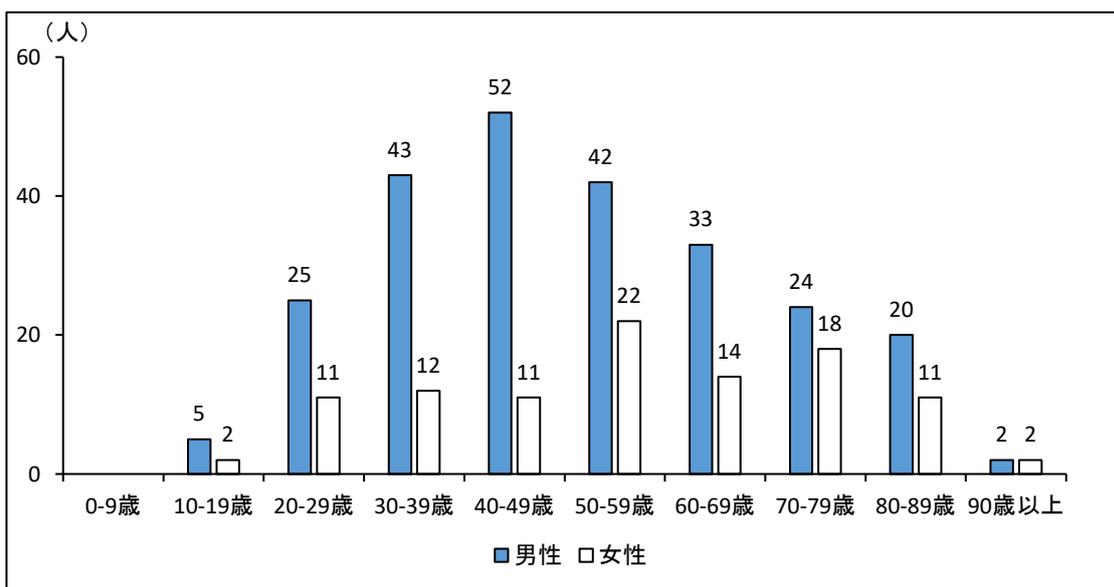
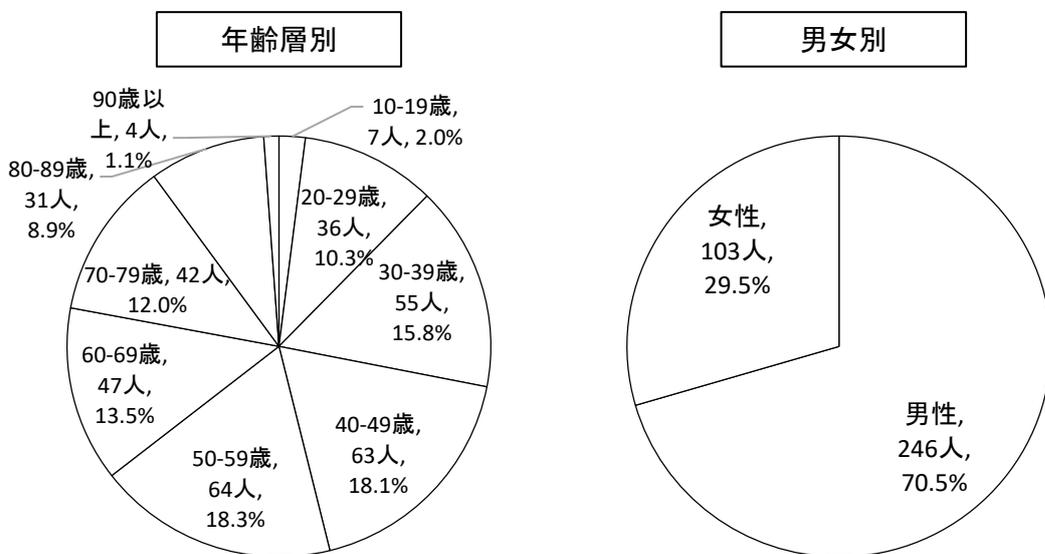


郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

分野4 自殺予防

(12) 年齢層別・男女別自殺者数(2014<平成26>年～2019<令和1>年累計 349人)

年齢層では、「50-59歳」が、18.3%で一番多く、次いで、「40-49歳」が18.1%、「30-39歳」が15.8%となっている。男女別では、男性のほうが女性より2倍以上多い。救急搬送では、女性の割合が多かったが、死因でみた場合、男性の割合が多くなる。また、年齢別男女別でみると30-50代の男性の自殺が多い。



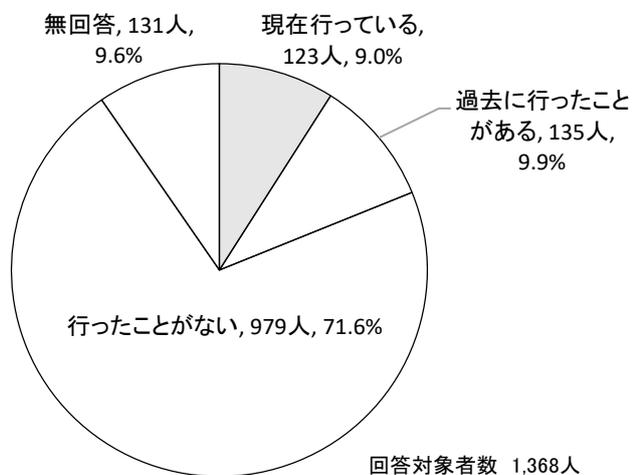
郡山市保健所「平成26～令和1年 人口動態統計」より

分野4 自殺予防

(13) 自殺・暴力・虐待の予防活動の取組状況 (例) 相談、見回り、講習会への参加など

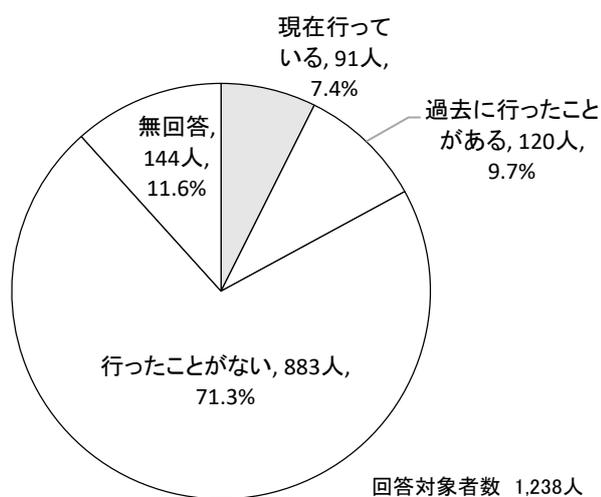
「現在行っている」を比べてみると、2018(平成30)年が7.4%、2020(令和2)年が9.0%と2018(平成30)年に比べ1.6ポイント上昇した。

2020(令和2)年



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

2018(平成30)年

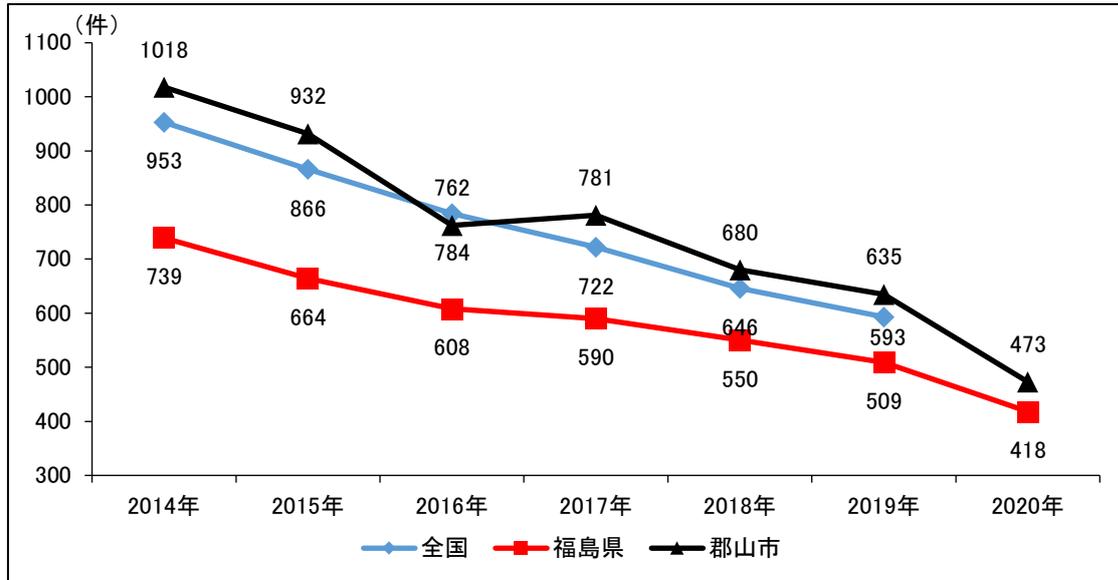


「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野5 防犯

(1) 刑法犯認知件数の推移(人口10万人あたり認知件数での比較)

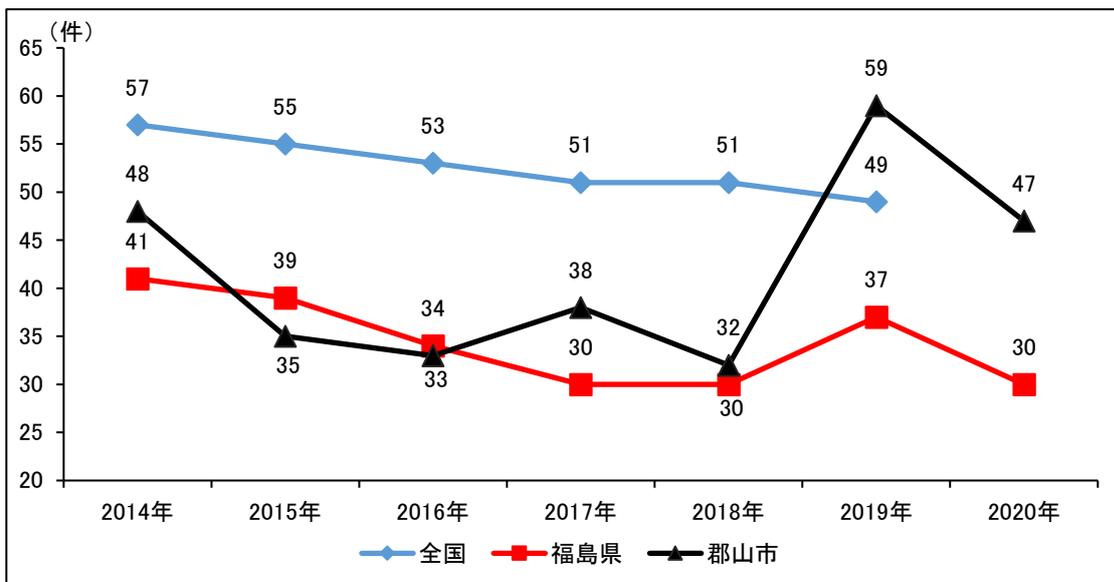
減少傾向が続いている。



警察庁「平成27～令和2年 警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「平成26～令和2年 地域安全白書」より
 ※2020(令和2)年の郡山市の値は郡山警察署・郡山北警察署からの聞き取り

(2) 凶悪及び粗暴犯認知件数合計の推移(人口10万人あたり認知件数での比較)

2014(平成26)年に全国を下回り、2015(平成27)年には、県を下回ったが、
 2017(平成29)年以降は再び県を上回り、2019(令和1)年には全国も上回った。

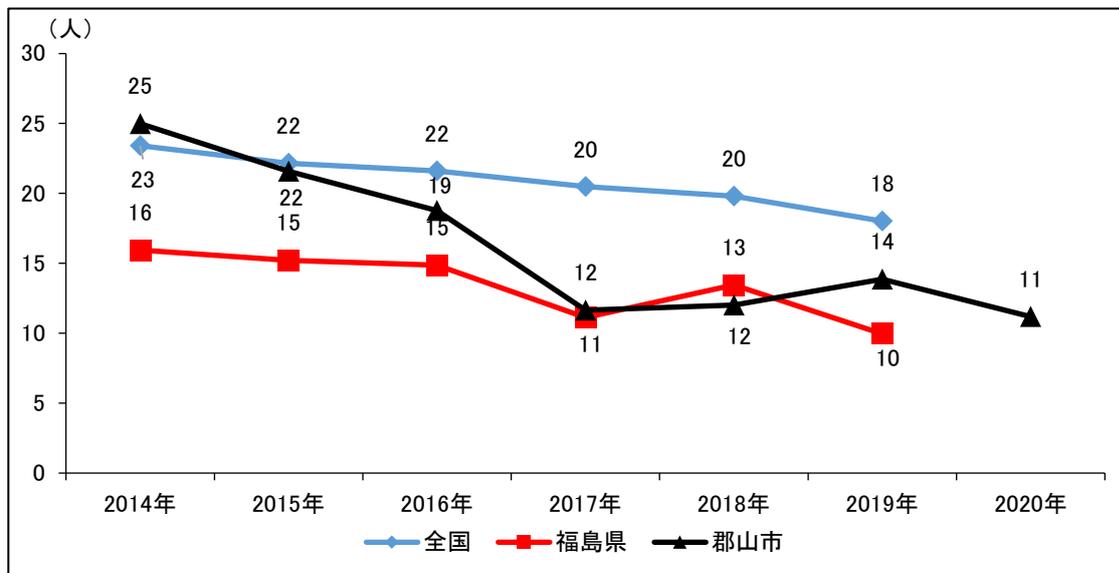


警察庁「平成26～令和元年 警察白書」、郡山警察署・郡山北警察署「平成26～令和元年 地域安全白書」より
 ※2020(令和2)年の郡山市の値は郡山警察署・郡山北警察署からの聞き取り

分野5 防犯

(3) 加害を要因とした救急搬送推移(人口10万人あたり)

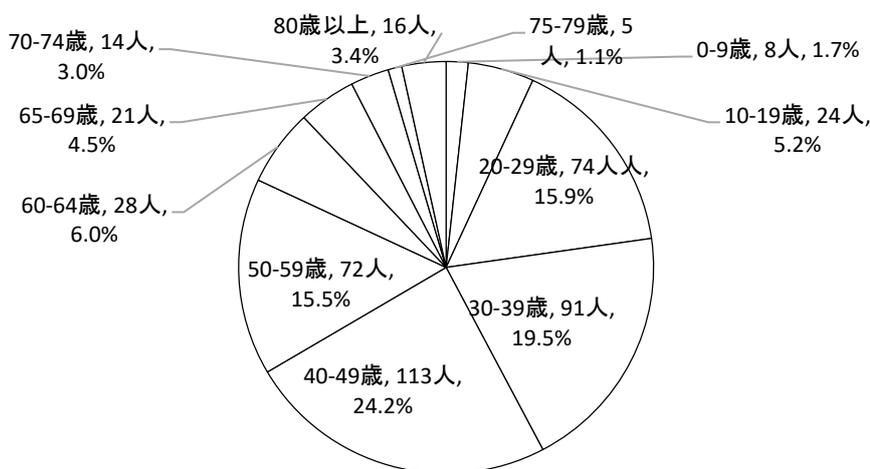
2014年から減少傾向が続いている。2016年に全国を下回り、2017年に大きく減少したが、その後は横ばいとなっている。



総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、福島県消防保安課「平成27～令和元年版 消防防災年報」
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(4) 加害を要因とした救急搬送の年齢階層別構成 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計 466人)

「40-49歳」が24.2%で一番多く、次いで「30-39歳」が19.5%、「20-29歳」が15.9%となっている。

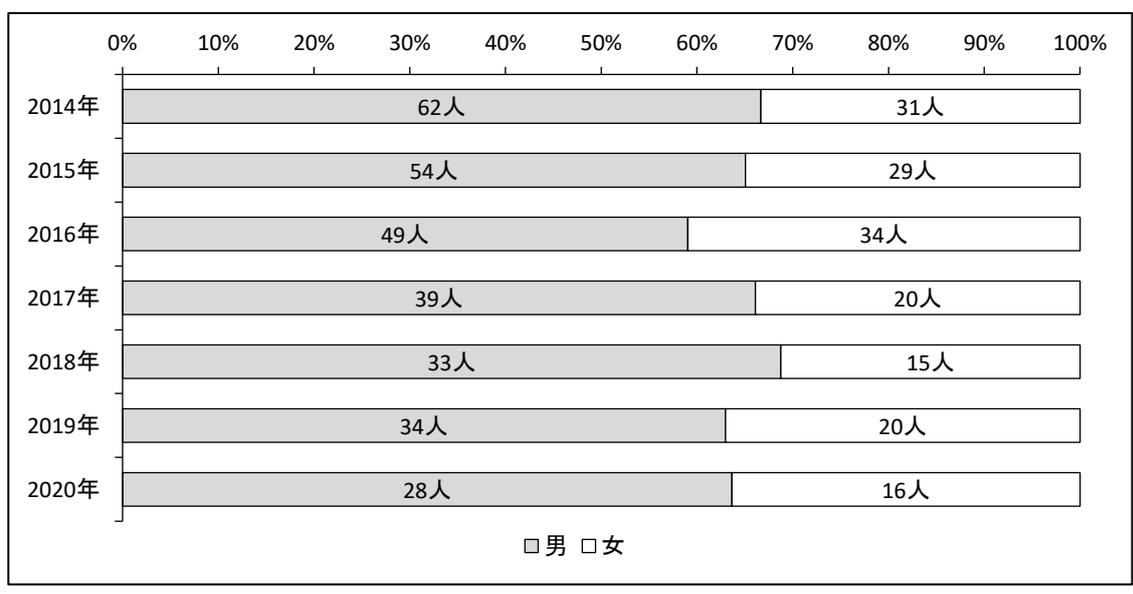


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野5 防犯

(5) 加害を要因とした救急搬送の男女別構成

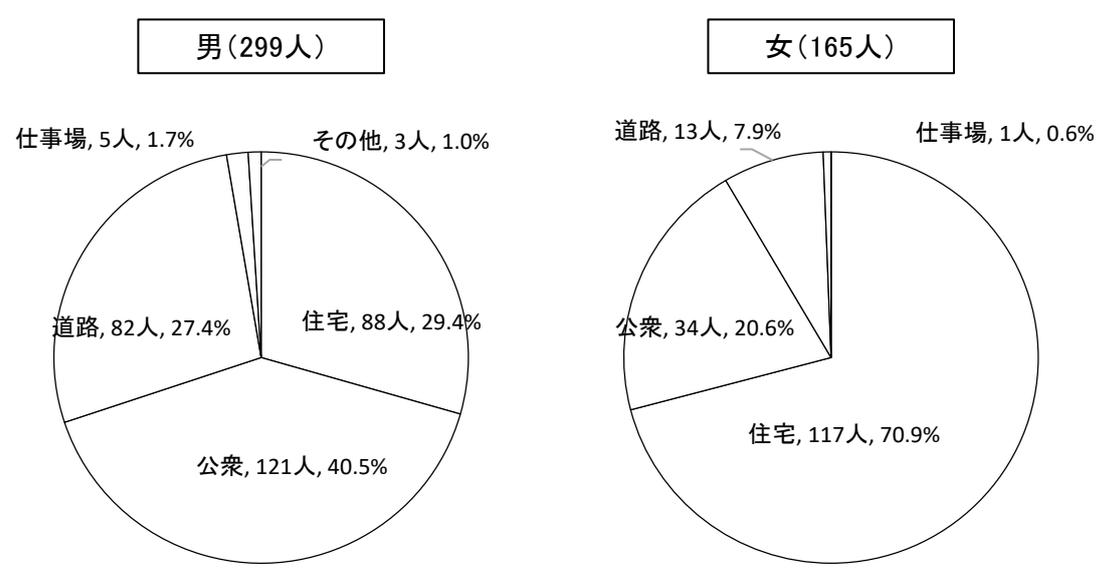
各年で男性が6割近くを占めている。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

(6) 加害を要因とした救急搬送の男女別の救急搬送場所

男性は、40.5%と「公衆」が一番多く、次いで「住宅」が29.4%、「道路」が27.4%となっている。
 女性は、70.9%と「住宅」が一番多く、次いで「公衆」が20.6%、「道路」が7.9%となっている。
 男性は、外(公衆や道路)での加害被害が多いことから喧嘩等が考えられる。
 女性は住宅での加害被害が多い(約7割)ことから家庭内暴力等が考えられる。



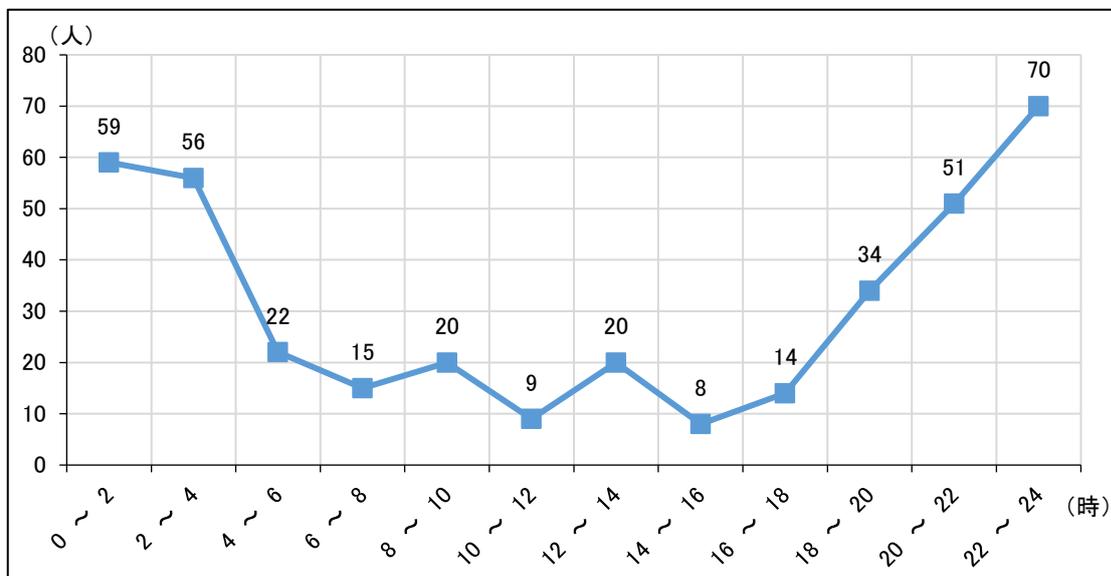
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ」より

分野5 防犯

(7) 加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

ア 時間別

「22～24時台」が70人で一番多く、次いで、「0～2時台」が59人、「2～4時台」が56人となっており、16時以降に急激に増加し、早朝4時以降は急激に減少していく。

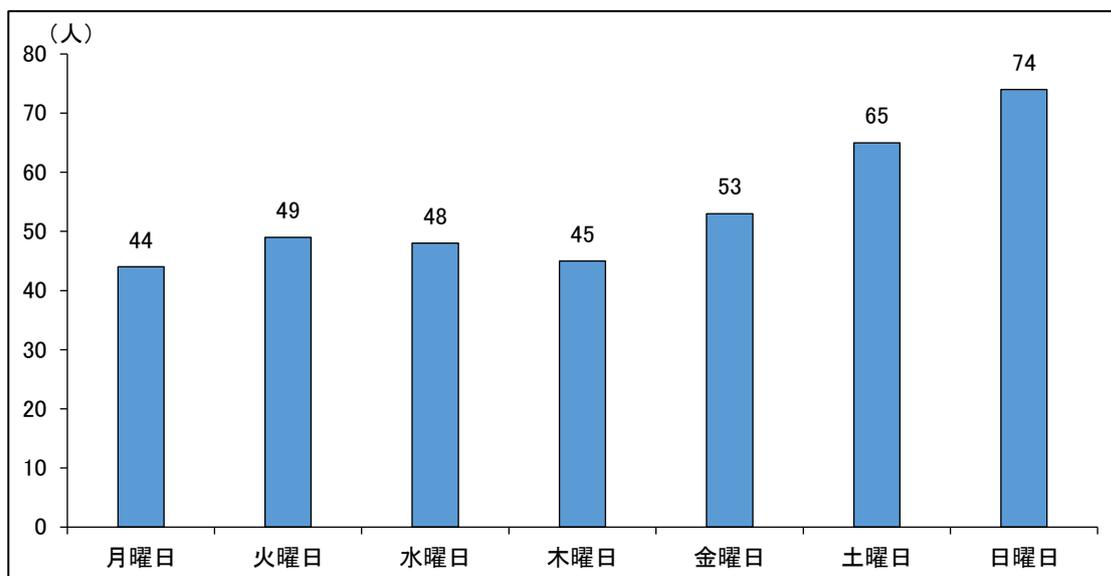


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(7) 加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数 (2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

イ 曜日別

「日曜日」が74人で一番多く、次いで「土曜日」が65人、「金曜日」が53人となっており、週末に近づくにつれ増加傾向にある。



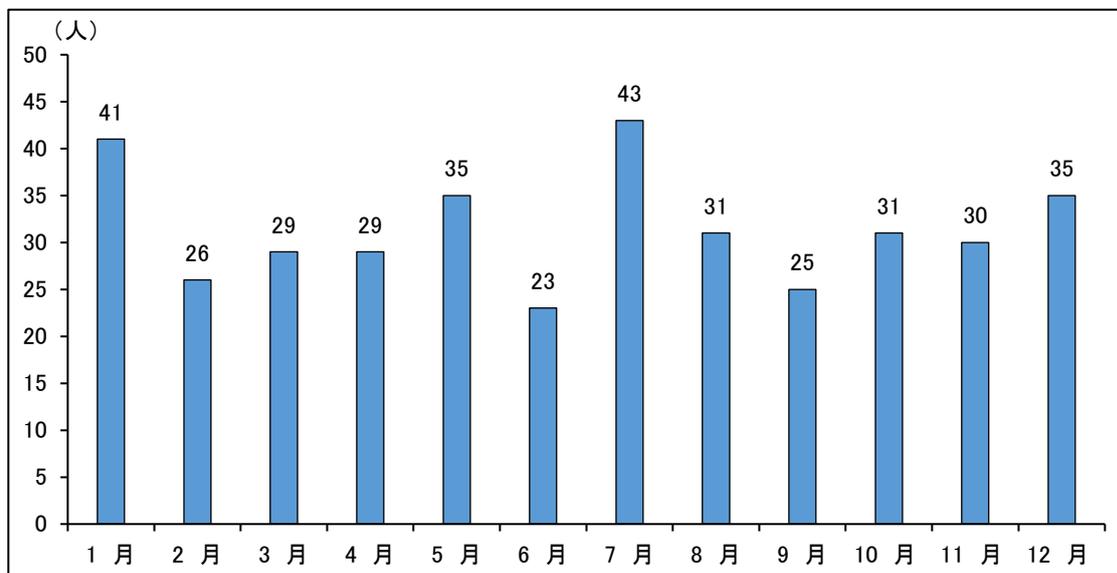
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野5 防犯

- (7) 加害を要因とした救急搬送の時間・曜日・月別救急搬送者数
(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

ウ 月別

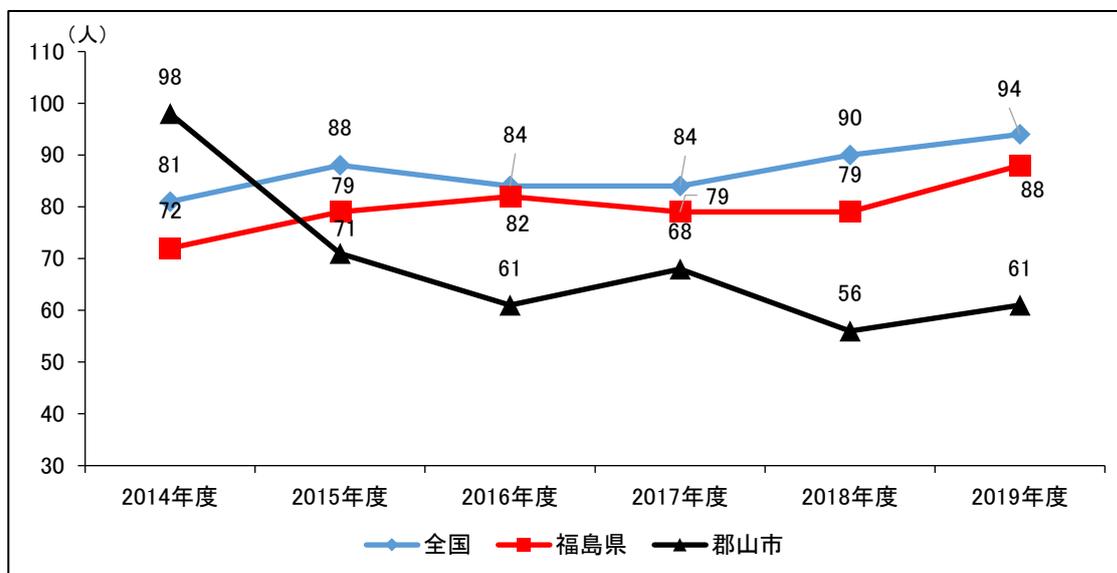
「7月」が43人で一番多く、次いで「1月」が41人、「5月」「12月」が35人となっている。
暑気払いや忘年会、新年会等の宴会の時期に多くなる傾向がある。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

- (8) 10万人当たりの配偶者によるDV(ドメスティックバイオレンス)相談

郡山市は、2015(平成27)年度に大幅に減少し、その後も減少傾向にある。
2014(平成26)年度に全国及び県を上回ったが、それ以外の年は下回っている。



内閣府男女共同参画局

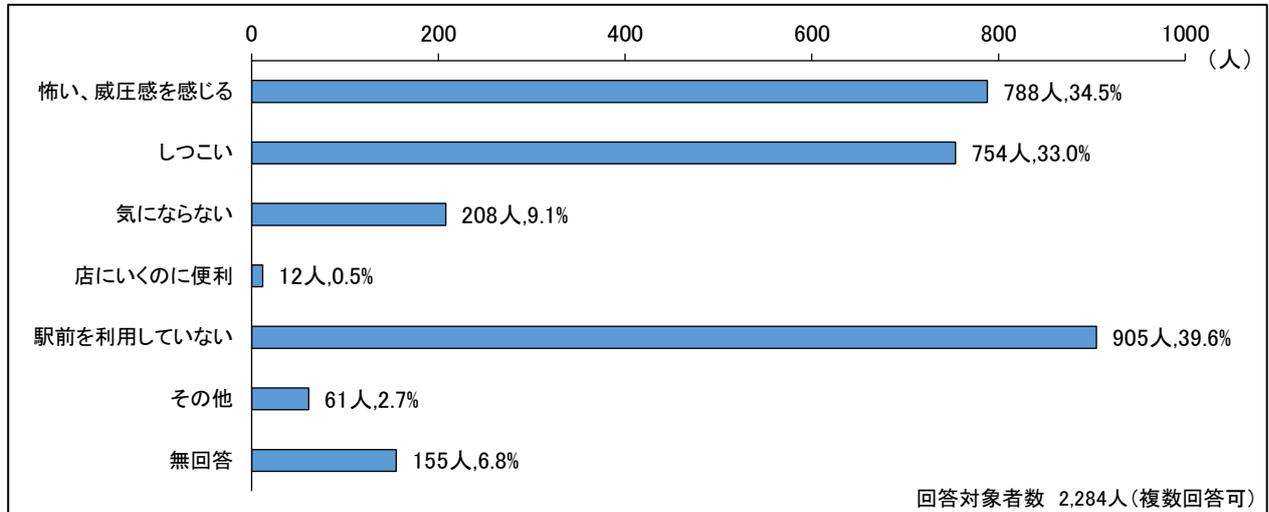
「平成26～令和元年度配偶者暴力相談支援センターにおける配偶者からの暴力が関係する相談件数などの結果について」
子ども家庭相談センター「平成26～令和元年度相談等の取扱件数」より

分野5 防犯

(9) 郡山駅前の違法客引き等への印象

問 郡山駅前の違法客引きや違法スカウト行為(通称「カラス族」)にどのような印象を持っていますか？(いくつでも選択) ※飲食店、カラオケ店の呼び込みは、違法客引きではありません。

「駅前を利用していない」が39.6%で一番多く、次いで「怖い、威圧感を感じる」が34.5%、「しつこい」が33.0%となっている。

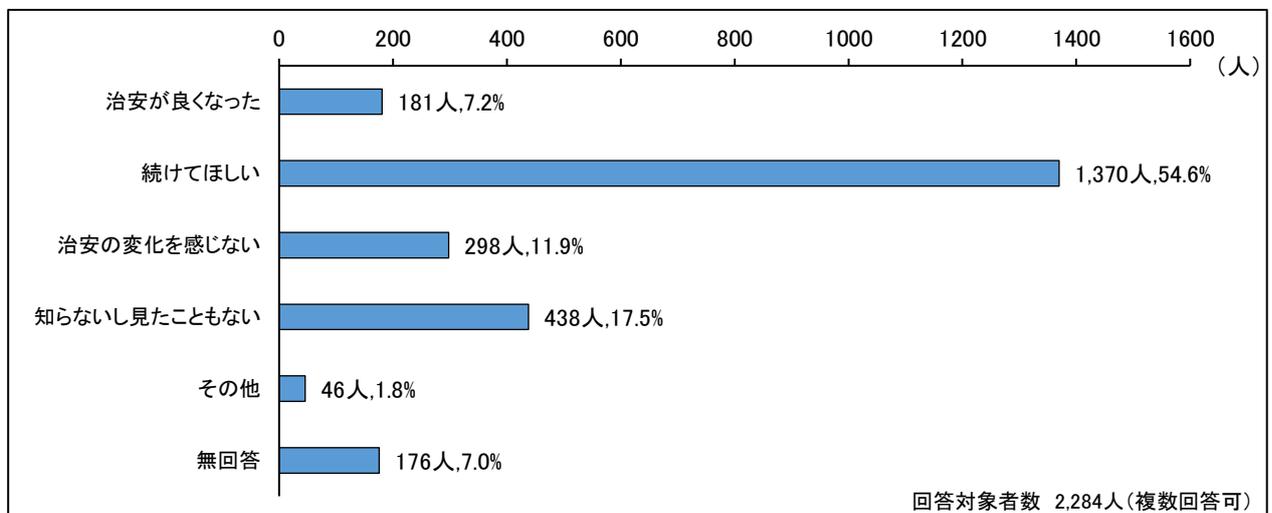


「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

(10) 違法客引き対策パトロールについて

問 現在、郡山駅前の違法客引き対策として、地域住民、防犯協会、警察、市等が協働して定期的にパトロールを行っていますが、どのようにお考えですか？(いくつでも選択)

「続けてほしい」が54.6%で一番多く、次いで「知らないし、見たこともない」が17.5%、「治安の変化を感じない」が11.9%となっている。



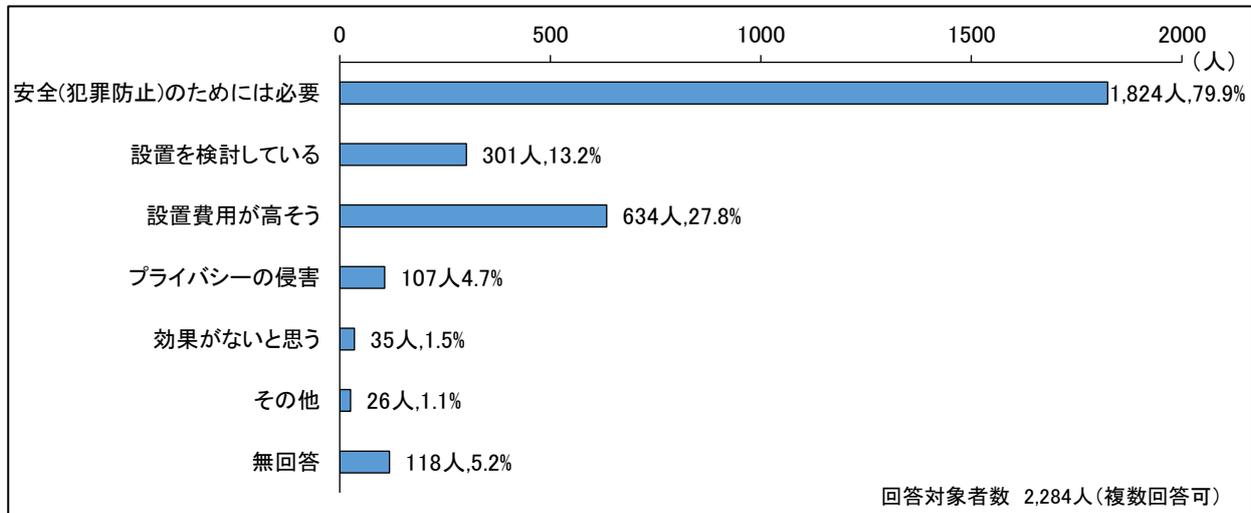
「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野5 防犯

(11) 住宅街への防犯カメラ設置に対する印象

問 住宅街に防犯カメラを設置することや、車にドライブレコーダーを設置することについて当てはまるものを選択してください。(いくつでも選択)

「安全(犯罪防止)のためには必要」が79.9%で一番多く、次いで「設置費用が高そう」が27.8%、「設置を検討している」が13.2%となっている。

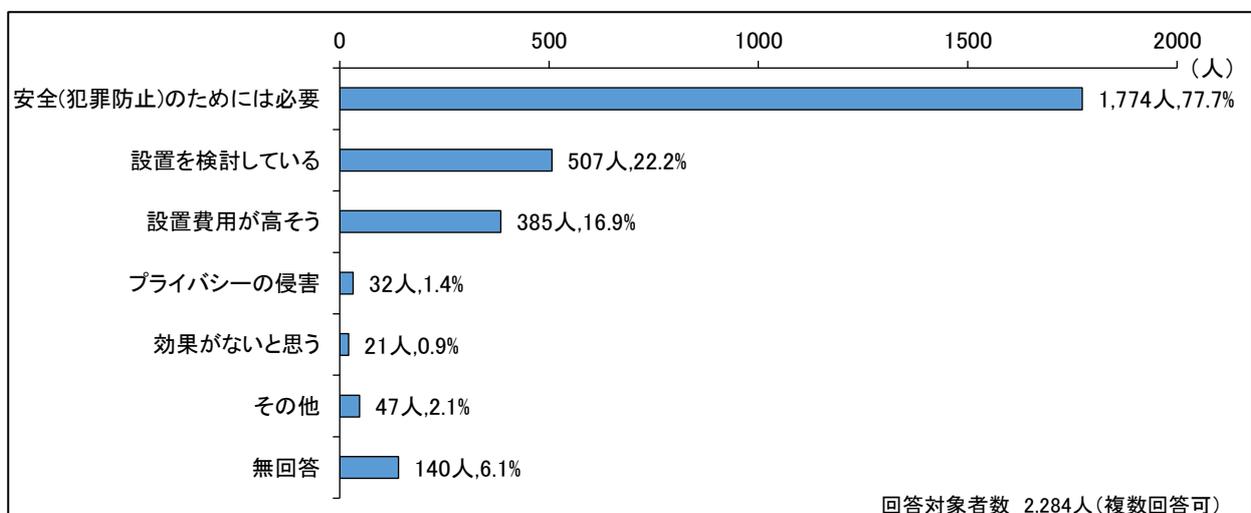


「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

(12) 車へのドライブレコーダー設置に対する印象

問 車にドライブレコーダーを設置することについて当てはまるものを選択してください。(いくつでも選択)

「安全(犯罪防止)のためには必要」が77.7%で一番多く、次いで「設置を検討している」が22.2%、「設置費用が高そう」が16.9%となっている。



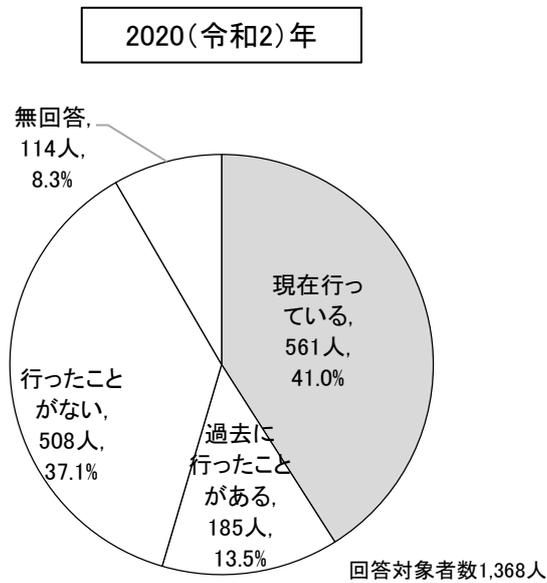
「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野5 防犯

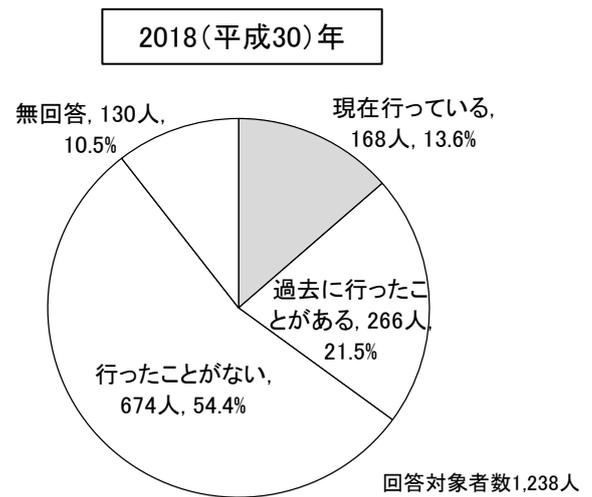
(13) 防犯活動の取組状況

(例) 防犯メール受信、見回り、不審電話対策など

「現在行っている」を比べてみると、2018(平成30)年13.6%、2020(令和2)年41.0%と2016(平成28)年に比べ27.4ポイント上昇した。



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

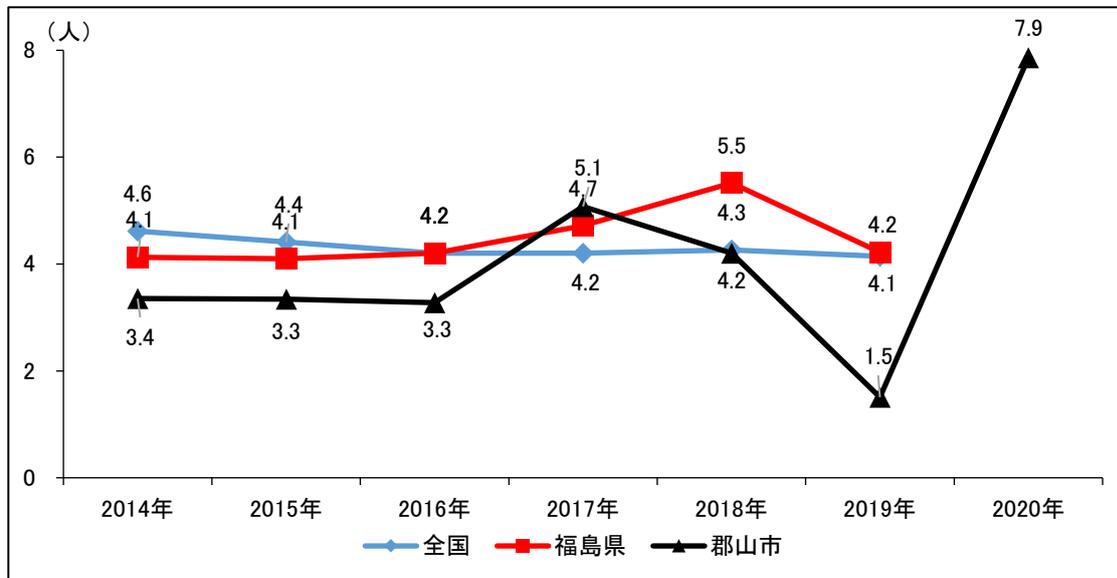


「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査」より

分野6 防災・環境安全

(1) 火災を要因とした救急搬送推移(人口10万人あたり)

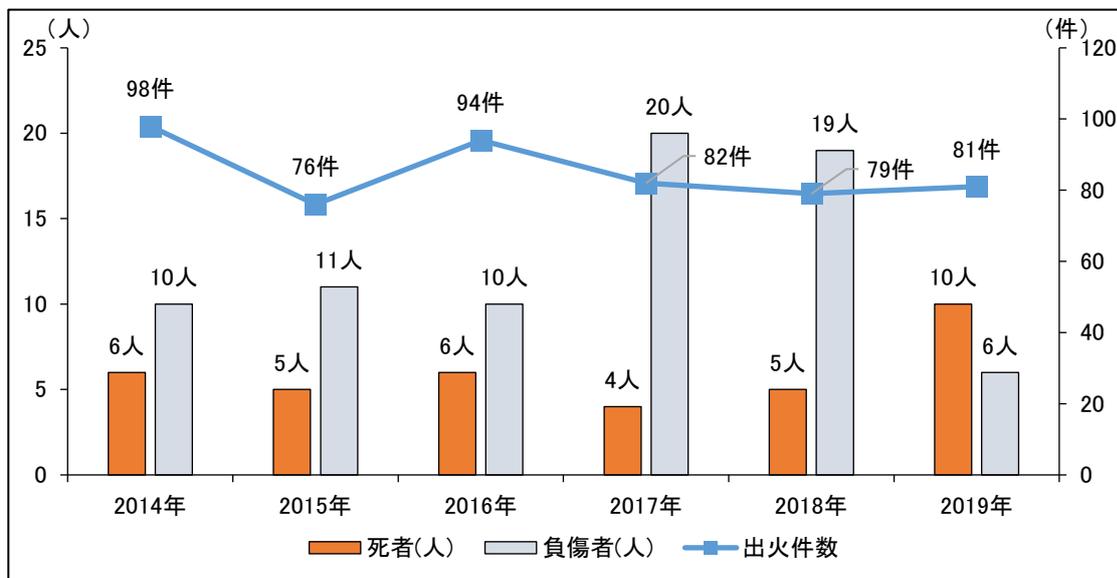
郡山市は、2016(平成28)年まで全国及び県を下回っていたが、2017(平成29)年には上回っており、それ以降減少傾向にあったが、2020(令和2)年に大幅に増加している。



総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、福島県消防保安課「平成26～令和元年版 消防防災年報」
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(2) 郡山市の出火件数と死傷者数の推移

出火件数は、2016(平成28)年以降減少傾向にあったが、2019(令和1)年に再び増加した。死亡者数と負傷者数は、出火件数に比例していない。

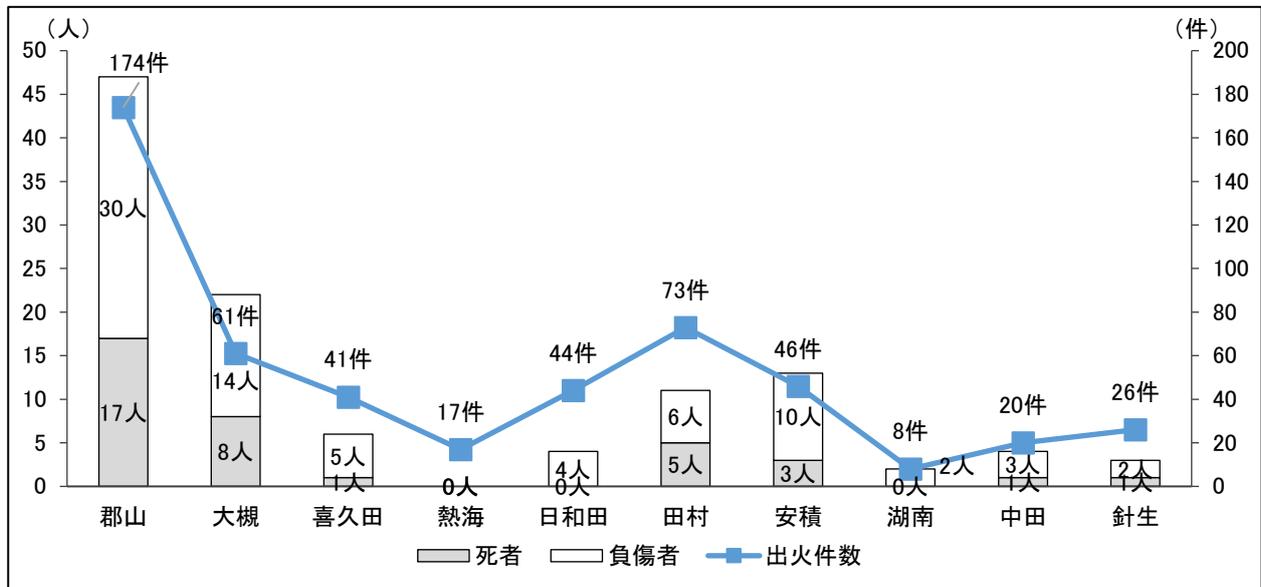


郡山地方広域消防組合「平成26～令和元年版 消防年報こおりやま」より

分野6 防災・環境安全

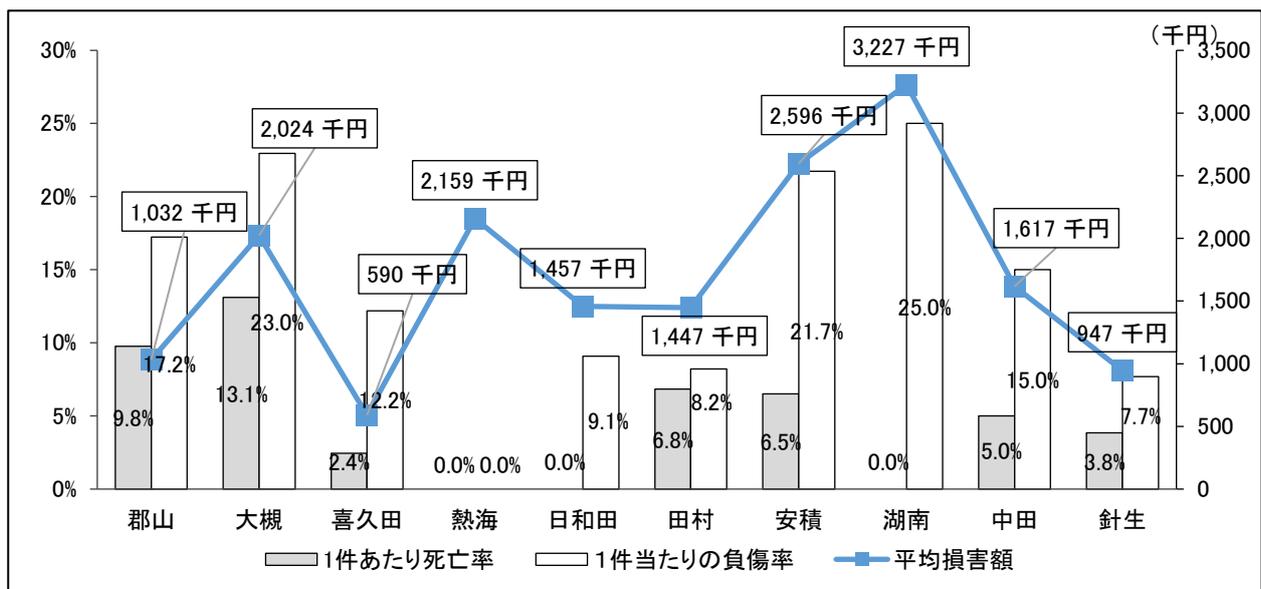
(3) 郡山市地域ごとの出火件数と死傷者数(2014<平成26>年～2019<令和1>年累計)

出火件数では、「郡山」が174件で一番多く、次いで「田村」が73件、「大槻」が61件となっている。
 死傷者数では、「郡山」が47人で一番多く、次いで「大槻」が22人、「安積」が13人となっている。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和元年版 消防年報」より

(参考) 郡山市地域ごとの出火件数あたりにおける死傷者率と平均損害額 (2014<平成26>年～2019<令和1>年累計)

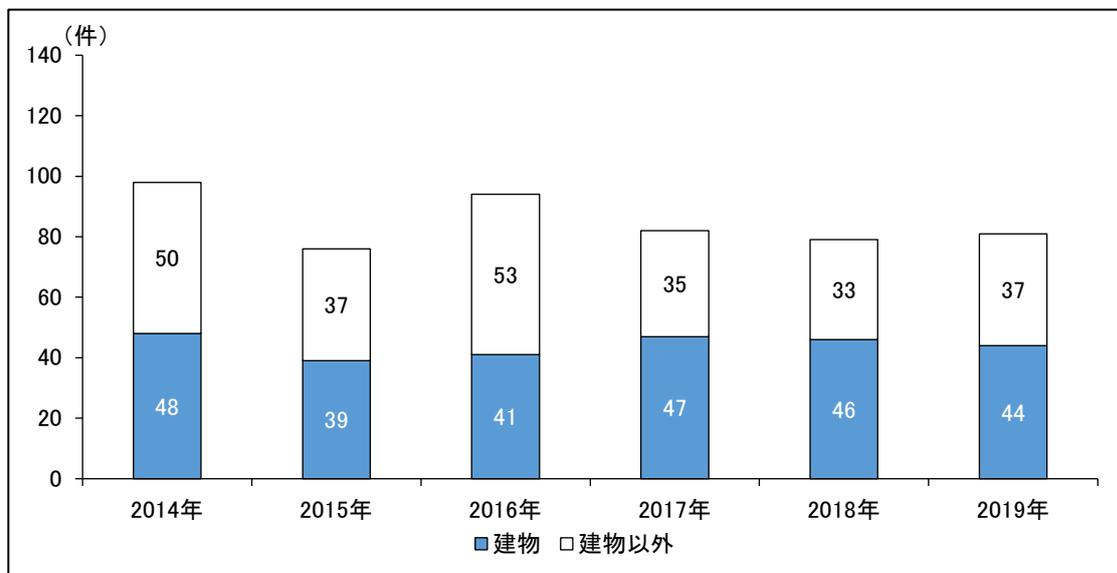


郡山地方広域消防組合「平成26～令和元年版 消防年報」より

分野6 防災・環境安全

(4) 郡山市の出火発生場所について

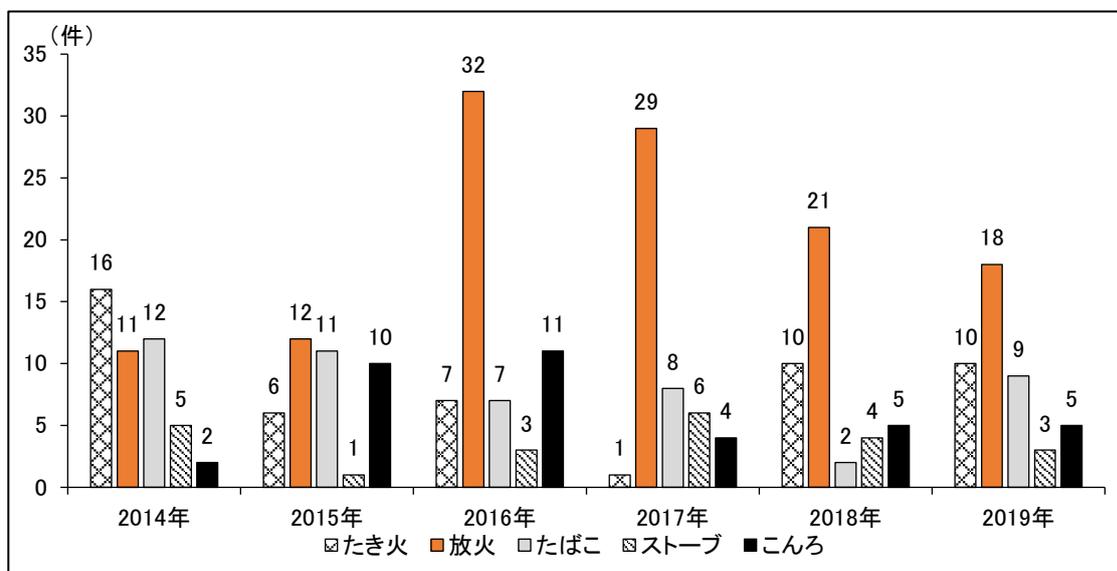
「建物」、「建物以外」の割合は、年ごとに異なる。
2017(平成29)年以降は、「建物」の割合が多い傾向にある。



郡山地方広域消防組合「平成26～令和元年版 消防年報」より

(5) 郡山市の火災発生原因について(その他及び不明を除く火災原因で多い5項目での比較)

「放火」は2016(平成28)年に急激に増加した。
2019(令和1)年では、「放火」が18件で一番多く、次いで「たき火」が10件、
「たばこ」が9件となっている。
※「放火」には放火の疑いも含まれる。

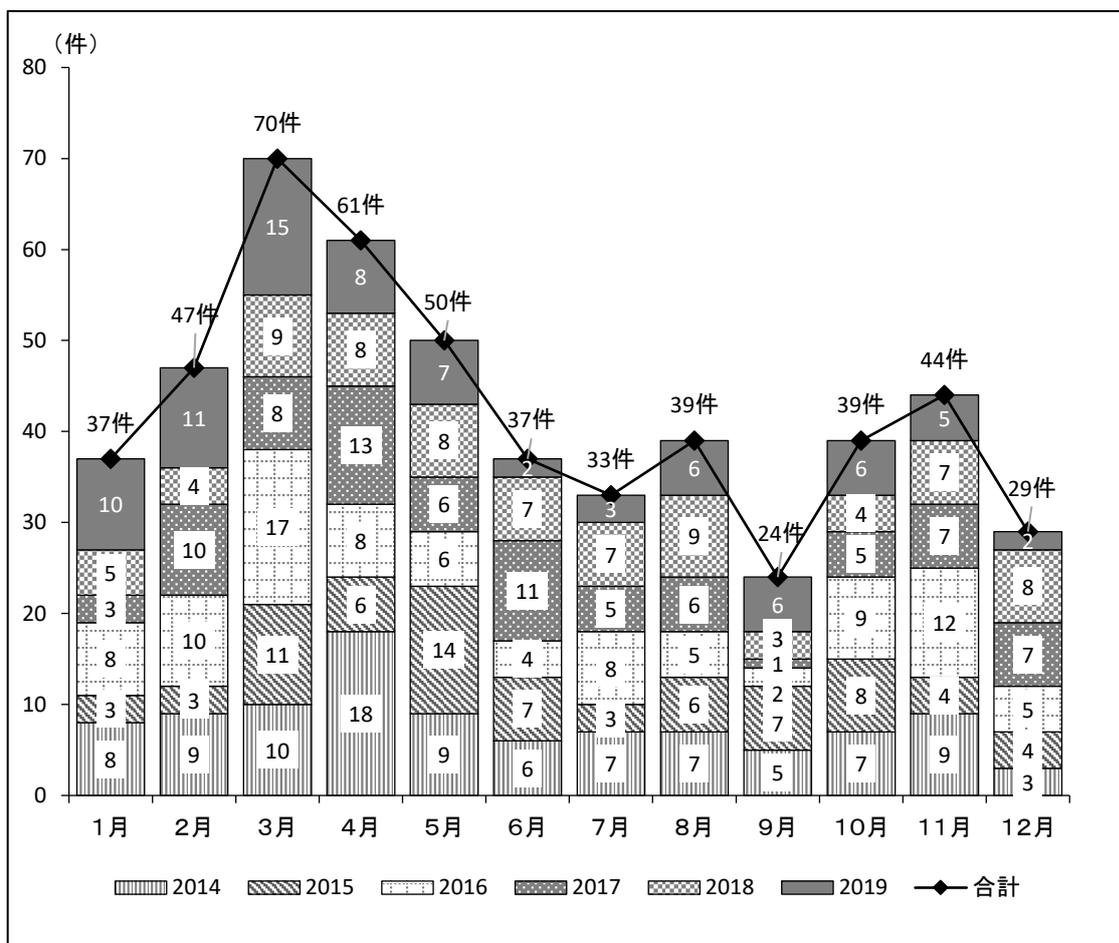


郡山地方広域消防組合「平成26～令和元年版 消防年報」より

分野6 防災・環境安全

(6) 郡山市の月別火災発生件数(2014<平成26>年～2019<令和1>年累計)

月別では、「3月」が70件で一番多く、次いで「4月」が61件、「5月」が50件と、春に火災が多い。

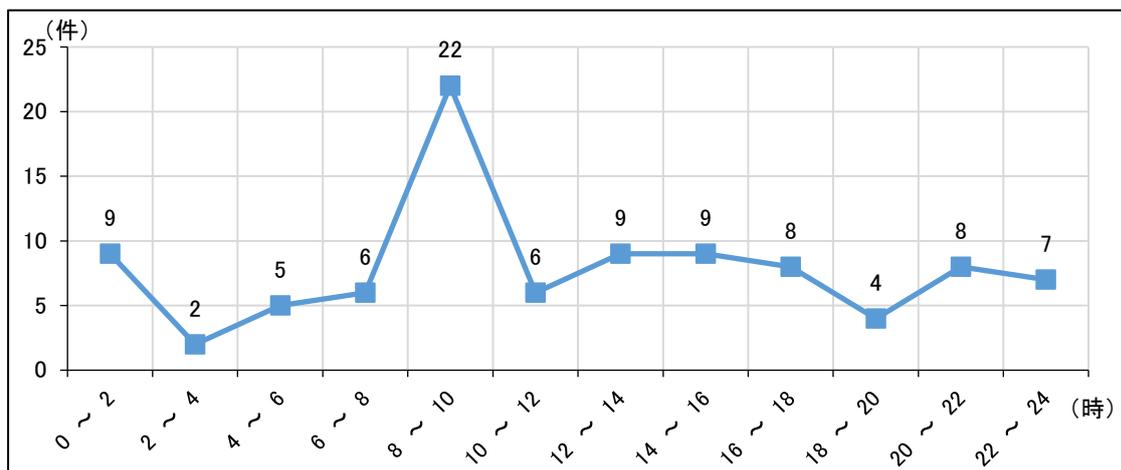


郡山地方広域消防組合「平成26～令和元年版 消防年報」より

(7) 火災による時間・曜日・月別救急搬送者数(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

ア 時間別

時間別では、「8～10時台」が22件で一番多い。



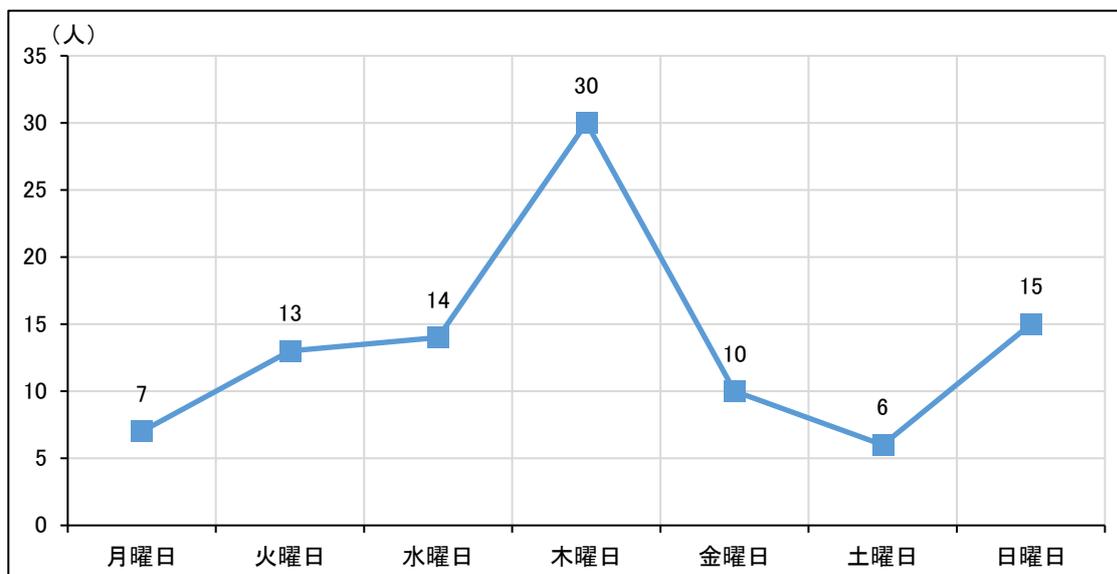
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

(7) 火災による時間・曜日・月別救急搬送者数(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

イ 曜日別

曜日別では、「木曜日」が30件で一番多く、次いで「日曜日」が15件となっている。
比較的土曜日の火災は少ない。

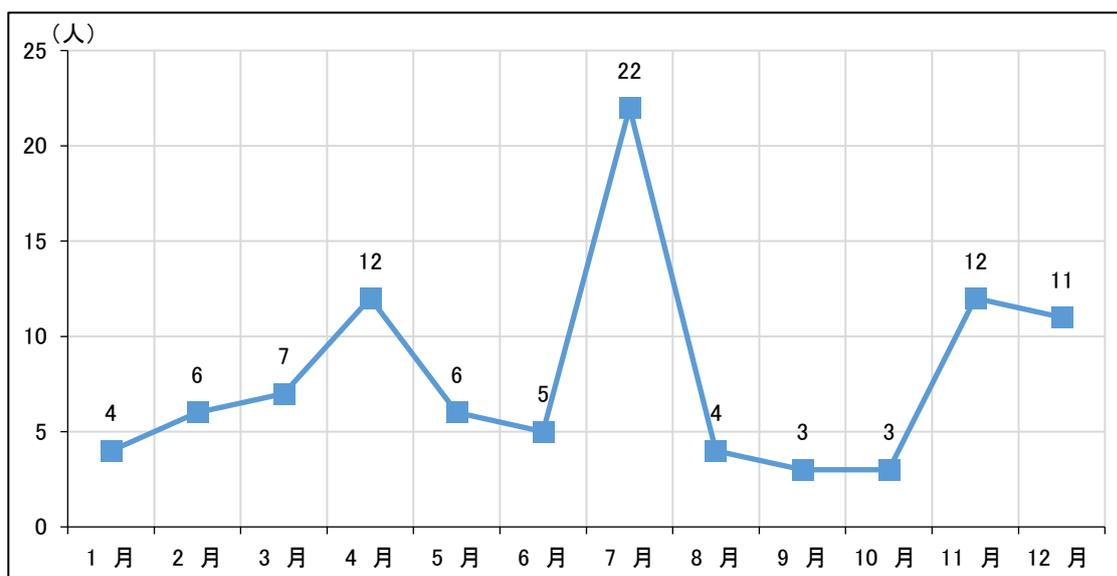


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

(7) 火災による時間・曜日・月別救急搬送者数(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計)

ウ 月別

月別では、「7月」が22件で一番多く、次いで「4月」、「11月」が12件となっている。

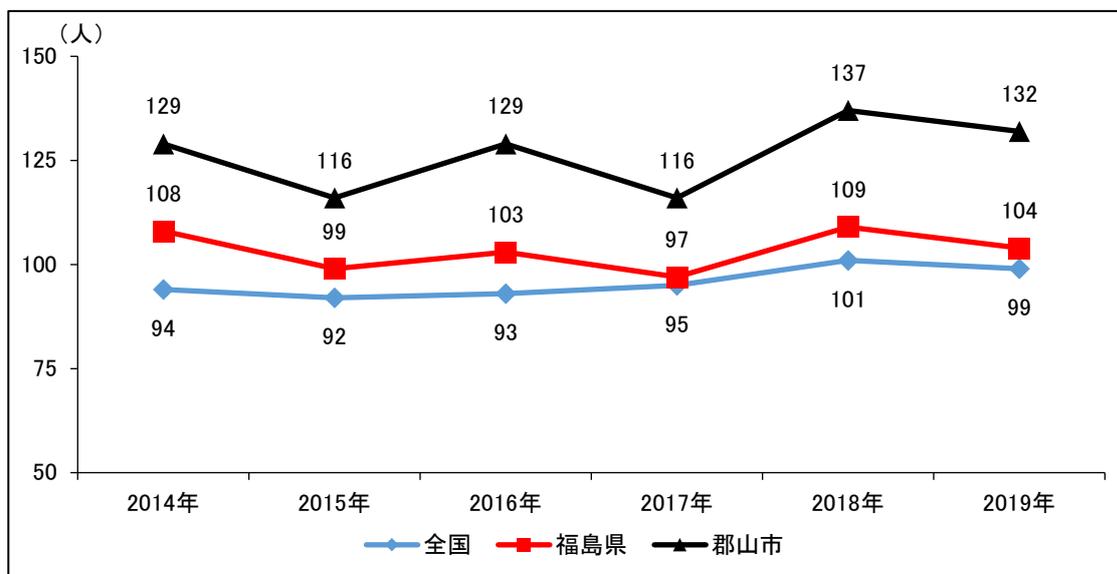


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

(8) 全国・福島県・郡山市の労働災害による死傷者数推移(10万人あたり)

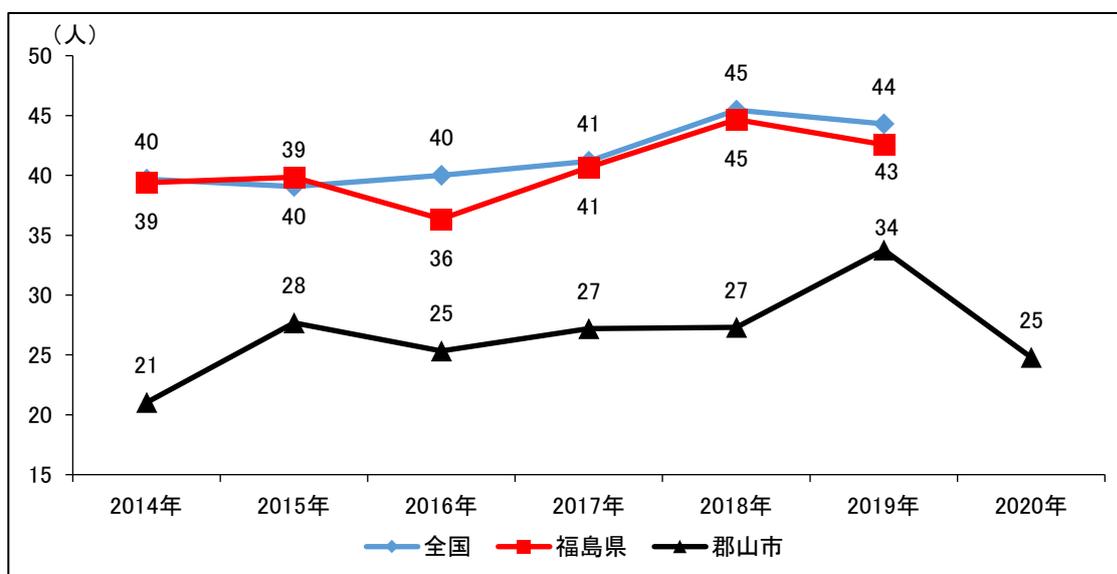
郡山市は、各年で全国及び県を上回っている。増加減少を繰り返している。



厚生労働省労働基準局・福島労働局・郡山労働基準監督署「平成26～令和元年労働災害発生状況」より

(9) 労働災害を要因とした救急搬送者数推移(10万人あたり)

郡山市は、全国及び県を下回っている。また、2014(平成26)年、2019(令和1)年以外はほぼ横ばいで推移している。(8)では、労働災害で死亡または負傷する割合が全国及び県より大きいのが、救急搬送では全国及び県を下回る。



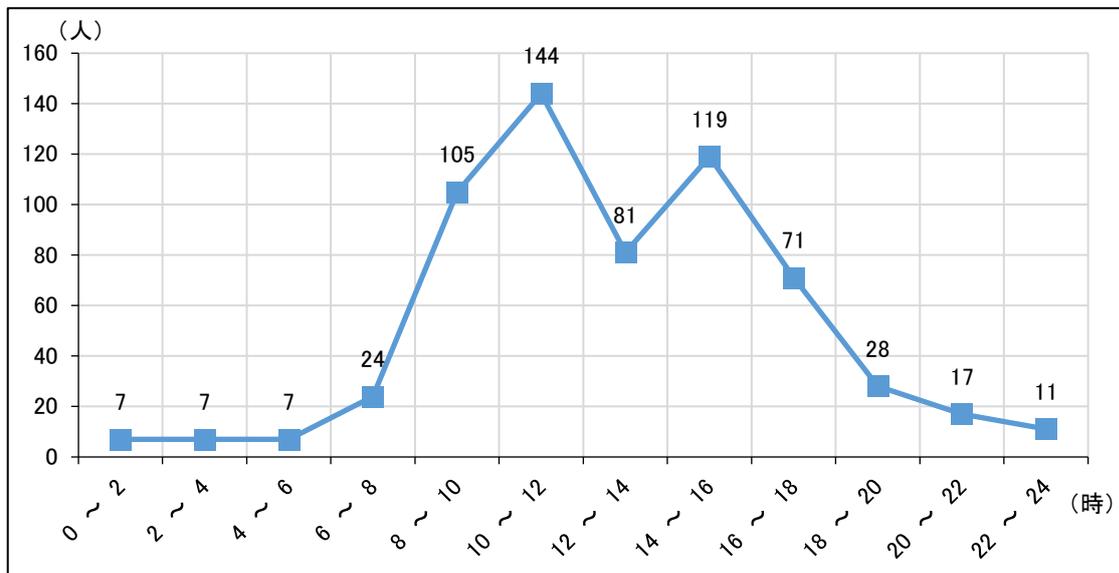
総務省消防庁「平成27～令和2年版 消防白書」、福島県消防保安課「平成27～令和元年版 消防防災年報」、郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

- (10) 労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数
(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者)

ア 時間別

「10～12時台」が144人で一番多く、次いで「14～16時台」が119人、「8～10時台」が105人となっている。

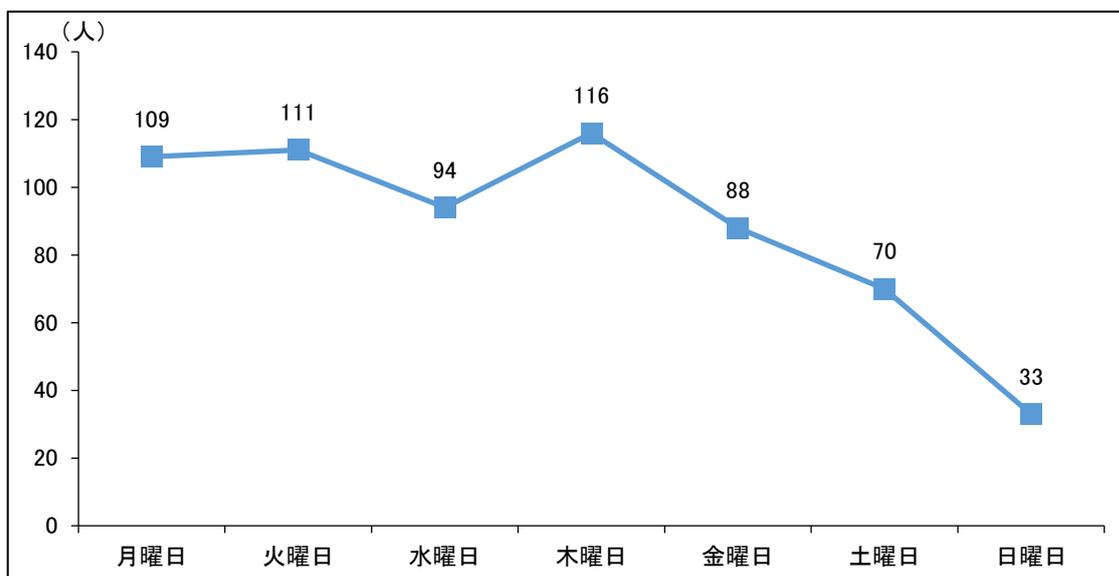


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

- (10) 労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数
(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者)

イ 曜日別

「木曜日」が116人で一番多く、次いで「火曜日」が111人、「月曜日」が109人となっている。休日明けから休日週末前の木曜日まで上昇傾向である。



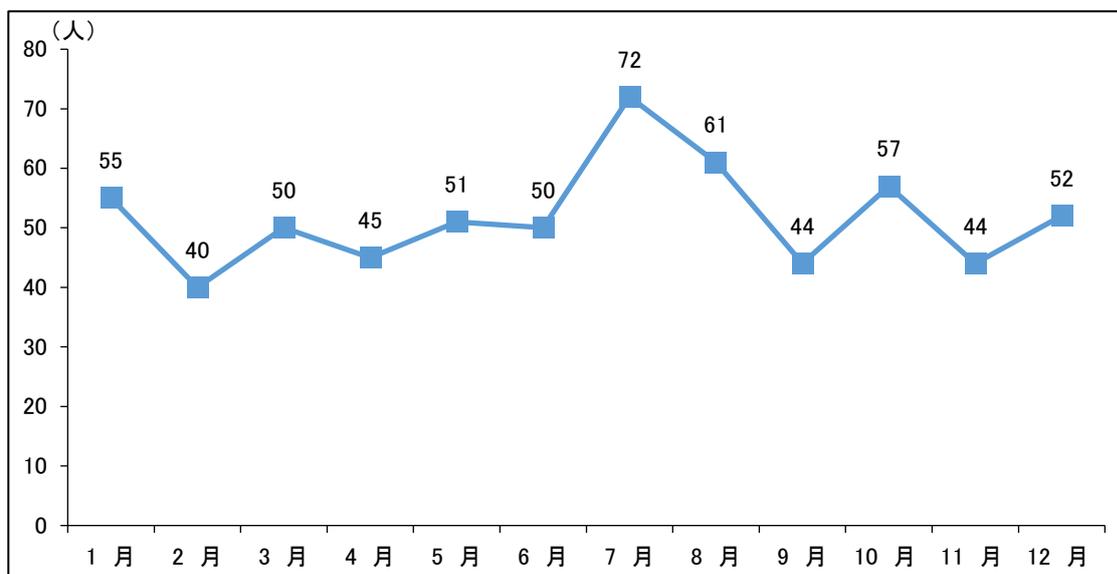
郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

分野6 防災・環境安全

- (10) 労働災害による時間・曜日・月別救急搬送者数
(2014<平成26>年～2020<令和2>年累計救急搬送者)

ウ 月別

「7月」が72人で一番多く、次いで「8月」が61人、「10月」が57人となっている。

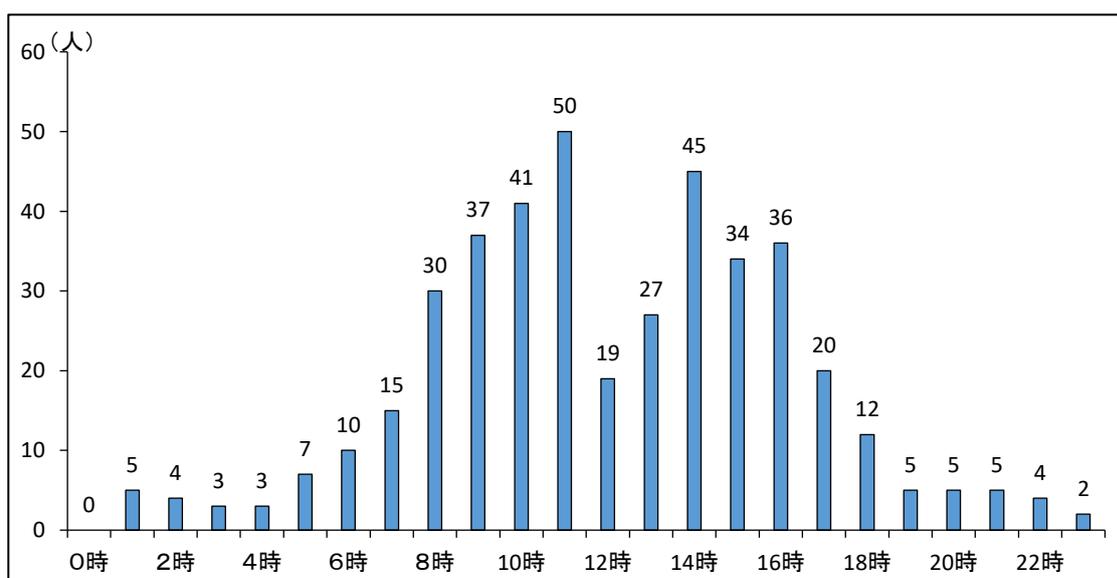


郡山地方広域消防組合「平成26～令和2年 救急搬送データ(国表)」より

- (11) 郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数

ア 時間帯別

「11時台」が50人で一番多く、次いで「14時台」が45人、「10時台」が41人となっている。



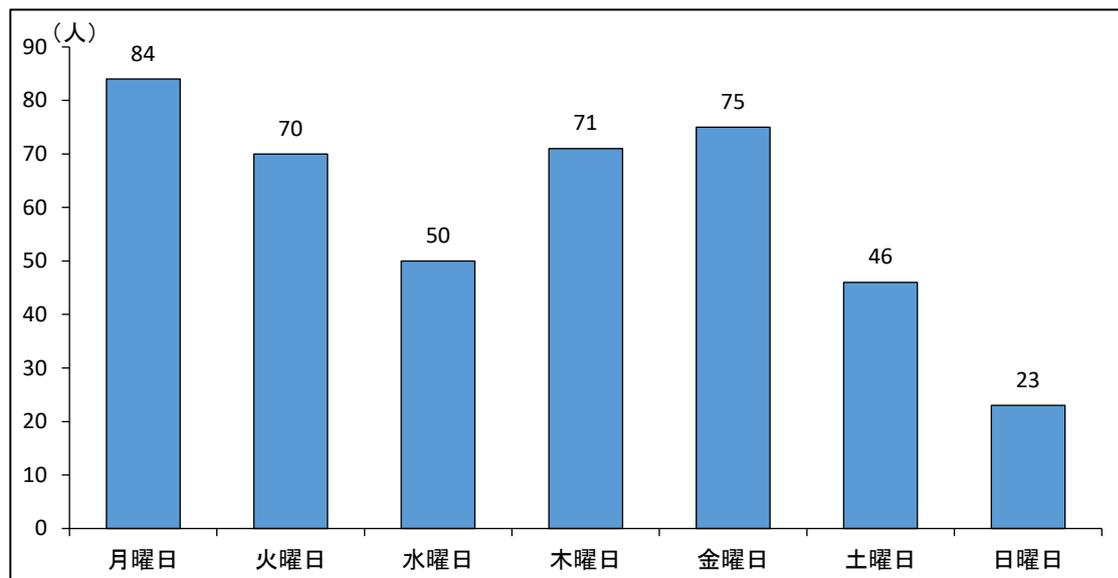
郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(11) 郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数

イ 曜日別

日曜日は23人と一番少なく、休日明け月曜日が84人と多くなっている。



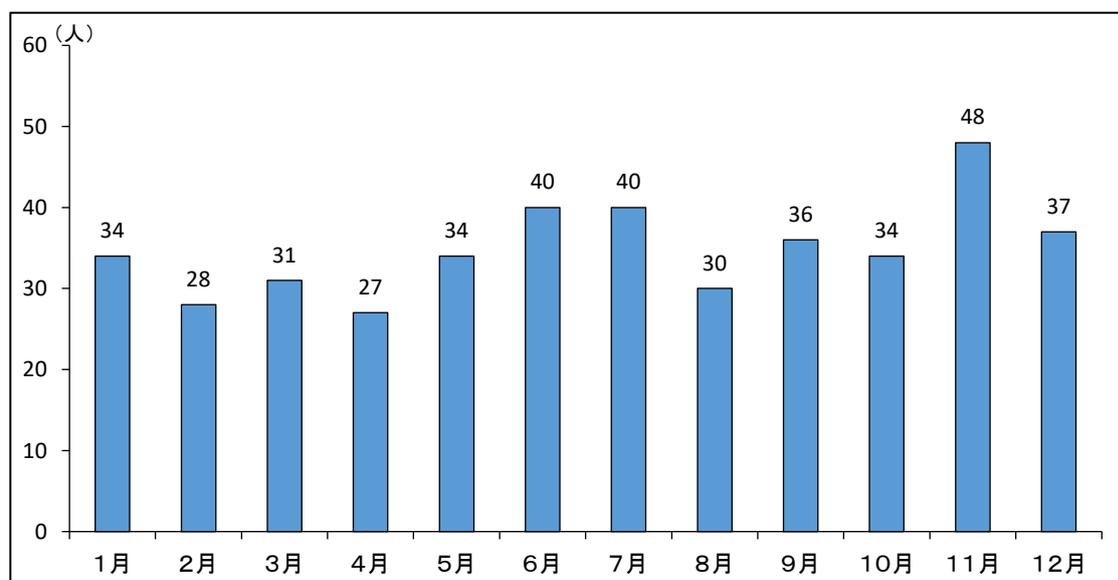
郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

(11) 郡山市の時間帯・曜日・月別労働災害による死傷者数

ウ 月別

4月が27人と一番少ない。

また、11月が48人で一番多く、次いで6、7月が40人となっている。

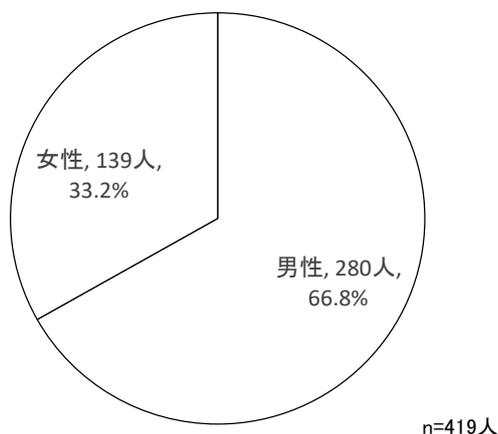


郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(12) 郡山市の男女別労働災害による死傷者数

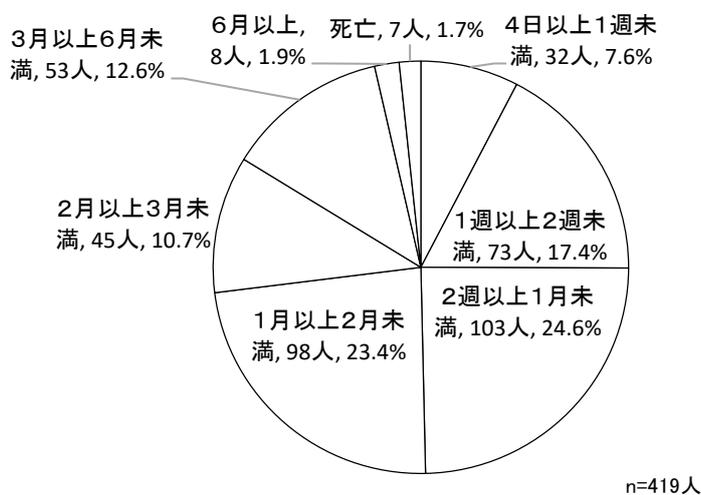
男性が66.8%、女性が33.2%である。



郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

(13) 郡山市の休業見込み期間別労働災害による死傷者数

「2週以上1月未満」が24.6%で一番多く、次いで「1月以上2月未満」が23.4%、「1週以上2週未満」が17.4%となっている。

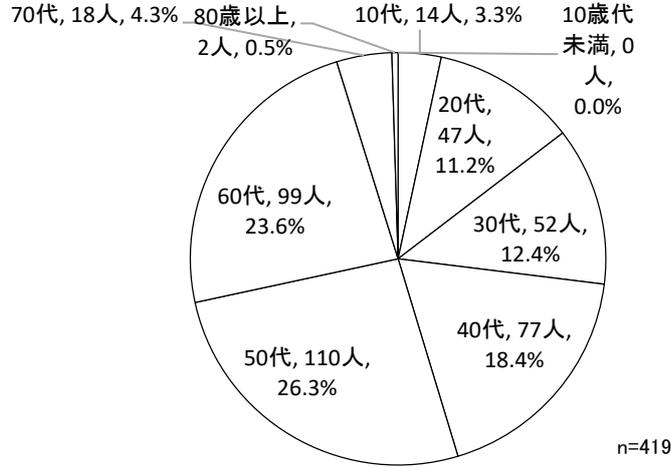


郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(14) 郡山市の年代別労働災害による死傷者数

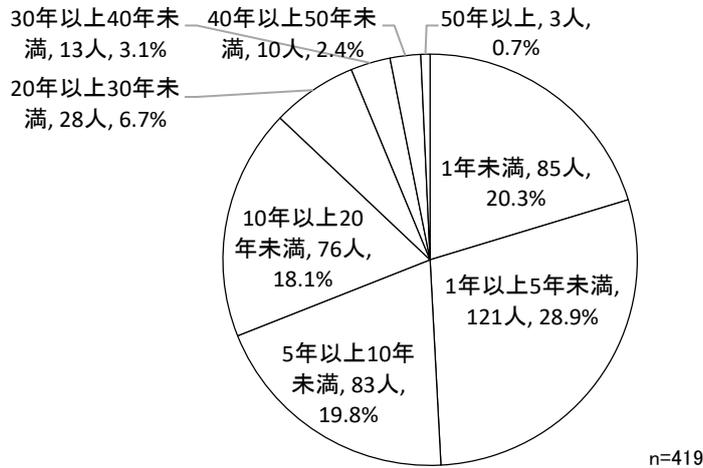
「50代」が26.3%と一番多く、次いで「60代」が23.6%、「40代」が18.4%となっている。



郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

(15) 郡山市の経験年数別労働災害による死傷者数

「1年以上5年未満」が28.9%、次いで「1年未満」が20.3%、「5年以上10年未満」が19.8%となっている。

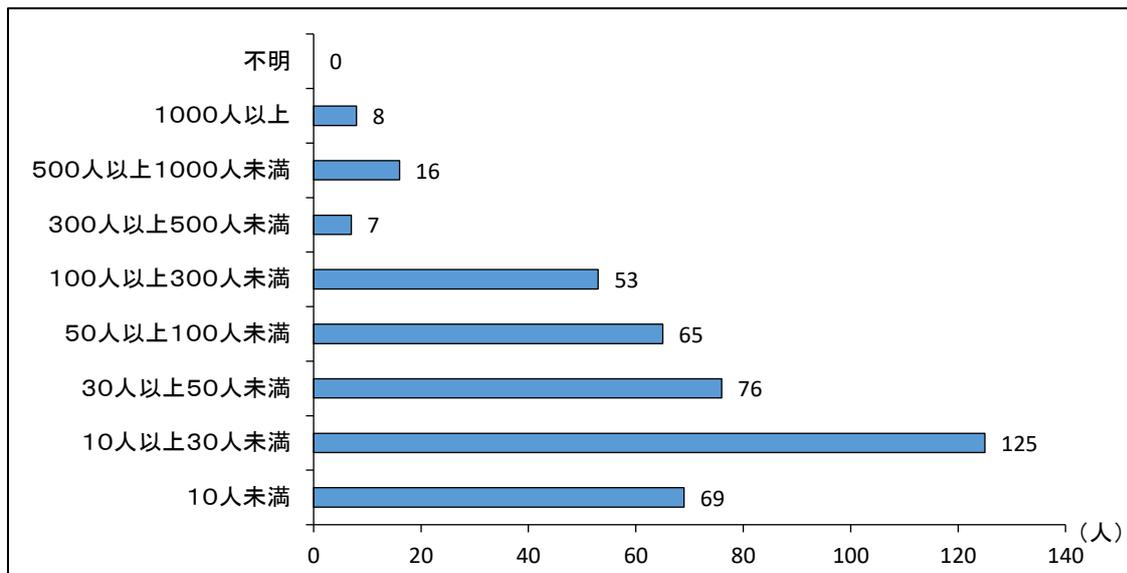


郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

(16) 郡山市の労働者数別労働災害による死傷者数

「10人以上30人未満」が125人で一番多く、次いで「30人以上50人未満」が76人、「10人未満」が69人となっている。

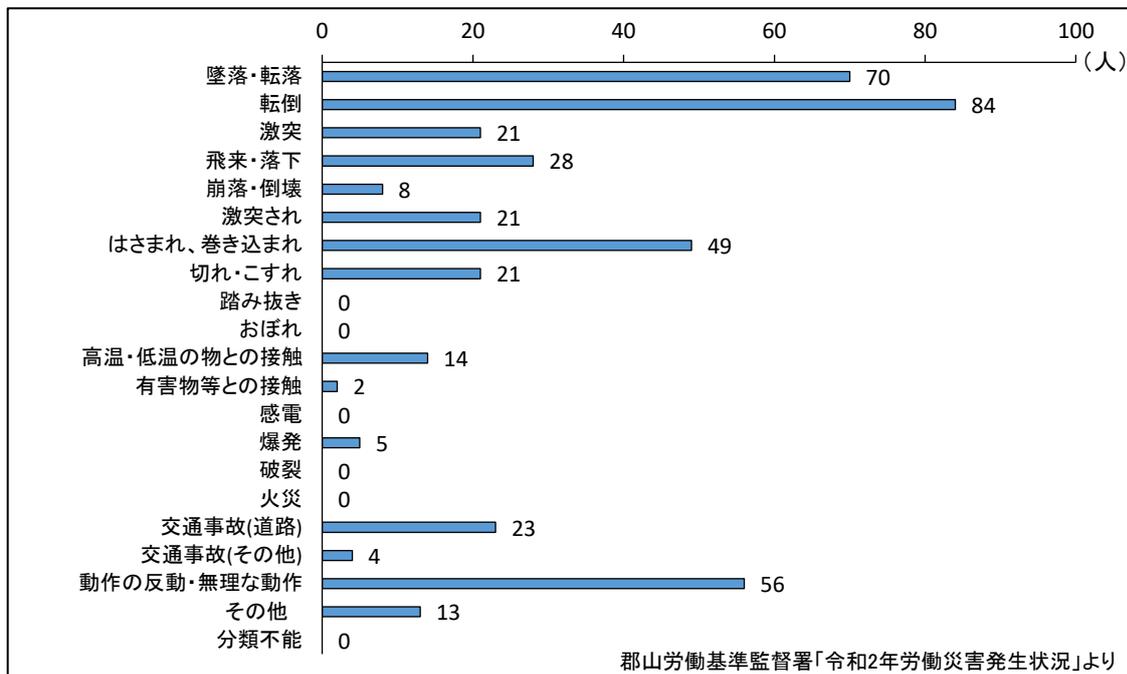


郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

分野6 防災・環境安全

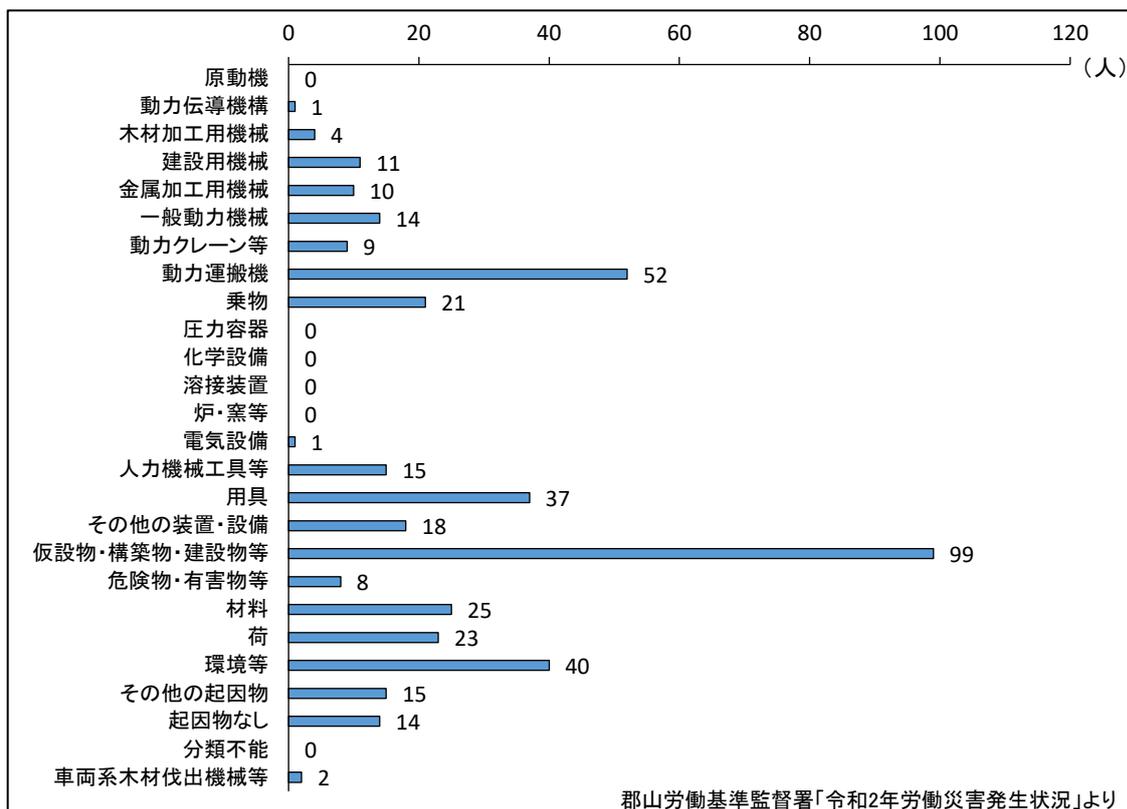
(17) 郡山市の事故の型別労働災害による死傷者数

「転倒」が84人で一番多く、次いで「墜落・転落」が70人、「動作の反動・無理な動作」が56人となっている。



(18) 郡山市の起因物別労働災害による死傷者数

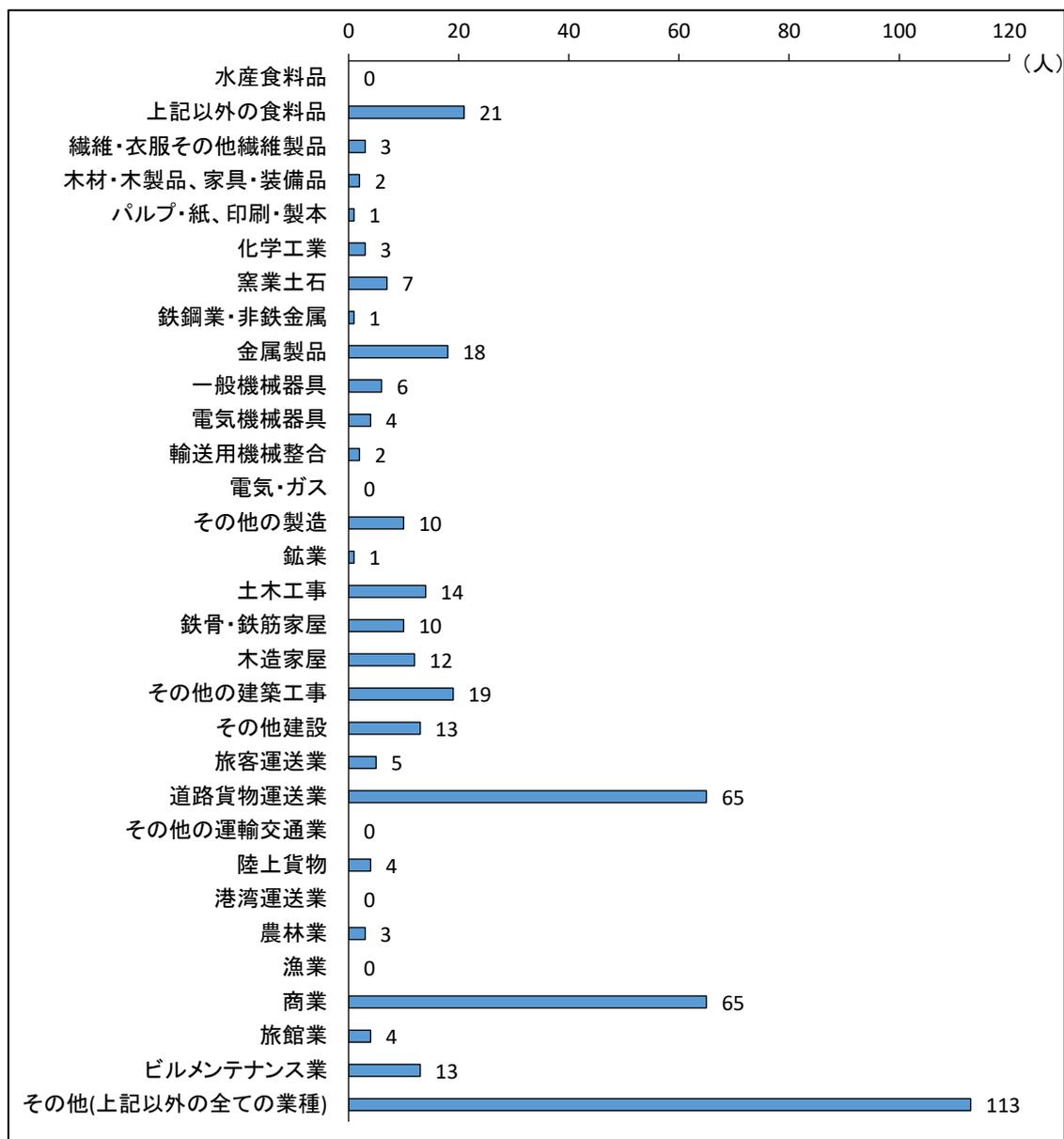
「仮設物・構築物・建設物等」が99人で一番多く、次いで「動力運搬機」が52人、「環境等」が40人となっている。



分野6 防災・環境安全

(19) 業種別労働災害発生状況

「その他」が113人で一番多く、次いで「道路貨物運送業」、「商業」が65人となっている。

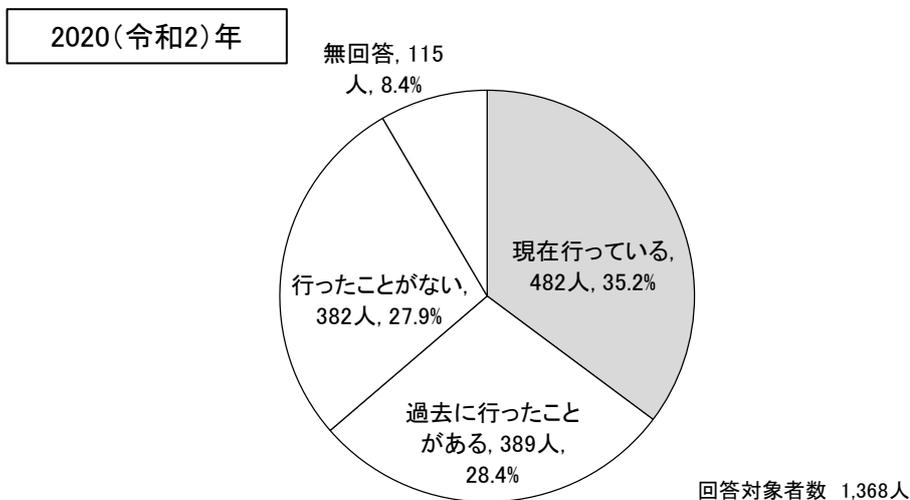


郡山労働基準監督署「令和2年労働災害発生状況」より

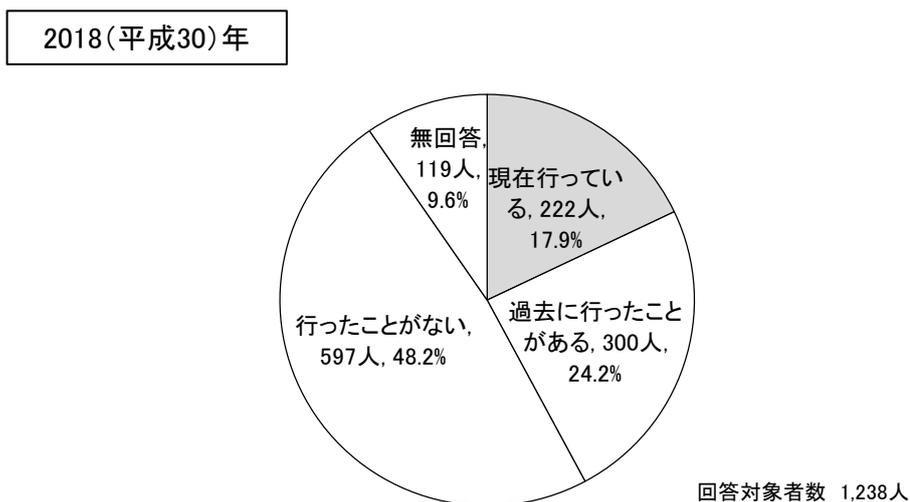
分野6 防災・環境安全

(20) 防災活動の取組状況 (例) 非常備蓄品の準備、防災訓練への参加など

「現在行っている」を比べてみると、2018(平成30)年が17.9%、2020(令和2)年が35.2%と2018(平成30)年に比べ17.3ポイント上昇した。



「令和2年度セーフコミュニティ市民意識調査」より



「平成30年度セーフコミュニティ市民意識調査」より